

令和7年度 介護のしごとと魅力発信等事業



株式会社マガジンハウス

令和8年4月

事業報告書

目次

目次	…… p.01
事業目的・内容	…… p.02
本事業における我々の考え方	…… p.03
本年度事業の目標と指針	…… p.04
プロジェクト全体像	…… p.05
企画委員会の設置	…… p.06
企画委員会の開催	…… p.07
anan特集「自分の存在が価値になる。個性を活かせる介護のしごと。」	…… p.13
POPEYE特集「介護の仕事のことをちゃんと知ってみたいか？」	…… p.23
こここ連載「“自分らしく生きる”を支えるしごと～介護の世界をたずねて～」	…… p.34
こここ新連載「ケアするしごと、はじめの一步」	…… p.36
「anan×POPEYE ×こここ」連携冊子制作・全国書店配布	…… p.43
小学生向け冊子の活用促進（読書会）	…… p.48
イベントによる情報発信	…… p.54
ケアするしごとツアー	…… p.87
プレスリリース配信	…… p.115
事業効果測定	…… p.116
総括	…… p.117

事業の目的・内容

事業目的

イベント、テレビ、WEB等を活かした取組を通じて、全国に向けた情報発信を行うことにより、多くの国民が、福祉・介護の仕事について新たに関心を持ち、理解を深めるとともに、その仕事の魅力を感じられるようにすることを目的とする。

事業主眼

介護が単に仕事としての介護だけでなく、SDGsや災害対応等社会課題の解決にも資するものであり、希望ややりがいを持てる仕事であることを意識したコンテンツ制作及び全国へ向けた広範な発信を実施し、不足する介護職の増加に寄与する事業を目指す。

事業内容

● 企画委員会の設置

- 実施主体の事業内容に対して客観的な立場から技術的・専門的助言等を行う企画委員会を設置する。
- 企画委員は、事業目的に応じて、学識経験者、有識者、職能団体、事業者団体、教育関係団体等からなるものとする。
- 企画委員会による専門的知見を踏まえて、事業内容を決定する。

● 事業間連携会議等への参画

- 事業間連携等事業の実施主体が開催する「事業間連携会議」及び介護の仕事のイメージアップに対する機運を高めることを目的に都道府県事業の関係者等を含めた会議・イベントに参画する。

● イベント、コンテンツ制作、情報発信等の実施

- イベント、コンテンツ制作、情報発信等の実施にあたっては、多くの国民から新たに関心を得られるかという観点を踏まえ全国的な波及効果の期待できる事業内容を検討する。
- イベント、コンテンツ制作、情報発信等の実施に先立ち、情報発信事業の各実施主体及び事業間連携等事業の実施主体とも連携しながら、各種広告媒体を活用した周知を行う。
- 幅広く周知を行うためには、各実施主体のネットワークを交互に利用できるようなことが効果的であるため、情報発信事業を実施する他の実施主体間および事業間連携等事業との間で相互に連携を図りながら事業を実施する。特に、介護職発信事業については、情報発信の部分を、全国に向けた情報発信事業やWEBを活用した広報事業に置いて実施するため、介護職発信事業実施主体の企画内容を早急に把握し、企画内容を踏まえた情報発信の手法を検討するなど、密な連携を取り事業を実施する。
- 本事業で行う取り組みまたは本事業により制作した成果物は、国民の誰もがアクセスできる形態とする。

● 事業効果の分析等

- 事業実施にあたっては、厚生労働省社会・援護局福祉基盤課及び事業間連携等事業の実施主体と協議の上、アウトカムの測定指標や測定方法を設定し、これに沿って実施事業の自己評価を行うとともに、事業間連携等事業等で実施する事業全体の効果分析の取り組みに協力するなど、個々の事業及び全体の事業効果の最大化に向け取り組む。
- 自己評価にあたっては、事業実施における課題を整理するとともに、企画委員等の専門的・技術的助言も参考にし、課題解決に向けた分析・考察も加える。また、介護職発信事業との連携した情報発信にあたっては、企画内容等を踏まえ、事業効果の分析をどのように行うかについても、密に連携を取りながら実施する。

介護のしごとへまだ関心を持っていない若者層へ向けて、 興味喚起から理解促進、そして選択肢化へ、情報発信を戦略的に実施します。

私たちは本事業にあたり、介護のしごとに対してまだ関心を持っていない、職業選択の想定に入れていない20から30代の若者層をメインターゲットにした情報発信活動を展開します。

また、より若い年代への啓蒙啓発も重要と考え、昨年度に続き、小学生向け（併せて、親や教員への理解促進も想定した）活動も継続して実施する計画です。

福祉・介護の現場では、さまざまな課題や悩みが存在し、高齢者の看取り、認知症ケア、障害者の生活・雇用支援等の取り組みが行われています。その現場のリアルを捉え、その上で、科学的、医学的、人間的アプローチのやりがい、クリエイティビティ、楽しさを伝えようと考えます。

さらに、職業としての待遇・条件面、職場・労働環境面、キャリアアップなどの正確な情報をとらえ、「介護職」に対する、実態とは異なる誤解やネガティブな印象を少しでも払拭すべく、情報発信していく姿勢で臨みます。

私どもマガジンハウスは、一昨年度より2年間本事業に取り組み、若い層に人気の雑誌 anan、POPEYEの誌面やWEB、トークイベント、オリジナル冊子の全国配布を通して幅広い層に興味喚起を行いました。また、福祉をテーマにしたウェブメディア「こここ」での記事連載やイベント等を通して理解促進にも取り組みました。こうした興味喚起から理解促進、そして情報リサーチといった行動変容を促す情報発信を、今年度はよりダイレクトかつ精緻に取り組む所存です。

「ケア」という概念は、個対個を超え、コミュニティ、社会全般に必要とされるようになってきました。こうした俯瞰的視座を、今はまだ無関心・未関心の若年層に向けて、具体的にわかりやすく、そしてクリエイティビティに溢れる姿として発信していきます。

マガジンハウスは、メディア運営のスキル、クリエイターや著名人との関係を通じて、これまでも現在も多くの読者と出会い、共感を軸につながり、一定の影響を持つチームです。私たちが、福祉・介護の現場で優れた実践を行っている事業者や専門家と連携しながら、福祉・介護にこれまで出会っていなかった層も含めて、多くの方と発信を通して出会い、つながり、福祉・介護のしごとへの理解や従事への第一歩をつくる事業を展開いたします。

コンテンツの質、そして、戦略的なコンテンツ展開を通して、単年度のみならず、今後に残る情報発信活動をデザインして参ります。



1

介護のしごと無(未)関心若年層への興味喚起・認知拡大・理解促進

日本の高齢化社会で増大する介護のニーズに応える人材確保のために、20~30代を中心とした若年層への興味喚起、認知拡大と理解促進。

2

プレ若年層(小学生)への興味喚起・認知拡大・理解促進

進路職業選択を具体的に決める高校生、大学生より早い早期の段階で、「ケア」や「介護のしごと」への興味や理解を図る活動も必要。昨年度実施した冊子の活用を軸に、小学生向けのレクチャーマニュアルの制作とモニタリングの実施。

3

広報戦略を緻密に設定し、多様なアプローチと効果検証を行う

興味喚起→理解促進→情報取得→入職動機の喚起へ向けた広報戦略を策定し、メディア・イベント・動画・SNS等を活用して立体的・戦略的な広報活動を展開する。メディア運営の知見を活かし、コンテンツの質と量の最適化・最大化を意識しながら効果検証を実施する。

4

介護職の先進事例、良質な事例を掘り起こし、やりがいをリアルに伝える

福祉・介護の仕事の価値を発見・発信していくにあたり、社会的関心を持つが介護のしごとに関してまだ未関心な若年層に対して、やりがいと社会的意義を感じながら働く同世代介護ワーカーの事例を掘り起こし、福祉・介護の現場のリアルを伝える。

5

労働条件・キャリアアップ・ワークライフバランス等業務環境のリアルを伝える

意義ややりがいというストーリーとは別に、より具体的な給与、労働条件、職場実態、キャリア形成、ワークライフバランス、多様な働き方の選択肢などの情報面もサポートする。

6

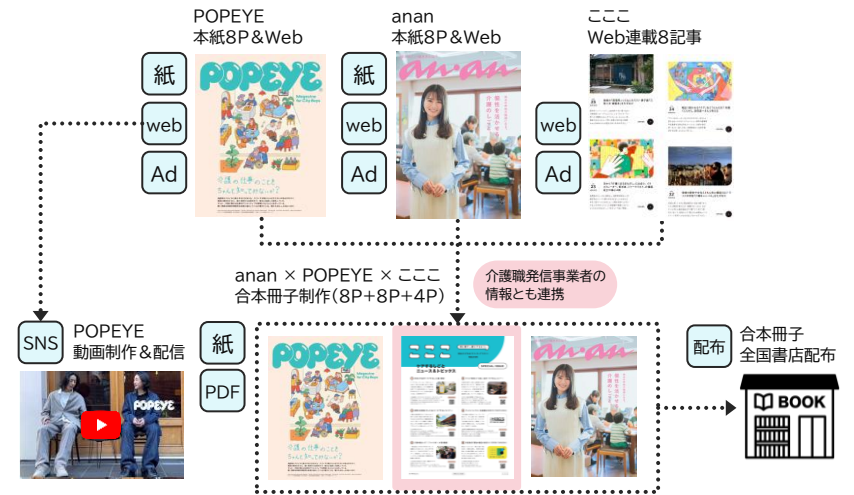
事業間連携等事業（特に介護職発信事業実施主体）との連携強化

各情報発信事業実施主体や介護職発信事業実施主体との連携を強化し、それぞれの事業コンテンツの連携により広報効果を拡大しながら、広範な層へのアプローチを図る。

事業プロジェクト全体像

WHO	WAHT	TOUCH POINT	HOW
無(未)関心層	興味喚起	メディア(紙・Web)	anan
		メディア(紙・Web)	POPEYE
		メディア(Web)	こここ(連載1)
		Web・SNS発信	Web記事広告配信
		全国書店 / 各イベント	Webを活用した情報発信事業と連携 連携冊子制作・配布 連携冊子に介護職発信を掲載
		動画SNS発信	動画制作・配信(POPEYE)
		関東イベント	体験型コンテンツ(複数) ケアするしごとのことば展 親子向けコンテンツ
関心層	理解促進	メディア(Web)	こここ(連載2)
		関東イベント	トーク・ワークショップ 介護職発信事業連携コーナー
		視察ツアー	ケアするしごとツアー
		紙・PDF展開	小学生向け冊子マニュアル

※関東イベントでは、介護職発信事業連携コーナーを設けて事業間連携を強化します。



福祉・介護の仕事について新たに関心を持ち、理解を高めるとともに、仕事の魅力を感じる状態

企画委員会の設置

多くの国民が、福祉・介護の仕事について理解・関心を深めるとともに、その仕事の魅力を感じられるようにするため、学識経験者、有識者、職能団体、事業者団体、教育関係団体等からなる企画委員会を設置。また、前年度に設置した若手企画委員会も継続し、本年度事業への関わり方を強化。

企画委員会 委員

秋本可愛さん

株式会社Blanket代表取締役
KAIGO LEADERS発起人

大崎雅子さん

社会福祉法人海望福祉会
理事・総合施設長

川村岳人さん

立教大学コミュニティ福祉学部
准教授

森下静香さん

Good!Jobセンター香芝
センター長

矢島進二さん

公益財団法人日本デザイン振興会
理事

企画委員会開催日

第1回：8月21日（木）

第2回：12月4日（木）

第3回：2月19日（木）

若手企画委員会 委員

森近恵梨子さん

KEY STATION
マネージャー

佐藤悠佑さん

特定非営利活動法人
Startline.Net代表理事

井原純平さん

ソーシャルワーカー
(精神保健福祉士) 写真家

はたつんさん

介護福祉士
インフルエンサー

村上 一真さん

WILL株式会社
訪問介護事業部

若手企画委員会開催日

第1回：9月17日（水）

第2回：12月4日（木）

第3回：2月20日（金）

企画委員会の開催

開催日

第1回:令和7年8月21日(木)09:00-10:30

○ 参加者:企画委員

秋本可愛氏、大崎雅子氏、川村岳人氏、森下静香氏、矢島進二氏

○ オブザーバー

厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室 様

PwC コンサルティング合同会社 様

○ 実施主体

マガジンハウス

■ 議題

・今年度事業の概要説明

・今年度事業に対する意見聴取

↳ 介護のしごとに対する既存イメージを変えるために重要な事や有効な方法等について議論

■ 企画委員からの主なコメント

| 事業全体

・充実した企画内容。昨年から整理されてより深く届けられる企画も、より洗練された企画内容もあるのでは

・過去2年から整理されブラッシュアップされた印象

・関心がやすい・無関心層の個人だけでなく、福祉団体・中間支援団体への支援(広報支援、イベント開催、WEBリクルートの方法など)があるとよいのでは

・コンセプトが非常によい

・マガジンハウスが持つファッション・アート・カルチャーを入り口に「介護で働く人々との出会い」をどう作っていくかがポイントになるのでは

| ボーナストラックとの連携について

・若年層が立ち寄ることの多い場所でより届けられるようになるのでは

・下北沢 おしゃれで感度の高い人たちの馴染みのある街、そうでない層をイベントに誘導していくかもポイントになるのでは

・小田急との告示活動も、無関心層にも届けられるよい機会になるのでは

| 展示イベントについて

・大塚製薬さまの「認知症ケア支援VR」FACEDUO などとの連携もできるのでは
・下北沢で行われた展示やイベントの一部を別場所で展開できる可能性はあるか？

| ananについて

・若い人が親しみのある媒体で、単発で終わらせるのではなく繰り返すことで読者の意識に留まり続けることができるのでは

・若年層はプライベートを含めたライフスタイルを重視する傾向にある。記事のなかでも人となりが見えるといいのでは

| 小学生向け冊子について

・配布・使い方として知的財産権について学ぶカードゲームや紙芝居を作成している。毎年「こども霞ヶ関」イベントで2日のワークショップ・シール配布をしていた(文化庁)。関心の高い親子連れとふれあうことができた。そうしたアプローチも非常に効果的なのではないか

・大きな可能性を感じたのでぜひ活用してほしい

・小学校との連携、授業で取り上げてもらえるような道筋を

・子どもへの出前授業・部活動の一環としての活用は時間はかかるかもしれないのですが、効果があるのでは

・今年夏に介護経営サミットが開催されるが、そこでの連携も余地があるのでは

・サミットの最後に設けられている時間で情報共有することは可能

・出前授業の際の講師が必要な際には、関連する福祉団体や会員法人、HERO'Sなどの人材を講師を派遣することは共有可能

| ツアーについて

・「選択肢の可視化」にむけて、多岐にわたる介護について、明確に伝わる機会にすることで、関心へと導く窓口になるのでは

・ツアーと小学生向け冊子との連携なども検討してみても

| 効果測定について

・字でみる以外の方法があるのか興味深い

企画委員会の開催

開催日

第2回: 令和7年12月4日(木)13:00-14:30

○ 参加者: 企画委員

大崎雅子氏、川村岳人氏、森下静香氏、矢島進二氏 ※秋本可愛氏はご欠席

○ オブザーバー

厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室 様

PwC コンサルティング合同会社 様

○ 実施主体

マガジンハウス

■ 議題

- ・今年度事業の進捗状況説明
- ・事業に対する意見聴取
- ・質疑応答

■ 企画委員からの主なコメント

| anan・POPEYE特集記事について

- ・介護のしごとを伝えるうえで非常に有効なのでは
- ・実際どうなのか、データやかみ砕いて伝えていくコンテンツが必要なのではないか(例: 幸せ本のデータ部分)

| 展示イベントについて

- ・事前集客も非常に上手
- ・イベントコンテンツのターゲットングもうまく出来ていたのでは
- ・仕立て丁寧でよい企画だと思う 綿密さが響いた
- ・VR認知症 潜在的な関心が拾えているのでは
- ・誤解が多い認知症について、知っていることで受け入れやすくなり、さらなる理解を深めるのに不可欠なのではないか
- ・課題や手ごたえをブラッシュアップしてぜひ継続を
- ・東京での開催が多い。それをほかの地域に巡回していく、次年度以降も使っていけると非常にいいのではないか

- ・夜の参加だと見えにくい場所があった
- ・ことばだけだとよりハードルがある印象

| トークショーについて

- ・あのテーマで多彩な来場者を集客できたことは、潜在的なニーズやユーザーがいるのではないか

| ツアー企画について

- ・参加者もしっかり集まっていて関心層に情報が届いている証かなと思う

| 小学生向け冊子について

- ・活用に入っているのがよいと思った
- ・コンテンツを作成することで次年度以降に活用につなげていける強みがある

| 今後の事業展開やターゲット層について

- ・資料を見た限りとても緻密な印象
- ・マガジンハウスならではの届け方になっている
- ・アンケートも丁寧な記述が目立つ。ユーザーに刺さっているからこそ返答も濃くなっているのではないか。それがひいては福祉業界で働く方々の励みにもなるのではないか
- ・社会の認知の向上と処遇の底上げの両輪で一緒に取り組んでいきたい
- ・介護職の人々が誇りを持たれる部分ももうひとつの効果として無視できないのでは。社会に波及していくことで仕事を続ける後押しになるのではないか
- ・福祉の専門職(ソーシャルワーカー)も取り上げてほしい
- ・企画が想定していたユーザーにしっかりリーチしたのでは
- ・アンケートの記載、長文の方も多く、しっかり刺さった証ではないか
- ・冊子にはマイナス的なリアルな情報もあったほうが、真剣なユーザーに伝わる部分があるのでは

企画委員会の開催

開催日

第3回: 令和8年2月19日(木)13:00-14:30

○ 参加者: 企画委員

秋本可愛氏、大崎雅子氏、川村岳人氏、森下静香氏、矢島進二氏

○ オブザーバー

厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室 様

PwC コンサルティング合同会社 様

○ 実施主体

マガジンハウス

■ 議題

- ・今年度事業の進捗状況説明
- ・事業に対する意見聴取
- ・質疑応答

■ 企画委員からの主なコメント

| ツアー企画について

- ・働いている人や介護の仕事の魅力を発信する事例として、ふさわしい施設だった。長く働かれているスタッフも多く、人柄は極めて良く、魅力が伝わるツアーになっていたのが、福祉職への意外性も含めて参加者は感心したのではないかと
- ・ツアー参加者も多様で、参加した皆さんに何かしらの気づきが沢山あったのではないかと
- ・同じタイミングで、日本の福祉の現場の視察と思われる多数のシンガポール人がきていた
- ・現場で実際に働いている人の話を聞いて、リアリティのあるテキストにまとめて外部に発信していくことの意義はとても高いと感じた
- ・遠方からの参加者も多かったと聞いて、参加人数が少ないのはもったいないという印象(質の担保や現場の受け入れ体勢などもあると思うが…)
- ・学生にツアーを紹介してみた所感は、「誰か一緒に行く人がいたら…」「先生が行くなら…」という意見が多かった。例えばゼミ合宿の一環として参加するような方法もあるのではないかと
- ・blanketは事業的に広報でリーチできるのは既存の介護職が多いため、川村ゼミのように、学生とのコラボや合宿の機会を検討できるなら嬉しい

| anan・POPEYE特集記事について

- ・福祉業界と関係がうすい人たちも多く手に取る雑誌、流行の紙面のなかに自然な流れとして福祉の特集が組まれているのはすごくいい。媒体に出て行く価値があると思う
- ・福祉の仕事に、カジュアルに触れられる機会をつくれるのはマガジンハウス事業の大きな価値では

| 小学生向け冊子について

- ・学科で、貧困状態に対する偏見をどう解消するのか、ボードゲーム形式での体験型ゲームの開発を行っている。冊子などもそうした展開方法や連携の可能性があるのでないかと

| 今後の事業展開やターゲット層について

- ・子ども向け冊子のように、普及や活用に向けた次の展開がある媒体をつくっていくことで、横展開や広がりが生まれていくと思う
- ・冊子だけでなく、カードゲームやオンラインゲームのようなコミュニケーションがとれるもの・体感できるものを組み合わせると創るというアプローチもいいのでは
- ・福祉・介護現場の現状を知ることは、就職時の検討材料や、将来の選択肢として役に立つのではないかと。現場をもっと知れるものや、知りたいと思っている人のニーズにフォーカスした情報発信について考えてみてほしいのでは
- ・介護職のモチベーションや働きつづけたいと思えるように、福祉事業者が実施している研修会や・学びの機会の好事例について発信することも可能性があるのではないかと
- ・介護の現場はさまざまな規模感がある。それぞれの良さや特徴、得意なこと(例:大規模だからこそ地域に対してアクションできる、小規模だからこそ小回りがきいて様々な事業者や企業とコラボしやすいなど)を具体的に伝えることで、働きたいと思っている人も、より細分化された状態でイメージが湧きやすくなるのでは
- ・「福祉学科」と聞いた時点で、学生も「自分とは関係ない」とってしまう人が多い。職業としての介護職についても、同じような意識が働く人も多いのでは
- ・実際の介護現場は他職種からの転職も多い。転職者が感じる福祉の仕事の面白さ・魅力を丁寧に発信していくと、選択肢のひとつとしての可能性を感じてもらえるのではないかと
- ・地方自治体・地方の人材など、媒体の「伝承者」を、各地域に連携して生み出していくような活動が、次の展開としてあるのでは
- ・現職者がスキマバイトで別施設に行くことや、転職先の検討として利用することもある
- ・HEROS、地方版や学生版のものを展開しようと企画中、そこでのコラボレーションの可能性もあるのではないかと
- ・「入口のつくりかた」みたいな形でのレポートがあると、継続するなかで見えてきた視点や、前年度との比較など、福祉事業者のヒントになるノウハウが共有できるのではないかと

若手企画委員会の開催

開催日

第1回:令和7年9月17日(水)13:00-14:30

○ 参加者:若手企画委員

井原純平氏、佐藤悠佑氏、はたつん氏、森近恵梨子氏、村上一真氏

○ オブザーバー

厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室 様

PwC コンサルティング合同会社 様

○ 実施主体

マガジンハウス

■ 議題

- ・今年度事業の概要・進捗状況説明
- ・今年度事業に対する意見聴取

■ 若手企画委員からの主なコメント

| 事業全体について

- ・R7年度はさらに目的が明確化し、全体像の解像度が上がっている印象。
- ・前回イベントに参加した体験が非常によかった。今年もイベントがあるとのことなのでWEBとの更なる連携に期待。
- ・差別化ができていて面白い切り口。WiLLは80%が20-30代の会社で若年層が多い。若年層向けの発信(自由度があることや会社の雰囲気、ダブルワークでの活動など)を積極的に行っているからだと感じている。こんな人が介護に関わる仕事をしているんだ!と思ってもらえるような、ギャップを積極的に発信して欲しい。

| anan・POPEYE特集記事について

- ・現状、施設の取り組みに焦点をあてた記事が多く、それもいいが、日々仕事をしている中で、介護の仕事の実際の面白さはもう少しミクロなところにあるように思う。利用者との中長期の関わりによる変化など、人に焦点をあてた記事が増えるといいかもしれない。
- ・茨城県の福祉施設の方と話した際に、外国人人材というテーマはこれから重要になってくる視点だと気づいた。海外出身の若年層をターゲットしていくのもいいのでは。施設によっては、海外人材をメインに採用を行っているところも増えてきている
- ・外国人というテーマは注目のコンテンツだと考えている。専門学校の新入生 24名中6名が外国人(20代後半・語学も堪能)。日本の介護を学びにきており、日本を選びにきている方々なので、日本のカルチャーへの関心も高い。anan、POPEYEとの相性もいいのでは?

| 小学生向け冊子について

- ・昨年配布されたものを専門学校生向けの授業でも使用していて好評
- ・昨年度のものを配布し、事業者からも非常に好評だった

| 改善や工夫の余地について

- ・企画は素晴らしいと思うが、更なる発信をしていくために巻き込み力がたりていないと思う。アンバサダーや介護をテーマにしたコンテスト、フォトブースなど、広めたくなるような施策や広めてくれる人たちを作っていく必要があるのでは。

若手企画委員会の開催

開催日

第2回: 令和7年12月4日(木)10:00-11:30

○ 参加者: 若手企画委員

井原純平氏、佐藤悠佑氏、はたつん氏、森近恵梨子氏、村上一真氏

○ オブザーバー

厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室 様

PwC コンサルティング合同会社 様

○ 実施主体

マガジンハウス

■ 議題

・今年度事業の進捗状況説明

・事業に対する意見聴取

・質疑応答

■ 若手企画委員からの主なコメント

| 事業全体について

・事前に想定されていたジャーニー通りに行動変容が起きていた。アンケートがしっかりと集まっていたよかった。

| anan・POPEYE特集記事について

・特集で選定されているクリエイターが前回より尖っていて、他の業界でもトップを走っているような方々であることがいいなと感じた。ぜひ続けて欲しい。(例: ロマンディスコ DJ×介護 <https://www.instagram.com/gen1106/>)

| ケアリングノーベンバーについて

・演劇ワークショップ: 介護現場を体験できた。自身が演劇経験あり。演劇と介護の面白さに共通点がある。ワークショップが終わってまず感じたのが「明日仕事にいくのが楽しみだな」ということ。介護関係者だけでなく、場所柄か、演劇関係者が多く参加していたのがいいなと感じた。

・トークイベント: 介護職である自分としては非常に面白かった。ケアとは何か、という問いに対して結論を出そうとするのではなく、考え続けようとする姿勢がよかった。

・ことば展: トークショー後に夜見していたら、通りがかりの方に話しかけられた。そういった思いがけない交流があるのがよかった。介護職としては、刺さる言葉が多く介護職への思いが深まった。全く介護に関わりがない方から見たらどう受け入れられるたのかは調査の結果を見てみたい。

| 小学生向け冊子について

・専門学校の生徒たちにも配布した。小学生向けだが、大人でも読むべき内容。課題はどのようにこれを活用し広めていくか。

| 改善や工夫の余地について

・コンテンツにボリュームがあり素晴らしいが、この豊富なコンテンツをどのように広げていくかが課題

- 発信のやり方を変える(映像→本に繋げる)

- アンバサダーをつけるなど

- ことば展 写真に思わず撮りたくなるような言葉をピックアップしてみる(例: いい人すぎるよ展など)

- 体験型展示より自分ごと化できるように「自分が介護施設入ったら？」などのテーマも面白そう

- 有名人で介護としていた方の特集をしてみる など

・ケアノベ ことば展冊子: イベントに参加した。自分のことを書く欄があり、普段開いてこなかった扉を開かれた気がした。誰かの言葉があるのもいいが、自分の言葉も投稿できるようなコーナーがあってもいいと思った。

・ケアリングノーベンバートークショー: 無関心層が聞いた時に、トークショー後にどうアクションを起こせばいいかが不明確だったかもしれないと感じた。一方的に聞く時間が多かったので、より参加者が自ら参加できるようなワークがあってもよかったかもしれない。

・anan/POPEYE/こここ合本冊子: 載っている方々がいわゆる介護職の方っぽい(柔らかい、優しそうなど)印象の方々。もっと意外性のある方を取り上げてみてほしいのでは。

・一番やりたくない仕事だったから介護職を選んだという方がいたのがよかった。無関心層にも刺さるのでは。

・綺麗な施設の紹介と、実際の介護職の仕事内容とのギャップが生まれにくいのは懸念に感じた。

・利用者の方の時間軸をもった関わりや変化(介護の仕事の魅力)を紹介できるといいなと感じた。

・毎度ピックアップされる芸能人が優しい女性芸能人なのは少しもったいないように感じた。人気のあるクールな印象の男性芸能人(熱量のある女性ファンがいる方)などを起用してみるのも、ファンの行動にも繋がりが面白いのでは？

・介護を身近な存在と感じてもらうための切り口をより見せていくのがいいのでは。

・「介護」と一口に言ってもさまざまな種類があるので、色々な種類の介護をより具体的にを見せていくと良さそう。

・一般に想定されるような介護のステレオタイプな見せ方ではなく、「介護っぽくない」意外性を見せられるとより多くの人に刺さるのでは。現場では、本質的な「人との関わり」に魅力を感じてくれる方多い。

若手企画委員会の開催

開催日

第3回: 令和8年2月20日(金)10:00-11:30

○ 参加者: 若手企画委員

井原純平氏、佐藤悠佑氏、はたつん氏、森近恵梨子氏、村上一真氏

○ オブザーバー

厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室 様

PwC コンサルティング合同会社 様

○ 実施主体

マガジンハウス

■ 議題

- ・今年度事業の状況報告
- ・事業に対する意見聴取
- ・質疑応答

■ 若手企画委員からの主なコメント

| 事業全体について

- ・企画委員会への参加を通じて、改めて福祉の価値を考え直す機会になった。
- ・現実の介護の現場の様子が伝わっていない(福祉への不安や、大変で過酷といったイメージ)と悔しく感じるシーンが日常ではまだまだ多いが、伝え方を変えることで受け取られ方が大きく変わることを今回の施策を通じて感じた。
- ・福祉を受ける方も、福祉を提供する方にもその家族にも、まだ「安心」を伝えきれていない。
例: 福祉職に就職が決まった学生に対し親や教職員が反対するなど
- ・施策はいいので、もっと広げたい。「介護」がどうしても他人事になってしまう。いかに「自分ごと」化するか? → 切り口を変えてみる 例: 自分を利用者と設定してエンディングシートを作ってみるなど
- ・年々カスタマージャーニーが精査され企画がいいものになっていると思う。さらに広げていくためのアイデアを考えたい。
- ・本取り組みによって介護職に関わるポジティブな発信が増えることが介護職へのエンパワメントにもつながることが非常にいい
- ・介護職=大変そう、なイメージは根強い。マガジンハウスだからこそ可能な発信で継続的にイメージの変更を進めたい

| 改善や工夫の余地について

- ・介護施設にも配架しても良さそう
- ・福祉学校との繋がりを強化してもいいのでは
- ・伝え方、最終的に伝わるメッセージをどのようにデザインしていくか 例: 「安心」など
- ・無関心層が興味を持ってくれていい仕事だよねのイメージを持ってくれるようにはなっていないと思うが、さらにアクションを起こすまでの一歩に繋がりたい
- ・さくらホームに参加してくれた高校生について、どこで情報収集し、どうやって参加してくれたのかを深掘りすることが今後のヒントになるのでは
- ・インスタリアル動画: 現場の声は音にあるので、BGMではなく現場の音が入っているといかもしれない。介護職だけではなく利用者発信の声がもっと欲しい。瞬間の切り取りではなく、中長期の介護職-利用者さんのストーリー(介護職の醍醐味)を伝えたい *メディアで取り上げられる素敵な施設以外のところでも毎日起きている

雑誌&web記事展開 「anan本誌8ページ特集+web3記事」で情報発信！

an・an

無関心層向け

興味喚起

メディア(紙&Web)

企画

自分の存在が価値になる。個性を活かせる介護のしごと。

anan

anan本誌(週刊)2025年10月8日発売号で
特集8ページ記事を制作



掲載号 | 2025年10月8日発売号
掲載ボリューム | 4C8Pタイアップ
発行部数 | 158,958(公称部数)

anan web

anan本誌で制作した記事内容を
anan webでも転載して記事化



10/9
<https://ananweb.jp/categories/lifestyle/68370>
10/16
<https://ananweb.jp/categories/lifestyle/68372>
10/23
<https://ananweb.jp/categories/lifestyle/68374>

anan特集「自分の存在が価値になる。個性を活かせる介護のしごと。」

自分らしさが強みになる！ユニークで多様な介護の現場で働く。

身近にありながら、具体的なしごとのイメージが湧きづらい介護の世界。でも実は、クリエイティビティを発揮しながら働ける場所なんです。個性溢れる施設で、モチベーションを持って働く人たちを通じて「介護のしごと」の魅力に迫る。まずは山崎怜奈さんの介護体験からスタート。

デイサービス、学童などが同居。地域を築く新しい施設のカたち。

下町風情溢れる門前仲町駅から徒歩。観光客や地元住民が行き交う葛岡八幡宮と深川不動産を結ぶ通り沿いに「深川えんみち」はある。下町に溶け込むように設計されたスタイリッシュな建物に、風に揺れる白い暖簾、大きな窓から見えるキッズスペースや本棚、テラスにはピザ職人と作った本格的なピザも！カフェと間違ってもいいくらい観望できるほど開放しさを私試するオープンな造りだ。そこにガラス張りの引き戸を勢

いよく開けて「ただいま！」と入っていく子どもたちに、「おかえり〜」と声をかける高齢者の姿が。初めて訪れた山崎怜奈さんも「ここは一体？」と興味津々。「深川えんみち」は「世代の垣根を越えた、多世代が共生できる地域に開かれた福祉施設」をコンセプトに、2024年5月にオープンした複合型福祉施設。1階に高齢者デイサービス、2階に未就学児と保護者らが交流できる子育てひろば、約135名の地域の小学生が通う学童保育クラブが同居。1つの建物にデイサービスと学童保育が入る東京で唯一の施設で、全体的にも稀だそう。1階の「深川えん

みちデイサービス」は、東京・深川で20年以上の介護実績がある社会福祉法人聖教主権社会が運営する施設で、地域住民からの信頼も厚い。食事や入浴などの日常生活上の支援や、自宅で自立した日常生活を送れるよう機能訓練を受けるために地域在住の約80名の利用者が通所している。この施設で介護のしごとを山崎さんが初体験。「私は江東区東区・江戸川区で生まれ育ったので、門前仲町は馴染みのあるエリア。でも駅近にこんな素敵な施設があるとは知りませんでした。介護施設を訪れるのは初めてで、もっと聞かされた空間を想像していましたが、開放的な雰囲気でもとても居心地が良いですね。子どもの声も聞こえてくるので暖かかったです。利用者さんたちも自分の自宅のようにゆったり過ごされていたのが印象的でした」

関係を築き、交流をしている人もいます。多世代の人々が交流することで、心が豊かになり、生活に彩りが生まれている。ここで山崎さんと利用者さんと触れ合ったり、現場のアシスタントマネージャーで介護福祉士の吉田知子さんと一緒に、機能訓練を兼ねて行われるレクリエーションのお手伝いにもチャレンジ。「私のような新参者にも、利用者さんたちが笑顔で接してくれて嬉しかったです。みなさんとお話していて、とある利用者さんと私の父が同郷だということが分かった時はすごく盛り上がり、親近感が湧きました。ここではスタッフと利用者さんが一緒にごはんの準備をしたり、無邪気に遊ぶ子どもと交流したり、一緒に生活しているような距離感の近さを感じましたね。レクリエーションでは、難読漢字クイズの出題や、体操で体を動かして一緒に楽しみました。みなさん真実に取り組んでいて、私もつい熱が入りました！世代を超えて人と人が気軽に触れ合える場所があるってとても素敵なこと。ここにはどんな方でも本が借りられる「エンジマ文庫」という私設図書館も併設されているので、私も通ってしまおう。介護を身近に感じることもできるし、こういう複合型の施設がもっとたくさん増えてほしいですね」

世代を超えた交流が楽しめ、まるで一緒に生活しているよう。

学童に通う子どもたちは1階の中央にある遊樂場を回り、デイサービスに通う利用者さんに挨拶をしながら、外階段を利用して2階に上がっていくのが日常の光景。子どもと高齢者がゆるく繋がり、時には一緒にゲームをしたり、お話を教えてもらったり。なかには年の離れた友人

SPOT 1 深川えんみち

多世代が繋がり合う複合型福祉施設で、

山崎怜奈さんが介護のしごとを初体験！

社会関係に関心が高い山崎怜奈さん。介護の世界に初めて触れるために訪れたのは、東京の下町にある「深川えんみち」。ここは、高齢者から子どもまで多世代が寄り添う空間の下で、ゆるやかな繋がりを感じながら過ごす複合型の新しい施設。介護のしごとを体験して、上級職人を目指したいと！



写真：村上孝太郎（深川えんみち、さくらホーム） 土佐麻理子（グレースケア） スタイリスト：清田彩華（山崎さん） ヘアメイク：田中康子（山崎さん） 取材：文・鈴木真美

やまぎらひな 1997年5月21日生まれ。東京都出身。タレント。2013年から乃木坂46の2期生として活動し、22年に卒業。現在はTBSの「100人の山崎怜奈」に出演している。山崎怜奈の魅力を伝えたかったこと、このイベントが実現した理由を、山崎さんにお話を伺った。



1.みんなで作って、レクリエーションのお手伝いをやる山崎さん。実はお母さんにも、「思い出したお孫物の思い出」ともメントも的。利用者さんもみんな本気で、2.利用者さんと学童の子も一緒にゲームを遊ぶ。3.施設は利用者さんのニーズに合わせた。4.100名以上の利用者さんが参加した本が借りられるエンジマ文庫。貸出料1円（4500）を納入すれば、本の貸し出しは無料。

DATA

深川えんみち

東京都江東区葛岡1-15-9 ☎03-3641-1952（深川駅の隣「デイサービスセンター」） 複合型福祉施設。https://fukagawa-enmichi.jp/

山崎怜奈さんが介護スタッフに聞く、介護の現場のやりがいとは？

おしごと体験を終えて、山崎さんがさらに介護の世界を深掘り。山崎さんにごとをレクチャーした介護の先輩・吉田知子さんにしごとを通して興味を持ったことや疑問を投げかける！



自分も人も幸せにできる介護のしごと。もっとこの魅力を伝えていきたい。

山崎 今日貴重な体験をさせていだきありがとうございます。私自身、介護を必要としている人や介護職に就いている人が身近におらず、この世界に触れることがなかったのですが、とても新鮮で有意義な時間を過ごせました。吉田 そうですね。介護という言葉はよく聞くと思いますが、実際にどんな雰囲気なのか、どんなことをしているのか知らない人が多いかもしれません。山崎 ここは子どもから高齢者までがとっちらかりの下で過ごせる施設ということで、子ども目線で考えても、いろんな世代の人と触れ合えて刺激ももらえるので、社会との関わりが深まりそうです。吉田 みなさん相手を楽しめるように、不安や孤独を感じ、コミュニケーションをとりながら、相手を楽しもうという気持ちで接していきたいです。山崎 そうですね。私もコミュニケーションをとるのが好きで、相手を楽しもうという気持ちで接していきたいです。吉田 携われる業務は設定されていますが、業務でも働くことはできます。働きながら資格を取得することもできます。手に職をつけながら長く働ける、自分の強みを発揮しながら長く働ける。ハードルが高いように感じるかもしれませんが、楽しいことの方が多いので、興味があればぜひ山崎さんに体験してほしいです。山崎 継続してできるんですか？吉田 そういう質問もあります。最近ではアルバイトやボランティアなどで介護の現場を体験できるのでも、そういうのを活用するのも手です。山崎 私も今日の経験を通して、介護のしごとの理解度が上がりました。この楽しさを伝えていきたいし、もっと多くの人に介護のしごとの魅力が伝わるといいなと、心から思った。山崎 本心で、嬉しいです!! 吉田 ありがとうございます!! 山崎さんが介護のしごとの魅力を伝えてくださることで、介護のしごとの魅力を伝えることができるといいなと、心から思っています。

よした・ともこ 介護福祉士、認知症ケア専門士、介護の専門学校を経て、聖教主権社会に入職。出産や育児を継続しながら、20年以上現場で活躍。現在は「深川家のデイサービス」のアシスタントマネージャーを務める。



ユニークで多様な介護の現場で働く。

SPOT 2 瀬の浦・さくらホーム

瀬戸内海に面する小さな港町が仕事場。

24歳のホープが移住して、地域密着のケアを実践中。

介護の現場は全国各地にたくさんあり、働きたい場所を選べるのも魅力。風光明媚な景色と歴史的名所並みが広がる「瀬の浦」で地域に根付いた介護に取り組み事業所に魅力を感じ、移住してきた石飛佳那さん。誇りを感ずられる仕事現場にお家帰って、石飛さんの働きぶりに密着！

江戸時代の商家を改装した「瀬の浦・さくらホーム」。リハビリがてら定期を運営する石飛さんと利用者さん。



DATA
瀬の浦・さくらホーム
広島県瀬戸市瀬戸新5丁目 白
084-592-1111 | 地域密着型
の最新介護事業場。https://
tomo-sakurano.net/

1.利用者と食事を楽しむ。一緒に蒸しパンを食べる石飛さん。カメラを向けると、「あ、あ、もっと笑え〜」と利用者さんにかかわり、まるで家族のよう。2.朝礼の歌に利用者さんの身体機能の維持・向上のために体操クリエーションを実施。石飛さんのアップした声で積極的に響き渡る。3.熱帯の近くに住む利用者さんは歩いて遠出。4.リハビリ中に声をかけて、利用者さんのモチベーションをアップ。5.利用者さんの自宅を訪問して介護を行う石飛さん。6.お家帰るから帰る前の一瞬。「また来ますね」と挨拶。7.高齢者も楽しめるお茶会。ジブリ映画の「魔法の国のゴトウ」の舞台になったことでも知られる。

自分が理想とするケアを実践するために瀬の浦に移住。

広島県の福山駅から路線バスに揺られること約30分。穏やかな海に抱かれた港町が見えてくる。ここは、瀬戸内海の中央に位置する瀬の浦。「万葉集」にも採られた瀬古の港のひとつで、人と物が行き交う昔港地として栄えた歴史を持ち、昔ながらの町並みが残る。その豊饒を守るために、築350年の商家を改装して開所したのが養老事業が一体となった「瀬の浦・さくらホーム」だ。
「この建物は、もともと『朝霧花袋』というお祭りの製造所だったんです。私も最初に訪れた時、「え、ここが介護施設なの!?」とビックリしました。ここでは私がやりたかった地域密着のケアを実践していて、私もその一員として働きたいと思い、専門学校卒業後に、すぐに「さくらホーム」に入職しました」と話すのは、地元広島県・松江から瀬の浦に移住してきた作業療法士の石飛佳那さん。「さくらホーム」は、「年齢を置いても障がいがあっても 医療者と異なるまちづくり」をミッションに、瀬の浦を中心に、地域密着型の高齢者介護事業や放課後等デイサービス、就労継続支援の事業所など様々な介護・福祉事業を営

営。その拠点のひとつが「瀬の浦・さくらホーム」で、デイサービス、グループホーム、小規模多機能型居宅介護と包括的にサービスを提供。石飛さんはデイサービスに所属し、リハビリや食事・入浴など生活支援を行っている。移住してまでここで働きたいと思った理由は？
「私は介護専門ではなく、作業療法士という身体の運動機能や認知機能に障がいなどがあがる方が、問題なく日常生活が送れるようリハビリで支援する職能に就いています。作業療法士が活躍できる職場は、病院や施設など多岐にわたります。私は、専門学校時代に様々な現場で実習体験を行い、高齢者と触れ合うのが楽しかったし、私がやりたいケアができるのは介護施設だと思ったんです。そう感じただけで、介護施設に2か月実習して、その時に先生に話したところ、それが実現したんです。体調が悪くなり病院に入院された利用者さんがいたのですが、『みんなに会いたいから』と施設に一時帰室した際に、感染染みの仲間に出られ生きたとした表情を浮かべたのを目の当たりにしたんです。その時に知り合いや先輩が人の気持ちを支えていることを知り、利用者さんが住み慣れた地域で長く生活が続けられるよう、リハビリや生活全般の支援をしたいと強く思いました。その話を専門学校の先生にしたら、そう

いう地域に密着して働ける場所が瀬の浦にあると言われ、すぐに見学に訪れ、まさに私が理想とするケアを実践していたので、ここで働きたいと思いました。
その人らしさを大切に、地域で支え合う介護を実践中。
施設内は話し声や笑いも溢れ、まるで地域の集会所のようなアットホームな雰囲気。何をやるにも職員と利用者で進めるのではなく、利用者さんと一緒に進めていくから、チーム感が半端ではない。「私も利用者一人ひとりの気持ちを尊重したケアを心がけています。たとえばリハビリする際は、本格的に機能訓練を行いたい方には器具を使いますが、手芸好きな方と綿もみをして手を動かしたり、歩くのが好きな方と町を散歩したり、その人の生活に合わせたサポートをしています。今日一緒に散歩した利用者さんのおひとりも、施設からすぐの場所でお茶室を夫婦で営んでいる方で、髪を切りに来るお客さんが来店を待っています。立位や歩行訓練と一緒にしています。石飛さんはデイサービスの現場だけでなく、小規模多機能型居宅介護の訪問にも挑戦。瀬の浦に住む利用者さんの自宅を訪れ、一対一で向き合う時間もおけがえのないものだとか。

「瀬の浦でひとりりで住んでいる方が、自宅でも自分らしい生活を過ごしていけるように、オムツ交換や部屋の掃除、食事の準備・片付けなど、身体介护・生活援助などを行っています。ご自宅に行くと、いつもは静かな方がたくさん喋ってくれたり、新たな一面を知ることができ、距離感がグッと縮まったこと、また町に出る機会が多くなったこと、地元の方に『さくらホーム』の職員と認知され、仲間意識を持ってくれる方が増えました。「ちょっと足が痛いんだけど、どうじゃろ？」など、声をかけられることも多くなりました。『瀬の浦の人々を地域で支えていく』ことを改めて実感しています。ここに来てまだ1年半くらいですが、『あんな、うでできるようなったね〜』とか、『あなたが出来たけ〜、じゃあ歩かといけん』などと言われることもあり、地域の方々の優しさに触れて、私自身が元気ももらっている毎日です。だから私もこの地でもっと経験を積み、その人らしい生き方のお手伝いをしながら、地域に響かされる人材になれるよう、頑張りたいです」
お話を聞いた方 石飛佳那さん
いしひのな 作業療法士 理学療法士 作業療法士 瀬戸市立専門学校で4年学び、国家資格を取得。卒業後、「さくらホーム」に入職し、デイサービス事業所に配属。リハビリ支援や生活支援を行うほか、小規模多機能型居宅介護の訪問にも挑戦。

anan特集「自分の存在が価値になる。個性を活かせる介護のしごと。」

ユニークで多様な介護の現場で働く。

あきもと・あひい 株式会社Blanket代表取締役、介護・福祉に特化した人事支援「KAIGO HR」や、介護に関わる一人ひとりの力でより良い社会を目指すコミュニティ「KAIGO LEADERS」の運営を行う。

どうやって選べばいい?

自分にとっての価値観を軸にして、働くべき現場を探そう。自分らしい働き方を活かせる現場を探そう。

自分に合った介護のしごとの見つけ方。

Step 1

始める前に知っておきたい5つのこと。

何かを始める時は、まずは知ることから。実際に介護の現場で働くにあたって、事前に押さえておくべきことを、Q&A方式で解説。

Question 1	Question 2	Question 3	Question 4	Question 5
資格がなくても働けるの?	介護職の魅力ややりがいとは?	逆に介護職の大変なところって?	給料や手当はどれくらい?	職場を選ぶ時に重視すべき点は?
「未経験・無資格でも働けます。ただし訪問介護等は、介護職員としてのスタート資格となる「初任者が研修」等の修了が必要に研修修了後でもOKですが、働きながら資格を取得することも、資格がなければ現場の幅も広がります。	「利用者さんの生活に深く関わっていくので、自分のクリエイティビティが活かせる現場がたくさんあります。自分がしたことが利用者さんの生活の中でやがても大きな役割を果たすことも、キャリアアップしやれるのも魅力。」	「体力勝負ではありませんが、最近ではロボットやITの導入が進み、介護職員の負担が減っています。また時には死と隣り合わせという大変な場面も、辛い一方で、幸せな瞬間をお手伝いするやりがいも感じられるしごとだと思います。	「令和6年度介護労働実態調査」によると、月給制で働く介護職員の平均年収は24万8884円。キャリアアップすれば給付は増えますし、実働勤務支援制度や、夜勤手当や住宅手当等でも補助してくれる場合もあります。	「介護サービス事業所は、コンビニの敷居も多いといわれています。だから働く上で大切にしたい価値観を大事にし、それを叶えられる職場はどこかを考えながら探す、自分しか働ける場所が早く見つかるかもしれません。」

Step 2

自分らしく働ける介護のサービス形態を知ろう!

介護の現場には様々な形態がある。それぞれのライフスタイルに合った働き先が探せるよう、目的別にサービス形態をチェック。

■ 夜勤で働きたい	■ 日中だけ働きたい	■ 利用者の自宅生活を支えたい
■ 多職種と一緒に働きたい	■ 規則的な時間で働きたい	■ 自分のペースで働きたい
そんなあなたは…	そんなあなたは…	そんなあなたは…
【入所系サービス】 特別養老ホームや有料老人ホームといった、利用者が入居する施設のこと。日常生活全般の介助や機能訓練などが行われ、職員が24時間常駐しています。看護やリハビリなど、多様な専門職と一緒に働けます。	【通所系サービス】 デイサービスをはじめ、自宅で自立した日常生活が出来るよう自習りや様々なサービスを提供する事業所のこと。「基本的な日勤のみ、利用者さんと一緒に何かをする機会が多いので、人とじっくり関わりたい方におすすめ。」	【訪問系サービス】 利用者の自宅を訪問訪問し、入浴、排せつなどの介助から食事などの生活援助を行う事業所のこと。「利用者さんが住み慣れた自宅で暮らすのを支えられます。勤務時間から働けるのでダブルワークの方も多くいます。」

Step 3

ボランティアやスポットワークで職場体験に参加してみよう!

興味はあるけれど、いきなり就職するのはハードルが高いと感じている方もいるはず。「まずはボランティアを受け入れている施設や職場体験イベントに参加したり、介護に関するスポットワークを利用して、専発でアルバイトしてみるのあり。現場の雰囲気を感じてから選ぶ方が、自分が大切にしたい価値観も明確になり、自分に合った働き方がしやすいのでは。」



Photo: Kenjiro Yamashita / Photo: Kenjiro Yamashita / Photo: Kenjiro Yamashita

[Information 1]

誰でも参加できる!
体験・交流イベント
「ケアするしごとツアー」開催。

全国の注目介護・福祉事業所を訪問し、そこで生まれる暮らしやケアに出会えるツアー。介護・福祉のしごとに関する疑問や悩みも、これまで疑問がなかったり、まだ参加してみたい方にもその場に集まるきっかけを創る。ツアーコンダクターは「KAIGO LEADERS」が担当。詳細や募集要項はQRコードをチェック。



12月6日(土) 朝の湖・さくらホーム (広島県東広島市)	2025年1月7日(土) ライフの学校 (茨城県船橋市)	2025年1月20日(火) 深川丸みち (東京都江東区)
「年齢を重ねても、難しさがあっても、居場所となるまぶくり」を自覚し、介護職への思いや、様々な多様な事業所を訪問。古来家を活用したケアや交流の場も運営し、地域に根ざしたケアを実践している。	社内の「社会にある「学びあひの拠点」」のキャンパスと施設を、高齢者の有休や退職、年代を問わず、多様な人が自然に交流し合いながら過ごす場が広がっている。	1階に高齢者デイサービス、2階に学習支援クラブと子育てひろばがある。多様な事業所と連携し、高齢者の有休や退職、年代を問わず、多様な人が自然に交流し合いながら過ごす場が広がる。施設も併設している。

[Information 2]

読者アンケートに答えて
プレゼントをもらおう!

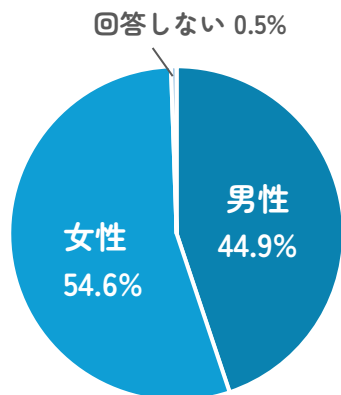
右のQRコードよりアンケートに答えてくださった方から抽選で10名に、ananオリジナルグッズ(限定カード×1,000円とステッカー)をプレゼント! (締切:2025年11月30日/発表予定:2025年12月)※写真はイメージです。



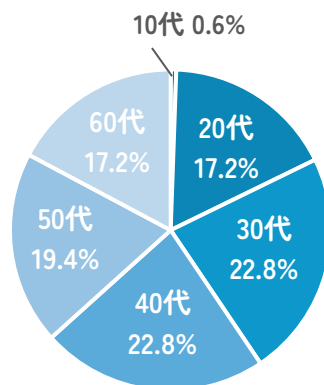
anan読者アンケート結果

n=185

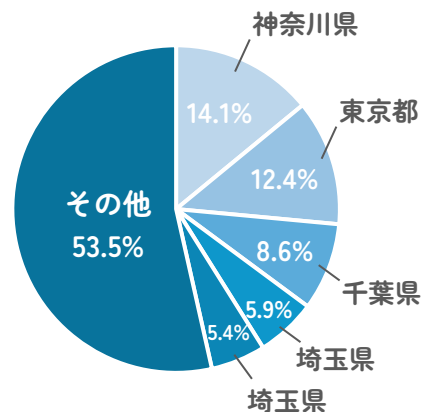
性別



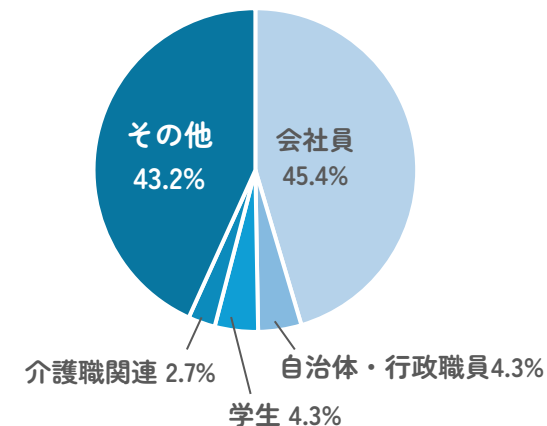
年代



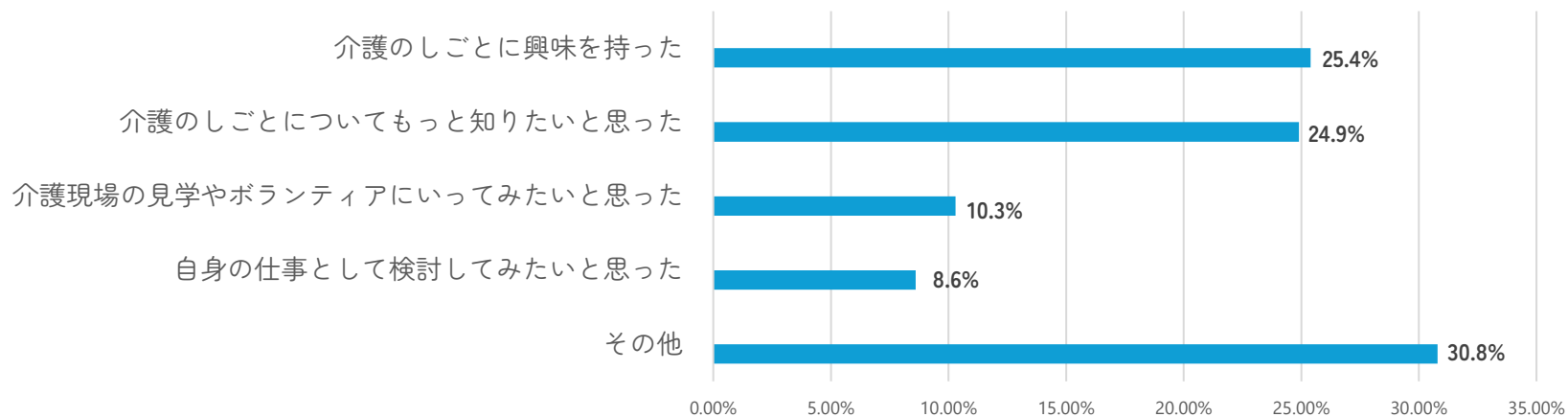
居住地



職業



『自分の存在が価値になる。個性を活かせる介護のしごと。』の記事をお読みになってどのように感じましたか。



Q.記事に関するご意見・ご感想

- サービスだけでも3つに分かれていてその中でも訪問ではダブルワークが多いと書かれているのがびっくりです。
- 自分には絶対できないと思った。
- 介護はただするだけだと思っていたが自分の個性がこんなにも活かされると知って興味を持った。
- わかりやすい。
- 介護の仕事についてはあまり具体的なイメージが湧いていなかったが、実際はクリエイティブな仕事なのだと気付いた。
- 今の時代とても大切な仕事だと思うが、このキャッチコピーは違和感がある。自分の存在が価値になる。という文について。他のものが価値がないと言っている様なものと捉えてしまう。
- 介護についてもっと知りたくなった。
- 介護職員の方がもっといい給与をもらえるといいと思った。
- 介護職というと中高年の方がつかれているイメージが強かったが、自分と同じ世代の働き方が知れて、より自分ごととして考えることができた。
- 自分出来ることを率先して実現していく、社会や地域、人々の為に働く姿をとて尊敬します、
- 介護の仕事の待遇を良くしてほしい。
- 人を助けられる仕事だと思った。
- 明るいイメージは感じられた。
- 新しい働き方がある。
- 実際に働いている人の話を知ることができ良いと思った。
- 自分に合った仕事を見つけられた方が人生が豊かになると感じた。
- 一つ目の記事で高齢者の方よりも目線が下になるように気づかしていることに好感が持てました。
- 良い部分を書いてある
- やりがいがある仕事だとは感じたが、良い面ばかりが前に出ていると感じた。
- 自由度が高い。
- 実体験からの言葉なので想像しやすいと思う。
- 人の為になる。
- 以前は看護師をしてました。ですから介護の経験なら豊富です。本当に慈愛の心が無いとできません。ですがやり甲斐はあります。
- 介護の仕事を通じて触れ合いが生まれそうだと感じた。
- 高齢化が進む現在、重要な仕事だと感じた。
- 自分ではできないが興味関心はあります。
- 母の介護はしているが、仕事となると大変だと思う。私には出来ないと思う。
- 介護については、これまでネガティブなイメージしかなかったけど、これらの記事を読んで「自分も少しは皆の役に立てるかもしれない」と思えた。
- 記事を読んで、介護の仕事はとても大変そうだけどやりがいや楽しいこともあると感じました。
- こういうアットホームな職場がもっと増えればいいと思う。
- いずれもイメージ主導の記事で、現実の介護の仕事の一部分にしかライトがあたっていない。本能的に危機感を感じるよ。
- 介護のしごとについて、自分が思っていたよりも介護するひと、されるひとそれぞれが楽しく過ごしている場所があると知って驚いた。
- 介護を必要としている人や介護職に就いている人が身近におらず、この世界に触れることがなかったのととても新鮮だった。
- 介護はしたくない。
- 介護のことがよくわかる記事だなあと思った。
- とてもわかりやすい説明で、親近感がわきました。
- 個性が大事であると思った。
- 介護の仕事の魅力がよく分かる記事だと思った
- 介護も工夫をすれば苦になることも少し無くなりそう。
- 悪くはないと思います。
- 人それぞれだから、誰しもが簡単に出来る仕事ではないと思いました。
- 4ページの写真が良い写真だと思いました。
- 高齢化社会の現代に寄り添う記事を読ませていただきました。
- 読みやすかった。
- とても参考になりました。
- よい点ばかり書いているのではないかと気になった？
- 介護の現場は暗いと思ってたけど案外明るい。
- やりがいが出そう。
- 嫌でも今後の日本では社会問題になるテーマ。介護は暗いテーマになりやすいが工夫をすれば前向きに捉えプラスに物事を進めることができることを学べた。
- これからの時代には不可欠な介護 考えました。
- すごくやりがいを感じる仕事だとは思ってたけど、自分には出来ないことだと思いました。
- わかりやすくよみやすい。

Q.記事に関するご意見・ご感想

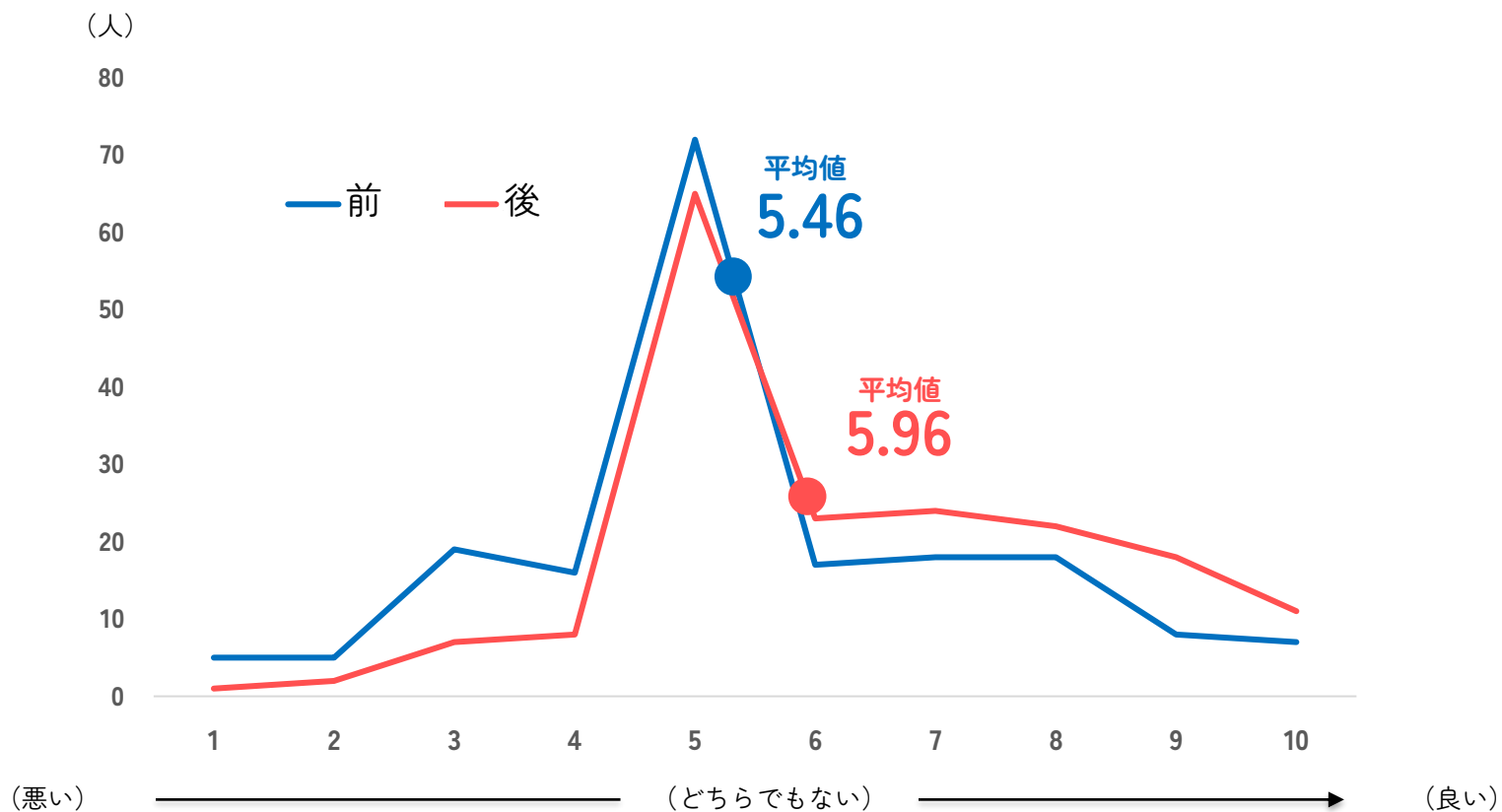
- 人のためになりそう。
- 人に尽くせるだけですごいと思う。
- 介護に個性なんていないのでは？
- 写真もあり文章も分かりやすいので理解しやすい。
- 興味ないので介護職はしたくない。
- 介護である必要性はあるのか。
- 特にない、このような形で記事はよく読まない。
- どの方もキラキラ、主体性を持って仕事されてることに心が動きました。読んでとても勇気をもらえました。
- 介護の大切さがわかった。
- 生き生きのびのびと仕事をしているなと思いました。
- もともと関心がある人には良い記事だと思うが、そうでない人の関心と呼ぶほどではないと感じる。
- ネガティブなイメージをす。る人が多いというのを踏まえつつも、新しい介護イメージを生み出す記事が目新しく感じた。一方で地方ではどうなのかという疑問も感じた。
- 現状がわかってよかった。
- 興味深かった。
- 介護業界に興味をもつ人が増えれば良いなと思いました。
- 知らないことを知れたので有意義な時間になりました。
- ニュースで報じられるようなキツイだけの現場だけではない事が新鮮でした
- 自分が関わる可能性もあったと思った。
- 大変な仕事だということは承知しているが、前向きな気持ちで頑張っている方の話を読んで、応援をしたくなった。
- 多くの人が参加しやすいと思った。
- 広報活動は積極的に続けるべきだと思った。
- 介護している人も、受けている人も、楽しそうなのが良いですね。介護はキツイというイメージが変わってほしい。若い方が志を持ってキラキラ働いておられるのが伝わります。そして、オフの時には切り替えて楽しんでおられるのも。ananというファッショナブルな雑誌が介護をテーマにしているのが新鮮です。
- 様々な生き方があるのだなと思った。
- 知りたいけど、なかなか知る機会がない内容だったので、自分的にはありがたかった。読みごたえあった。
- 勉強になった。
- 介護と聞くとネガティブなイメージがあるが、ポジティブな気持ちになった。
- 誰もが自分らしく、やりがいを感じられるしごとであってほしいと思う。
- 自分の価値を直接相手に届けることの仕事だと改めて感じることができる記事でした。
- ためになる記事です。
- よい取り組み。
- 介護の仕事もワークライフバランスが取れることをした。このようなことがもっと広がればいいと思う。
- 介護の仕事には興味がないです。
- 介護の仕事は大変ですが、やりがいのある仕事だと思うし、存在価値があると強く感じた。
- こういう記事がもっと増えるといいと思う。
- 大変な仕事だと思った。
- 介護の仕事を志す人は心の優しい人が多いと思う。そるを感じられる記事だった。自分には介護の仕事はできそうにないが、それを志す人は意思の強い人だと思う。
- 経験してみないとわからない。
- すごいなと思う。
- 人手不足だがやりがいがある仕事だと思う。
- 新しい価値観を知った。
- 色々な働き方があると思った。
- 介護に携わる人達に感謝の気持ちを抱いた。
- 今の年齢では無理。
- とても大変で大事な仕事である。
- 現実はしんどい。
- とっつきにくい、少し遠い世界だと感じていたが、記事を読んでとても希望の沸くような思いになった。養育施設と一緒にあった居場所作りは、双方にとって良い関係になるのではないかと感じた。また、若い方が活躍されていることや、多様な働き方があることが知れたことで、これから自分も何かできることがあればやってみたいと思った。
- 若い方も介護に積極的に参加している姿に素敵だなと素直に感じました。
- 仕事のやりがいをそれぞれ発信していたので興味を湧く企画だと思いました!ただ、マイナス面があまり出てこなかったのが若干もやもやが残る面もあります。
- 今後親の介護などが必要になった時など働き方の参考になった。
- 将来的には、定年退職後、まずはスポットワークの一つとして選択したいと思いました。

Q.記事について、ご意見・ご感想。

- 資格がなくてもできることがあるのに驚きました。深川えんみちのような複合施設が近くにあればいいな、と思います。
- 汚れ仕事もあるでしょうに、介護職に従事している方を尊敬します。
- 楽しんで仕事をしているイメージがある。
- 周りに介護の仕事をしている人が何人かいるので、仕事について少し知れて良かったです。
- 人生色々、価値観も色々だが自分とはかけ離れていると思う。
- 高齢で働くのは無理。
- 良い写真なのが印象的。
- 介護って難しいものとして一目置いていましたが、ダブルワークの方もいるのだと改めて知り距離が近くなった気がしました。今後、親も介護しなければいけない時代になると、かなり不安があります。心の余裕がある今だからこそ、少しでも役に立てるようなことを覚えてみたいのです。職場体験というものが簡単に募集されているのなら、ぜひやってみたいと思いました。
- 前向きで生き生きとしている姿が、今までの大変な印象からガラッと変わった
- 高齢者との接し方で人間性が問われる。
- 実際どうか分からない。
- 自分の母が介護に携わっているのでネガティブな部分も知っているのですが、設備や環境が整っている場での介護は良いものなのかなと思った。
- とてもやりがいのある仕事のように感じた。
- 逆転の発想で、やりたくない仕事に就いた織田さん。確かに本当に嫌であれば思い出すこともないが、興味があるからこそ思い出す。その発想が素晴らしいと思った。私もやりたくない仕事といえば介護職を思い出したから考えてみようかな、、、ありがとうございます！
- 若い人の労働環境が良くなると思う。
- 介護の重要性は十分理解できる。
- 介護職で働いている友人は、キツくて大変だと言っていましたが、最近知り合った同じく介護職の友人は、キツイ面もあるがやりがいもあると言っていました。イメージでは介護職は大変でワークライフバランスが乱れる職だと敬遠していましたが、記事を読んで介護職も色んな働き方がある(サービス形態)ことを知り意外でした。
- 大変な仕事だろうけどやりがいのある存在になるのではと思った。
- 参考になります。
- 若い人たちが関わっていくことは素敵だなと思いました。
- ITエンジニアなので介護ロボットのメンテナンスとかの仕事は残ると思われる。

anan読者アンケート結果

「個性を活かせる介護のしごと。」を読む「前」と「後」の介護のしごとに対する印象



anan特集記事を読んでいただくことで、**0.50p**のイメージUP（態度変容）につながった。

雑誌&web記事展開 「POPEYE本誌8ページ特集+web3記事」で情報発信！

POPEYE

無関心層向け

興味喚起

メディア(紙&Web)

企画

介護の仕事のことをちゃんと知ってみたいか？

POPEYE

POPEYE本誌(月間)2025年10月9日発売号で
特集8ページ記事を制作



掲載号 | 2025年10月9日発売号
掲載ボリューム | 4C8Pタイアップ
発行部数 | 75,667部(印刷証明付発行部数)

POPEYE web

POPEYE本誌で制作した記事内容を
POPEYE webでも転載して記事化



10/9
<https://popeyemagazine.jp/post-262659/>
10/16
<https://popeyemagazine.jp/post-262696/>
10/23
<https://popeyemagazine.jp/post-263851/>





フォロワー：87.9万人
(2026年3月末現在)

POPEYEのSNSアカウントで
動画配信



10/9
https://www.instagram.com/reel/DPtBDVlk_Nd/?utm_source=ig_web_copy_link&igsh=MzRIODBiNWFIZA==
10/16
<https://www.instagram.com/p/DPn3axpk56X/>
10/23
<https://www.instagram.com/p/DPqcp8fE9OV/>

POPEYE / Instagram リール動画

  フォロワー：87.9万人
(2026年3月末現在)

京都府宮津市の複合福祉施設
『マ・ルート』さま



再生数:15.7万回 いいね！457件

https://www.instagram.com/reel/DPtBDVik_Nd/

神奈川県愛川町の
『春日台センターセンター』様



再生数:28.5万回 いいね！1040件

<https://www.instagram.com/reel/DPn3axpk56X/>

千葉県香取市の特別養護老人ホーム
『杜の家くりもと』様

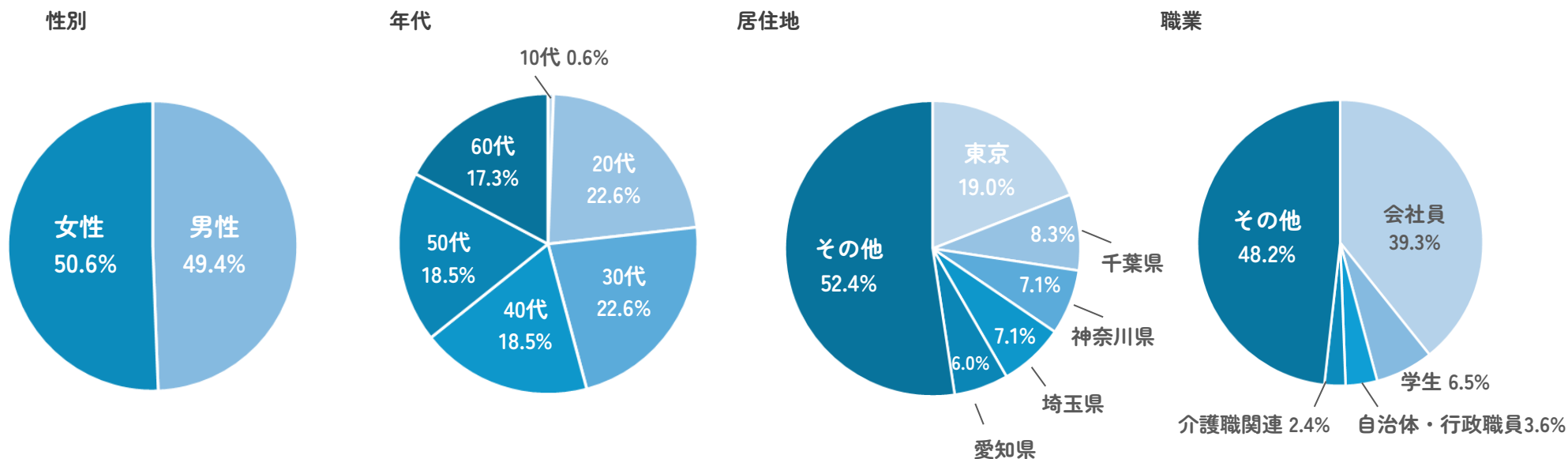


再生数:16.1万回 いいね！719件

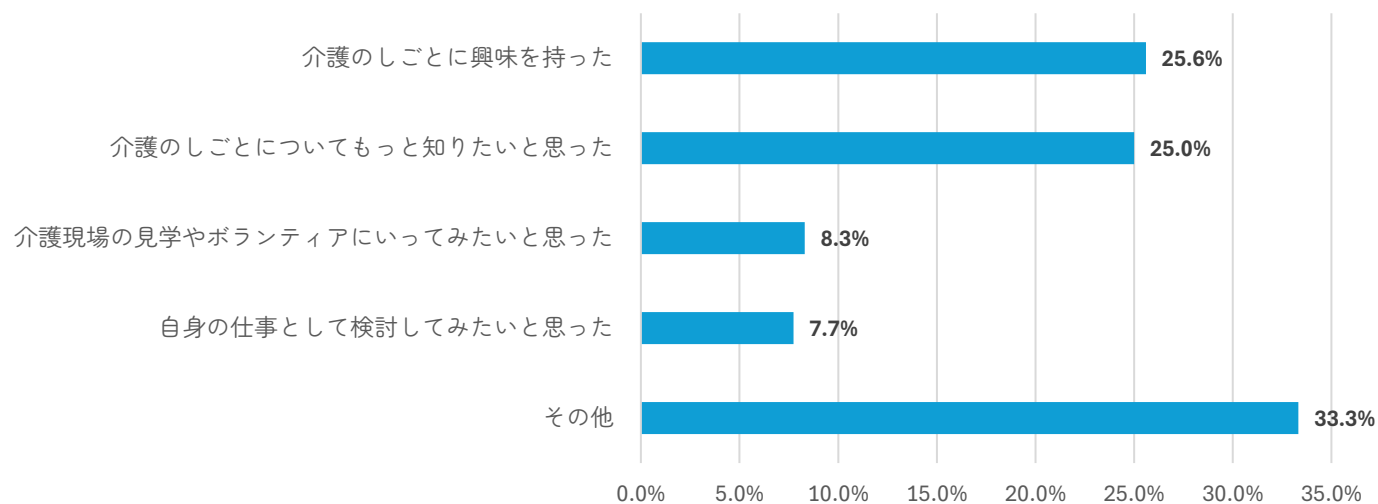
<https://www.instagram.com/reel/DPqC8pfE9OV/>

POPEYE読者アンケート結果

n=168



『自分の存在が価値になる。個性を活かせる介護のしごと。』の記事をお読みになってどのように感じましたか。



Q.記事に関するご意見・ご感想

- ・ 介護の仕事という、介護施設で働く職員さんというイメージ一択でした。POPEYEの介護の仕事を知ってみたい？について読んで、施設で働く職員さんだけでなく、福祉に関わる仕事という建築士や、芸人などの広い範囲で初めて知ることができた。介護の仕事について知りたい！から入るのは、そもそもそこでターゲットが絞られるけど、こうやってPOPEYEみたいに読書年齢層も地域(世界中)も広い層に知ってもらえるのがいい。読み手としても、本屋でパラパラめくって、あれ、なんでPOPEYEで介護？グッズやブランド、人を特集してる訳じゃないから、POPEYEの目線、といつより本当に介護と福祉の仕事についての特集なんだ、と思ってどんどん入って読みすすめていった。もっと知ってほしい、身近なこととして捉えてほしいがちゃんと形になった魅力発信だった。
- ・ 若い人がやりがいを持って働いてるんだな。クリエイティブな人もいるんだなと思った。
- ・ 失礼ながら、どちらかといえばネガティブな印象がありましたが、ポパイならではのおしゃれな誌面で取り上げられていると印象が全く異なると感じました。
- ・ ポパイで介護の記事?!びっくりでした。私はデイサービスの管理者をしています。記事の中の施設はどれもオシャレで、若者の心をつかんでくれそうな感じ。こんな現場もあるんだ、やってみようかな、と思わせてくれるような内容に、ワクワクしました。ありがとうと言いたい。
- ・ 正直にいうと介護に関して、祖父母も両親も若く、介護が身近になさ過ぎて良いも悪いも感じたことがないです。メディア等で紹介されていますが、悪い面ばかりをフィーチャーしている印象があり見ないようにしていました。ですが今回POPEYEを見かけて、この記事を見つけた際にこんなにも笑顔溢れる介護に初めて出会うことができました。人と向き合うことの難しさ、介護する方される方も人間なので、その時の状況や過去の生い立ちなどで衝突することも多いと思います。ただ平野さんや曾根さんのいうように、他人のことを思いやっって少しでも歩み寄り気持ちを持つことが重要ですね！ありがとうございます！
- ・ 私は現在、サービス付き高齢者住宅の厨房スタッフとして働いています。厨房の小さな提供カウンターからみる高齢の入居者さんたちの暮らしや、ケアスタッフの方々を見ながらどんどん介護の仕事に興味が出てきました。本屋さんで、この冊子を見た時、『ポパイがこんな記事を書くんだ』と驚きました。そのぐらい、高齢者社会になっているのだなとより実感しました。記事も、陰鬱としたイメージとはかけはなれ、こういう職員さんがうちの職場にもいたら楽しいだろうとか、こんな接し方があるんだと勉強になりました。また、施設の形も様々で驚きです。自分も働きながらあまり良いイメージではなかったですし、記事にはない大変なこともあると承知ですが、カウンターの向こう側で働いてみたい、とより強く感じました。
- ・ 介護というものは重圧であり苦しいものなのだろうというぼんやりとしたイメージを抱いてきた。自分の親の年齢を考えるとここ10年、長くて20年はおそらく関係のない話だろうと感じていて、もちろんいずれは向き合わなければいけないことも理解しているが正直に言えば、ヤング・ケアラーや老老介護などの言葉を聞くだけでも、これからどんどん社会が増えていく介護の問題に対してあまり向き合いたくなくなるくらいに介護にはネガティブなイメージを持っている。ただ、母親が親の介護を亡くなるまで続けて満身創痍だったとき、「たまに頼んでいるヘルパーの方や看護師の方が優しく親身で泣きそうになった」と言いながら帰ってくるのがあり、介護する立場の人が抱え込まずに助けを求められる先があることはありがたく、そうして助けを求めて頼りながらであれば自分にもできるかもしれないとうっすら思ったことはある。そういった介護像を踏まえてこの記事を読んだ。まず介護の仕事に携わっている方々は、それぞれの実体験を通して介護に向き合ったときに、この仕事に足を踏み入れる決意をしていると気づいた。おそらく私のように介護に全く無縁の人は介護に対するマイナスイメージを抱くと思うが、逆に一度介護の実態を知った人は介護の重要性を感じてもっとこうしたいのでは、というプラスな考え方になるのだと思う。この記事内の介護士の方のお話を読めば、母がヘルパーの方の優しさや熱心に心打たれた理由もわかる気がした。また、特に強く印象を受けたのは介護センターがクリエイター、介護士、入居者たちが関わり合いながら過ごせる開かれた場所になっていることだ。お年寄りの方々が「何を感じながら何をして自分らしく生活したいのか」をベースとしたコミュニティや空間を介護士の方々が作り上げてくれていることを理解した。まだまだ「老人ホームはつまらなくて閉鎖的な場所に入れられるんでしょう」と思い込んでいるお年寄りの方も多くいると思う。まさか漫才やダンスを楽しめるなんて思いもしないかもしれない。今の介護は想像以上に進化し魅力的であるということをもっと認知していくことが福祉が今後どう進んでいくかに関わってくるのではないかと思われ、祖母や両親にもこういう選択肢がどんどん増えているらしいよと教えてあげたいと思った。私もおそらく将来介護する立場にも介護される側にもなると予想するが、暗い気持ちにならず楽しく過ごすあるいは過ごさせてあげたい。だからこそ今どんどん新しく介護の世界を改革していつてくれている現場の方々に感謝し尊敬したいと思う。
- ・ 自分自身も放課後デイサービスで働いていることもあり、介護の仕事は人事ではありません。このような媒体を通して、福祉のことがもっと広がってほしいと思います。
- ・ 介護=きつい、大変、命を預かる仕事など正直マイナス面がかなり多い仕事のように感じていたがやりがいやマイナスな面だけではないことを知れてよかった。

Q.記事に関するご意見・ご感想

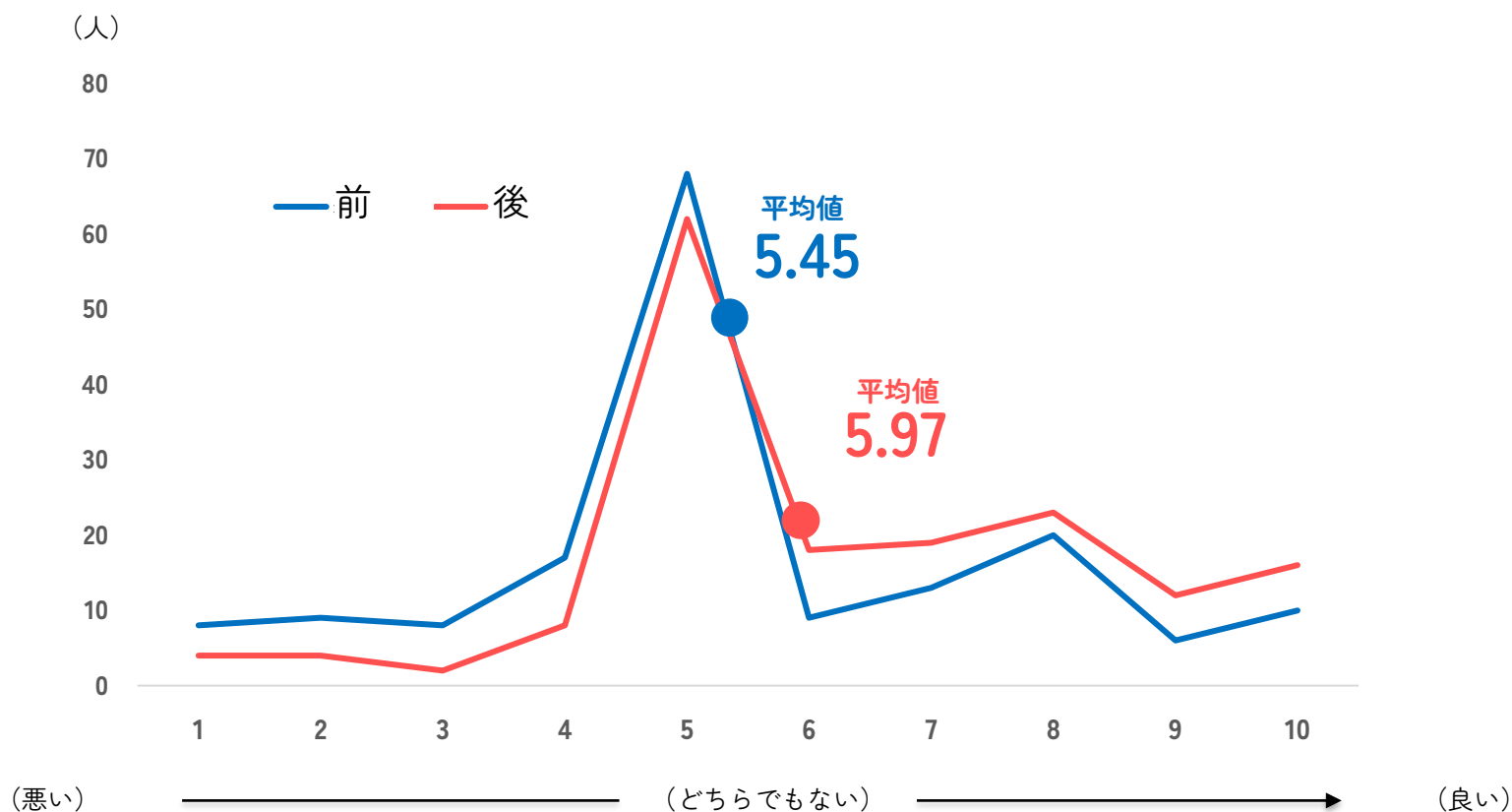
- 「介護をよく知るための本の紹介」は、これから読んで、実際に役立てたい。
- ただ仕事として高齢者のお世話をするだけではなく人に合わせてキャラを変えてみたり自分の過去の経験を活かして相手に心を開いてもらうという仕事だと知り詳しく介護の仕事について知る機会がなかったのですがどのような仕事なのかやりがいがどんな部分にあるのかをしてくれて良かったです。また自分もいずれ高齢者になるのでその時にお世話になる人達がどのように考えているのかを知ることが出来て良かったです。
- とても気を使う記事だったと思いますが読者から何か興味を持たれたら良いと思います。
- 記事を通して、介護の仕事に関する解像度が高まった。実際に働いておられる方々の気持ちや、どういうことをしているのかの実務内容、やりがいを知り、以前より身近に感じられるきっかけになった。さまざまな方向性から介護にかかわる仕事をしれて、知見が広がった。
- クリエイターさんたちは様々な経緯で介護のお仕事に携わり、自分らしく自分のできる事を考えてお仕事をしている人が多いんだと感じました。介護の現場のお仕事に携わっている人のインタビューは、とても素敵に感じます。ただ、実際の課題もあると思うので、そこも分かる機会があるとより興味を持って自分のキャリアチェンジも含め考えられそうだなと感じました。
- 決して綺麗事ばかりではない職業を選んで働いている方に、尊敬を覚える。
- 介護の仕事現場目線で学ぶことの経験はあまり今までしてなかった。というよりも興味関心を持つ機会が多くなかったため、今回の企画のような記事として学べるのは良かった。若者がコーワーカーとして貢献している現状を知り、関心を持つ同世代も多いのではないかと思います。
- 難病の父を在宅ケアしているので『介護をよく知るための本。』が、特に励みになりました。24時間自分を尽くすって割とキツくて、疲れ果ててしまい、気持ちを言語化して落ち着く暇もない時、同じような状況を経験した人の言葉に触れられるのは、凄く大切に、ありがたいことです。森岡さんと菅原さんの文章も良くて、紹介されていた本も読もうと思います。POPEYEが急に介護を取り上げていたのには何で？って感じでしたが、今の自分にはタイムリーで嬉しかったです。
- 介護の仕事について良い印象はあるけど実際に働くとなると自分にはなかなか挑戦できないことだと深く知ろうともせず抵抗感を抱いていたのですが、今回の記事を拝見して、色んなスタッフの方が1人1人に笑顔で寄り添い、お声がけをされていて、それに答えるかのように利用者さんたちもどこか楽しそうでのんびりと生き生きして見えた。介護士さんだけでなく、クリエイターさんたちの関わりも凄く大切に楽しむ時間を提供できる素敵なお仕事だと改めて感じた。それぞれが思い描く『介護・福祉』の背景が知れて以前より興味がより深くなった。
- 普段あまり考える内容ではないので、特集を読んで考える機会が持てて良かった。
- 若い世代にも介護の世界で活躍される方が増えてくると良い。
- 若い人も生き生き働いていて素敵と感じました。
- 給料が安い限り、人手不足は変わらない。
- 介護の仕事は自分には向いていないので興味ない。
- 介護な仕事について詳しく知ることができ、深い学びを得ることができた。
- 改めて、介護の仕事の必要性を感じた。
- 知らないことが多かった。
- 介護の仕事に前向きな印象を与えてくれる。
- 介護の仕事について触れることができ興味を持つことができた。
- 綺麗事では済まされない過酷な仕事だとも思う。
- 暗いイメージから多少の明るいイメージになった。
- きついイメージがある介護職ですが、働いてる人の姿や言葉を見ると介護の仕事も私でも出来るかなという気に少しなりました。
- 介護の仕事に就いている友人や知人がいるのですが、みなさん、やりがいのある仕事と話しています。記事を読ませていただいて思ったことは、もっと多くの人に介護の仕事を理解してもらいたかったです。私の父も生前、デイサービスでお世話になったことがあるのですが、介護職員のみなさんに感謝しかないですし、立派な仕事だと思っています。ですが、あまり良く思っていない人も少なくないのも現実のなか、と。なので、もっともっと理解する人が増えていってくれることを願っています。
- 若い人に興味を持ってもらいたいと思う。
- 重苦しくない文章でよかった。
- これからもっと需要がある職業だと思う。
- 介護の仕事に対して記事を読む前は少しネガティブでしたがちゃんと知るとポジティブな部分もありました。
- 漫画にしてくれるともっと読まれて知ってもらえると思う。
- 知らないことがいっぱいあると思った。
- 自分よりも若い世代の方がやりがいを持って働いている様子がとても印象に残りました。以前は介護は大変で、他の職業に比べて負担が大きく、トラブルも多そうなイメージでしたが、今回の記事を読んで良いイメージを持つことができました。介護は、人助けをして、社会や多くの人に貢献できる素晴らしい仕事だと思いました。これから、機会があれば、介護についても調べてみたいです。
- 分かりやすいと思った。
- 看護師として介護に興味を持った。
- 建物と働く方が若く、活力ある現場ばかりで安心して読めました。
- 老老介護にヒューマノイドロボットが普及する。
- 高校で介護福祉士をとり、デイサービスでアルバイトしながら今は精神保健福祉士と社会福祉士の資格の勉強をしていて、やっぱり介護の仕事は楽しいよなーと思った。複合施設についてもとても魅力を感じた。
- 高齢者、障害者、子どもの年齢や障害の有無を超えた複合施設があること初めて知った。

Q.記事に関するご意見・ご感想

- ・ 身内が介護職なので現実をしっているがそう甘くない。
- ・ 介護は大変な仕事というイメージしかないが、やりがいのことを考え始めた。
- ・ 介護は大変というイメージが大きかったがプラスのイメージに変わりそうだった。
- ・ もともと介護に興味がないし、読んでも変わらなかった。
- ・ popayで介護の仕事を扱うとは意外だ。
- ・ 優しい気持ちになれた。
- ・ やりがいが有りそうだった。
- ・ とても興味をひくものだと思う。
- ・ 興味深い。
- ・ 1週間のタイムテーブル、モチベーションの維持の仕方などを伝えてほしいですね
- ・ わかりやすい。
- ・ 介護のお仕事に就いているだけで尊敬します。
- ・ 様々な形の介護の形があることを知って自分なりに楽しめる仕事だと思ったから
- ・ 興味を感じなかった。
- ・ 夢があると思った。
- ・ 介護の仕事少し理解できたと思う。
- ・ 以前介護の仕事をしていたのでまた機会があればやりたいと思います。
- ・ 介護職の重要さは周知の事実ではありますが、現実には人手不足であることを考えると待遇の改善　そしてこのような記事を発信することも大切なことだと思う。
- ・ よい面ばかりでなく、介護職の負の側面も隠さず出すべきだ、と思う。
- ・ この取材の場面は良くてもこれが続けられるかどうかだよなという気持ちになりました。
- ・ 仕事の内容がわかりやすい。
- ・ わかりやすかった。
- ・ 毎日別居している祖父母の介護をしているが、働いている人を尊敬する。
- ・ やりがいのある人の言葉を発信することはいいけれど、イメージアップにはならないです 悪いイメージが強すぎるので。
- ・ 今の時代にあっている。
- ・ 読みやすい、わかりやすい。
- ・ なんか自分とは合わないな。という感じ。自分にはできない。
- ・ 分かりやすい。
- ・ あまり興味ないです。
- ・ 介護の仕事というと真っ先に思い浮かぶのが介護士ですが、建築、アート、お笑い、ダンスといった分野から介護に携わっている方もいるのだなと勉強になりました。また、介護の仕事=大変というイメージでしたが、記事に出てくる人たちは楽しんで仕事をされているのが伝わってきて、凄くポジティブな印象を受けました。
- ・ 介護の仕事は大変なイメージがありますが、やりがいがあるということも実感しました。
- ・ 介護の仕事の具体的な中身について知ることができるのはいいと思う。
- ・ 介護職に関して前向きなコメントが伺える記事であった。
- ・ 仕事としては、考えていない。
- ・ 特に興味を持ってなかった。
- ・ 介護のしごとは素晴らしい。
- ・ 内容がよく分かった。
- ・ 介護には興味はあるけど、仕事にしたいとは思わなかった。
- ・ 若い職員さんたちが高齢者の方たちと意思疎通を図ろうと努力している姿が印象的でした。
- ・ いろいろな局面から介護の仕事を紹介しているので、知見は増えると思う。
- ・ 読みやすく、自分の知らない介護の一面も知ることができてよかった。
- ・ 自分が介護を受ける年齢。
- ・ そんな軽く興味を持ってない。
- ・ 介護の大変さが書いてないこと。
- ・ 若い方が、いきいきと介護の仕事をしているのを見て、新鮮な気がしました。
- ・ 年齢的に無理だと思った。
- ・ 介護職が減ってきているので大事だと思う。
- ・ このような意見広告の様な記事は他紙にも水平展開した方が良い。
- ・ 介護について勉強になった。
- ・ 介護は 社会的に課題がある。
- ・ ポパイのような影響力のある雑誌が取り上げるのは良いと思った。
- ・ 良い取り組みだと思う。
- ・ 現場の方がよくわかって良い。
- ・ 知らなかったことが多く、もっと知りたいと思いました。
- ・ 大変な仕事だと思った。
- ・ 介護は自分の親にも自分にもいつか関わること。だからどんな業界なのか深く知りたいと思った。
- ・ 介護のスタッフさん方にはいつもお世話になっています。
- ・ 理想と現実結構違うし場所によっても変わると思う。ただ自分の仕事にはしたくない。
- ・ 従事する方ではなくお世話になる方だと思われる。
- ・ わかりやすくていい。
- ・ 介護は職業の一つではあるが、高齢者の最期に携わる重要な仕事であり、記事に登場した介護士の方の熱意が伝わった。
- ・ 印象は変わらなかった。
- ・ もっと関心を持つべきだと思いました。
- ・ 介護の仕事は思っていた以上に大変だと分かった。
- ・ 外から見るときつい仕事と思っていたが、内情が知れて良かったです。

POPEYE読者アンケート結果

「介護のしごとのことをちゃんと知ってみたいか？」を読む「前」と「後」の介護のしごとに対する印象



POPEYE特集記事を読んでいただくことで、**0.51p**のイメージUP (態度変容) につながった。

福祉をたずねるクリエイティブマガジン「こここ」による連載記事展開！

こここ

無関心・関心層向け

興味喚起・理解促進

メディア(Web)

2021年4月にスタートしたマガジンハウスのウェブマガジン【福祉をたずねるクリエイティブマガジン「こここ」】は、福祉・介護の現場、関わる人、当事者の方々を訪ねながら、記事制作、発信しています。本事業でこれまでに、全25記事を配信しました。この25記事は次年度も引き続き閲覧可能にアーカイブし、今年度は新たに8記事を新規制作し、配信。「自分らしく生きる”を支えるしごと」とは別に、「ケアするしごと、はじめの一步」を継続。こここニュースと合わせて、4記事を展開した。

“自分らしく生きる”を支えるしごと -介護の世界をたずねて-

- vol.26 「安心できる住まい」はどう育まれる？ 特別養護老人ホーム「美里ヒルズ」をたずねて
- vol.27 「ケア」を感じたマンガを教えてください。作家、社会学者、アーティスト、福祉施設長の選ぶ4作品
- vol.28 安心して歳を重ねられる地域とは？社会福祉法人くらしのハーモニーをたずねて
- vol.29 一人ひとりの“あたり前”を大切にできる環境とは？「あたり前の暮らしサポートセンター布施屋」をたずねて
- vol.30 いいチームってなんだろう？多職種連携で「看取り」に取り組む特別養護老人ホーム「芦花ホーム」をたずねて
- vol.31 「助けて」という言葉が必要になる前に。社会福祉法人丹緑会特別養護老人ホーム栗林荘をたずねて
- vol.32 本から「介護にあるまなざし」に出会う。編集者、ダンサー、美術家、介護職員の選ぶ4冊
- vol.33 ケアはしがらみも、めんどうくささもある？竹端寛さん、羽田知世さん、石川裕子さんによる鼎談

ケアするしごと、はじめの一步

コンテンツ

- 記事 1 | ことば展イベントレポート
- 記事 2 | 社会福祉HERO'Sイベントレポート
- 記事 3 | 「幸せ本 読書会」運営ツール無料公開
- 記事 4 | KAIGO LEADERS SCHOOL AWARD2025イベントレポート



ここ連載① | “自分らしく生きる”を支えるしごと-介護の世界をたずねて-

福祉をたずねるクリエイティブマガジン〈ここ〉にて施設の在り方やケアの方法論にしっかりとしたビジョンを持った介護の現場を訪ねたり、介護のしごとの理解促進を図る識者へのインタビューさせていただいたり、8記事を新規に制作、公開。(前年度までの25記事も引き続きアーカイブ)

“自分らしく生きる”を支えるしごと -介護の世界をたずねて-

<https://co-coco.jp/series/nursing/>



vol.
26
2025.11.30

「安心できる住まい」はどう育まれる？ 特別養護老人ホーム「美里ヒルズ」をたずねて

表示回数：15,478

<https://co-coco.jp/series/nursing/misatohills/>



vol.
27
2025.11.18

「ケア」を感じたマンガを教えてください。作家、社会学者、アーティスト、福祉施設長の選ぶ4作品

表示回数：16,096

https://co-coco.jp/series/nursing/care_comic3/



vol.
28
2025.12.05

安心して歳を重ねられる地域とは？ 社会福祉法人くらしのハーモニーをたずねて

表示回数：16,788

<https://co-coco.jp/series/nursing/kurashino-harmony/>



vol.
29
2025.12.10

一人ひとりの“あたり前”を大切にできる環境とは？「あたり前の暮らしサポートセンター布施屋」をたずねて

表示回数：18,527

<https://co-coco.jp/series/nursing/fuseya/>



vol.
30
2025.12.17

いいチームってなんだろう？ 多職種連携で「看取り」に取り組む特別養護老人ホーム「芦花ホーム」をたずねて

表示回数：15,921

<https://co-coco.jp/series/nursing/roka/>



vol.
31
2025.12.26

「助けて」という言葉が必要になる前に。社会福祉法人丹緑会特別養護老人ホーム栗林荘をたずねて

表示回数：19,636

<https://co-coco.jp/series/nursing/ritsurinsou/>



vol.
32
2026.01.14

本から「介護にあるまじし」に出会う。編集者、ダンサー、美術家、介護職員の選ぶ4冊

表示回数：13,547

https://co-coco.jp/series/nursing/nursing_book2/



vol.
33
2026.02.13

ケアはしがらみも、めんどうくささもある？ 竹端寛さん、羽田知世さん、石川裕子さんによる鼎談

表示回数：7,398

<https://co-coco.jp/series/nursing/care3/>

ここ連載② | ケアするしごと、はじめの一步

「ここ」では、ウェブ上で興味喚起の拡大化と、関心層へのネクストステップを新連載で情報提供。前段の連載とは別に、「ケアするしごと、はじめの一步」(4記事)を、介護職発信事業者様とも連携し公開。リアルイベントのレポート記事を配信し、より広範な層に対して、介護のしごとの興味喚起と理解促進を行った。

ケアするしごと、はじめの一步

<https://co-coco.jp/series/caesurushigoto-firststep/>



vol.
6
2025.12.26

自分の暮らしと「介護のしごと」はつながっている？ “わたしの暮らし”をノックすることは展レポート

表示回数：5,406

<https://co-coco.jp/series/caesurushigoto-firststep/careten2025report/>



vol.
7
2026.02.27

“ケアするしごと”の若手たちは何を大切にしている？ 社会福祉HERO'Sイベントレポート

表示回数：3,384

<https://co-coco.jp/series/caesurushigoto-firststep/shafuku-heros/>



vol.
08
2026.03.13

子どもわかる“福祉”の本、まずは大人で読みませんか？「幸せ本 読書会」運営ツール無料公開！

表示回数：522

https://co-coco.jp/series/caesurushigoto-firststep/shiawasebon_slides/



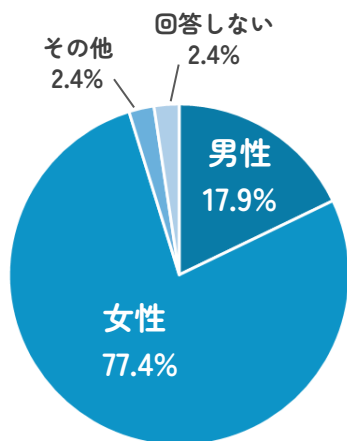
vol.
9
2026.03.27

葛藤と面白さのあいだで「介護」の何を伝えていく？ KAIGO LEADERS SCHOOL AWARD2025 イベントレポート

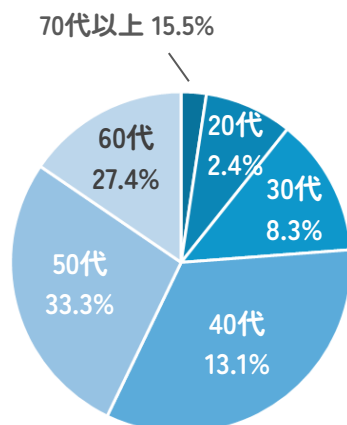
表示回数：454

<https://co-coco.jp/series/caesurushigoto-firststep/award2025/>

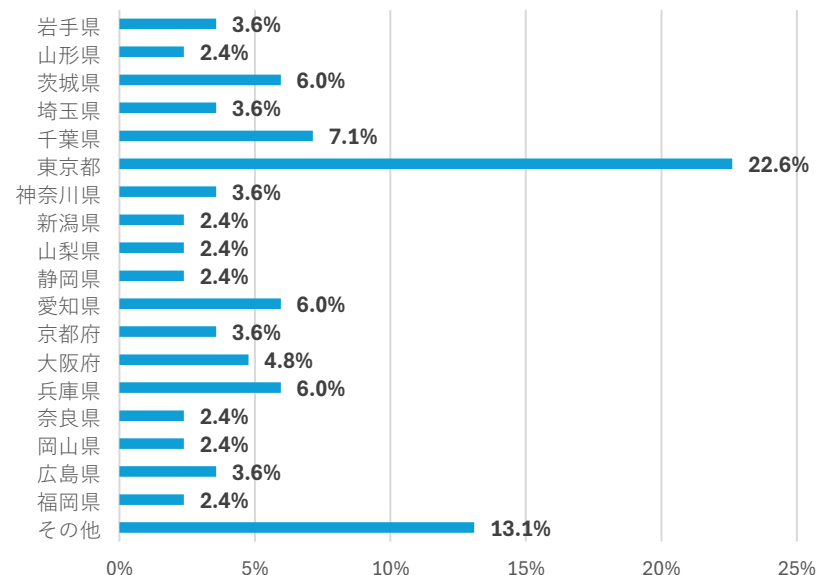
性別



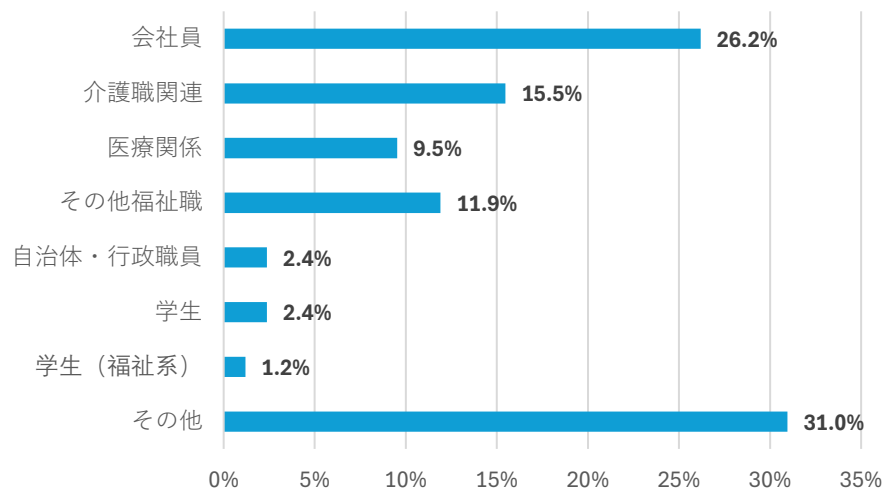
年代



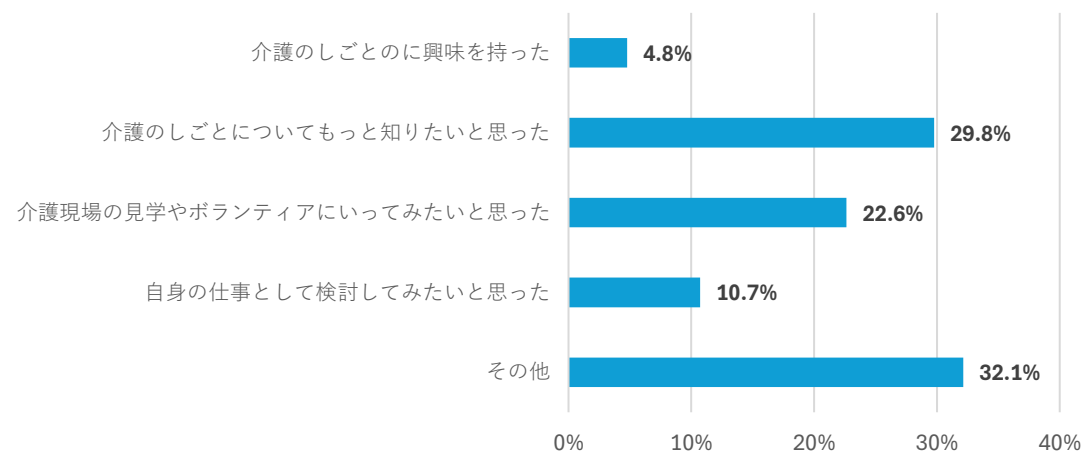
居住地



職業



『自分の存在が価値になる。個性を活かせる介護のしごと。』の記事をお読みになってどのように感じましたか。



Q.記事に関するご意見・ご感想

- ケアする人、される人でそもそも対等ではないということを、いろいろな思いを持って考えさせられた。介護を受ける人は家族に迷惑をかけたくないと言うが、家族ではない人を頼るのは最善なのか。介護できない場合、どうとらえればいいのか。介護を受ける人の気持ちなどなど。もう遠くない状況なので、俯瞰しながら無理のない形やお互いによい形を考えたいと思いました。
- 私も福祉の現場で働いています。わりとネガティブなイメージも多い介護の仕事。このように発信されていることが嬉しくて、私もがんばろうと思えます。多くの人に見てもらいたいです。
- 今まで介護の仕事をしてきた経験がありますが、本当に、施設によって考え方が様々。今では本当にたくさんの介護施設がありますが、「自分の家族を入居させたい」と思える施設は正直そう多くはありません。また、実際に祖母が入所している施設は、祖母に会いに行っている時は穏やかに対応してくれていますが、実際にどんなケアをしているのかは不透明なまま。家族側からの歩みも必要なのかなど感じていました。こうしてこここさんでたくさんの素敵な施設を知り、それぞれがそれぞれで想いを持ってやってらして。記事になると素敵な部分が際立って見えて、隣の芝が青く感じますが、きっとどの施設さんもたくさんの挫折や失敗や苦労があったと思います。連載記事をいくつか見させていただいて、祖母の施設の職員さんとも、もう少しこちら側からアプローチすると、想いをもっと見えてくるかなと思わせてもらいました。実際にたくさんの施設さんに足を運ぶことは難しいので、こうして連載で施設さんや想いを持った方を取材していただけると、こちらとしても大変勉強になりますし、「まだまだ世の中捨てたもんじゃないな」と思わせてもらえます。ありがとうございます。
- 日常の言葉で紡がれる記事をいつも楽しみにしている。我々が使う言葉は、いつのまにか現実を離れ、言葉それ自体として、別の世界を構築してしまう危険性をもつと思っているのだが、この連載の言葉はいつもすっと胸にしみこみ、原体験がそのまま言葉になったような温かさがある。
- 自分の機嫌は自分でとる、をやらなければと思いつつも暮らしていますが、本当は大人も、普通に暮らしているように見えても苦しい。友人に聞いてもらうのも遠慮がちになる。そして甘えられない、と距離をとる。ケアは、求めて良いし、元気になったらケアする側にもなれるのだと思いました。
- ひとにフォーカスされた記事も、画像もよく練られ、考えられ、制作サイドの意図がよく伝わってきます。「介護の仕事」の評価やイメージは、多角的な要因が重なり合い、実態とイメージと評価（給与所得も含め）乖離が起きているものと思います。介護に従事される方の賃労働を、倍ほどに上げることのできる社会と政治を求め続けたいと強く思いました。
- 下北沢の展示を実際に拝見させていただきました。改めて記事を読んで、頂いたシートを見返して、もう一度問いの回答を考えてみたいと思った。
- 利用者の立場から介護を考えられ、実践されていることに感銘した。他の介護施設もこのように行えば、施設での生活のイメージもよくなり、この語の高齢化社会に対応し、就労される方も増えるだろうと思った。施設内も明るく、家庭での生活の延長のようです。ケアサービスの計画書に夢を記載するのもよいですね。
- 並大抵でない地道な介護者様の努力を感じます。そこ迄よりそっていただける入居者様は幸せだと思います。素晴らしいことです。明るい未来ですね！！
- 私が今まで感じていた施設に対する考え方が変わりました。正直、余り良い印象が無かったので。美里ヒルズにいらっしゃるスタッフさん達の様な方ばかりなら、入居される方も幸せだろうと思いました。私がお世話になるなら、この様な施設がいいと思いました。
- とても楽しみにしています。福祉にはとても興味があって特に祖母がグループホームに大変お世話になったので、暮らしを支えている人のことを知りたいと思っています。写真もとても良くて印象に残るので、あの写真の記事良かったな、と再読したりしています。
- 自分自身が車椅子ユーザーで支援の人の手助けを借りて自宅で1人で生活している身です。足が不自由とはいえ立てていた頃は看護助手のバイト経験もあるのですがこんな人間として扱って下さる様な支援者の手助けなら対人恐怖症みたいな感じにならなくて恐怖心を持たずに支援を受けられるのかなという気持ちになった。
- 姪が取材された事を姉が教えてくれ、記事をアップしてくれました。社会福祉士の資格を取り、介護施設で働いていることは知っていました。実家に来てくれた時に会う姪と変わらない、姪らしいスタイルで仕事しているのが記事や写真からも伝わってきました。彼女の揺るがない芯の強さが仕事に活かされていると感じます。私も似たような仕事をしています。職場のスタッフが働きやすく、話しやすい環境を整えていくことでモチベーションを上げ、ここで働いて良かったと思ってもらえるように努めています。福岡と京都と距離はあり、仕事の内容は違えども利用者さん、スタッフを大事にする気持ちは一緒かなと。お互い自分らしいスタイルを失わないように仕事を続けていくことが『自分らしく生きる』に繋がっていくのかなと思いました。 なっちゃん、応援してるよー！ 福岡より愛をこめて。
- 穏やかでゆったりとした時間が流れているようで、とても素敵な介護施設だと思いました。介護職である私自身の仕事の取り組み方・向き合い方を考えさせられました。勉強になりました。

Q.記事に関するご意見・ご感想

- ・ 介護といっても幅広い。世の中に広く知ってもらうための入り口として良いと思う。
- ・ 1話しか読んでいませんが、素晴らしい事例で感服しました。
- ・ 介護の仕事をしていますが、時間に追われる事もあり、申し訳ない気持ちになります。笑顔と思いやりの気持ちで、ごめんなさいに変えています。羨ましい気持ちで読みました。ありがとうございました。
- ・ 介護の仕事は本当に大変で、それを仕事にしている方には頭が下がります。この記事を読んで、利用者さんも職員もどちらも楽しく笑顔でいるのが素晴らしいと思いました。高齢者の得意なことを「教えてもらう」という考え方。わかっていてもなかなか実行できません。義母は95歳で施設で車椅子生活ですが、いつも「なにか仕事がしたい！」と言っているのはこういうことなんだとわかりました。こんな素敵な場所があることをしれてよかったです。夫にも教えたい。
- ・ 飲食店などでも同じだと思うが、家族をそこへ連れていきたいかがいい・悪いの判断基準になると思う。いい、心地よいと思える場所を見つけるのは大変なくらいあたりまえでないのが現状なのが残念。
- ・ 介護される方のものとしてこおゆう施設が近くにあれば利用したい。
- ・ 入所者様の意志を尊重され自分らしく生きていかれることは最高です。
- ・ 利用者さんも職員さんも、一緒にいることがとても自然な感じで素敵だなと思いました。支援する側、される側ではなく、この時間を一緒に過ごす人同士という感じでした。
- ・ 当たり前を当たり前にするには当たり前とはと常にアンテナを張ることが大切だと思いました。
- ・ 毎回とても考えさせられることが多かったです。とくに最後の記事にありました、釜でごはんを炊く、農作をするなどは地域の高齢者の方々の生活にあったスタイルの継承だと感じました。またタバコやお酒もOKということで“尊重”や“敬意”を形に表していらっしゃることに感銘を受けましたら。
- ・ 利用者様が、お世話する人ではなく教えてくれる人という意識を、介護に携わる人達の根底に持てたら、介護が必要な人も介護する人も、人生が変わると思いました。良い記事を読ませて頂きました。有り難うございます。
- ・ 介護現場の見本として最高、素晴らしい考え方に感銘します。
- ・ 良くも悪くもいい話や理想的な話ではないかと考えてしまいます。個々の人は素晴らしいのですが、そういう環境ばかりじゃないだろうと。
- ・ 元消防職員で救急隊員35年、119指令センター勤務5年です。現場や介護施設、病院間の職域間、常に変化し考え続けなかなか正解が見つけれられない事案が沢山ありました。当時を思い返すと反省点ばかりです。兄が老健施設で働いていたので悩みや対応など参考にしてましたね。現場の声を真っ直ぐにまとめて、非常にわかりやすい内容だと感じました。ありがとうございます。
- ・ 非常に興味深く、メモを取りながら、繰り返し読ませて頂きました。是非とも、来年は京都へ出かけて、実際に見学にお伺いさせて頂きたいです。心身の栄養になる記事を読ませて頂けて、とても嬉しいです。
- ・ 自分のいる介護の状況は決まりきった予定をこなしているだけのような感じがしました。本当はちがうのかもかもしれませんが。
- ・ 現在、ケアマネと介護員の業務をしています。ケアマネの仕事は本当に大変です。参考になりました。
- ・ 自分の好きな事や得意なことができる居場所があるのは大変良いことですね。楽しいことが一番ですよ。笑って暮らせるなんて素敵ですね。利用している方々の笑顔が印象的です。体も段々と故障してくるので、まずは気持ちで動けるような環境がほしいですね。読んでいて元気ができました。
- ・ 参考にさせていただきます
- ・ 介護という言葉が不要な世界の可能性を感じられた。
- ・ 介護とは『生きるを支える事』だと改めて感じた。そして自分だけの感覚にとらわれず、相手が受け身でありすぎないことが大切。できること探しをすることで、生活意欲の向上に繋がるのだと思った。
- ・ とても良い環境と思います。少人数で心配りができ生活の質を維持できるのではないのでしょうか。
- ・ 高齢者は「自分らしく生きる」ができない存在だと考えていたので、励まされた。同時に「自分らしく」とは何だろう？自分の「らしさ」とは何か？を考えるきっかけになった。

Q.記事に関するご意見・ご感想

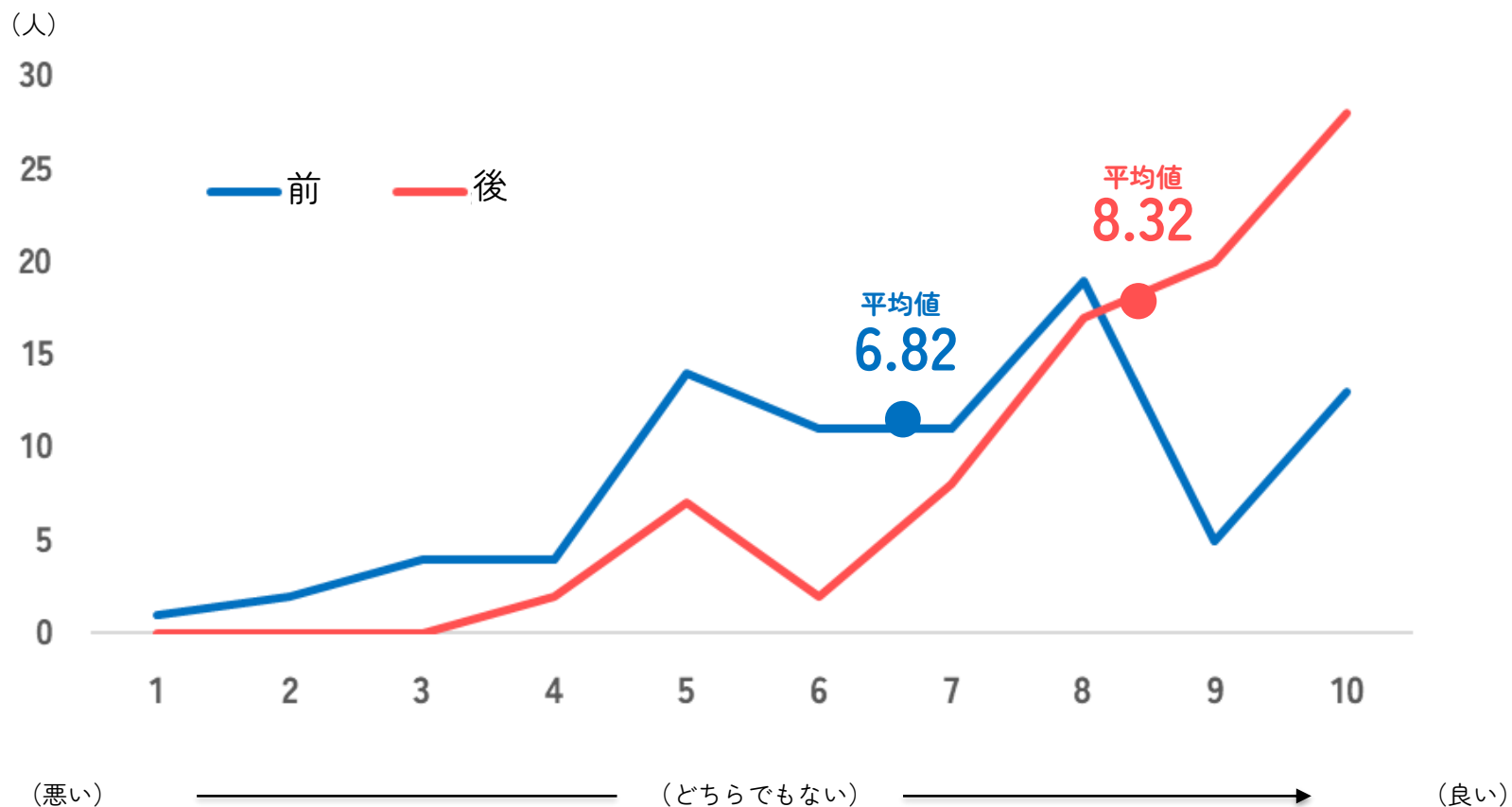
- 介護のしごとの中にもいろんな仕事や職場があって、それは一見似ているようでもそれぞれの職場で中身はまるで違うということが、連載記事を読んでいるといつも思うことです。今は、「素敵な介護の職場」が素敵ではなくなってしまったケースや、その逆のそうではなかった職場が素敵になったケースについて、もっと知りたいなと思っています。
- こんな施設で仕事がしたい、介護福祉士62歳。
- 利用者と働く側の双方にとって、よい取り組みだと思った。
- 最後まで自分らしく生きることを支えるしごと 介護の世界をたずねての連載記事に感動しました。現代社会のなかで、なにを大切に、どう生きていけばいいのか教えてもらいました。でしょうか。連載でわかった介護の世界はみなさんがいきいきしていました。介護で一番大切なこと、自分らしく生きるには何が必要か、介護におけるその人らしい生活とは何なのかを教えてくださいました。ありがとうございます。
- 親を三人介護しました。103歳で去年亡くなった義母は看取りの部屋で20日暮らし、その間とてもスタッフの方に声かけや体位変換などしてもらい、毎日感謝でいっぱいでした。仕事といえばそれまでですが、この話のように皆さんが理解し、一つになって仕事されていたなあと今更ながら思いました。最後の施設からのお見送りも感動でした。熊本にもそんな施設があることをとても嬉しく思いました。
- 職種に関わらず、スタッフが同じ気持ちで、個人らしさを活かし笑顔が大切だと思います。
- 介護とは、やってあげるものだと思っていましたが、相手を尊重し、希望を聞きながら取り入れていくことは大事だと思いました。
- ちょうど勤めている病院の研修で地域貢献とは、という事前課題があった。記事を見て、私も栗林荘で働きたいと思ったし、ありがとうという言葉の大切さを改めて実感したと思う。心地のいい空間づくりや地域の人がこの施設があるから頼っていただけるという安心安全な場所を目指していただけるように取り組んでいこうと思う。
- 岩手にも作りたい。
- 自分自身も周りの人も必ず訪れる最後の時を、どう支えるか、どう見守るかをちゃんと考えたいと思いました。
- 地域共生社会の実現が求められていますが、世の中での浸透や進捗をもっと加速させないと需要に追いつかないと感じました。
- やはり福祉職には滅私奉公のイメージが強いのでそこを気持ちよくひっくり返して欲しい。自分のままで生きる方法としての選択肢に自然と上がってくるようになると良いと思う。
- 自分も還暦を過ぎ介護施設の必要性をしみじみ感じています。こんな施設があったんだ、本当に良いなぁと感動しました。
- 今回の助けてという言葉が必要になる前には、助けてと言わなくてもいい世の中という意味もあれば、助けてと言える場所があるということなんだと思いました。相談してねという言葉は言いやすいですが、その相談したあとに、一緒に考えましょうではなく、その相談にあった場所や方法があるということは、繋がり続ける一歩と感じました。
- 介護ってやっぱり生活のなかにはいっていきんだな〜って思った。
- 私は今迄老人ホームに入ると孫達は遊びに来てくれないと思ってましたがこんな老人ホームがあれば孫達も遊びに来てくれると思います。
- 自分らしく生きる 社会とのつながり、自分の意志を保つ。 個のアイデンティティを守りながらの介護はむずかしい。 出来ないことをどう寄り添っていか、心の余裕をもっていたい。 90歳の父親の一人暮らしを守りたいです。
- やや自分の中で区別、差別、そんなものがあつたのではないかと、思い、書籍を読み漁っています。無趣味な自分ですが、副業というか、ボランティアというか、まずは見学からチャレンジしてみようかと考えています。
- 私も昨年母を病院で亡くしました 介護職員である私から見て入院から亡くなるまで疑問に思った事がたくさんあり後悔もあります 施設や病院など人に関わる職員はその方のそれまでの生き方を尊重し最期まで心に寄り添って頂けたらありがたいと思います 私も心に留め置きこれからも介護の仕事を行なっていきたいと思ひます。
- こんな素晴らしい取り組みをしていることに驚きました。 関連会社のデイケアを運営している会社に所属していたことがあり、従事しているスタッフは信念をもって介護に取り組んでいたが会社側との考え方の相違に苦しんでいたのを見ていました。 また、自分でも短期間でしたが介護に従事したことがありますが、私には向いていないなとも思っていました。しかし、それも考え次第なんだとこの記事で教えてもらったと感じます。運営をいう現実があるものの、やはり思いがこうして形になっているって本当に素晴らしいと思います。 こんなところが近くにあってたらいいいですね。

Q.記事に関するご意見・ご感想

- こういう施設が、色々な所に有れば良いと思った。
- 介護される立場の者として読んでみると成程そうかと徳信いく部分もありますが、個人的には仕事に結び付いたらこの作業も楽しくなるナート感じています。ぬり絵、折がみ大好き人間です。
- 助けてと言える環境、自然と人を助けられる環境が介護の社会の中でできるのが、素敵な事だし、実現できるんだと感動しました。このような施設だけでなく、自分の意識を少し傾げるだけでも、素敵な時間は作れるんじゃないかと気付かされました。求めるものがここにあったと嬉しく思いました。自分の住んでいる地域にもぜひ作ってもらいたいし、作るところから参加してそこで働きたい。親も自分も入りたい。父が介護職に興味はあるけど。
- 病院で介護福祉士をしています。施設での介護の仕事もしてみたいと思いました。患者様と利用者様は違うので。
- 介護に携わってる方は、頑張ってるね！
- 身内の介護期間～後も数年体調崩していました。このたびの記事をのぞかせていただき私は気持ちがとても軽くなりました。このような環境で過ごせる、関われるってすごくいいな。と思いました。楽しく向かい合える場所と思わずにはいられませんでした。私もこんな所で仕事がしたいと思いました。
- 西園寺さんの記事がとても良かったです。地域の方がごちゃまぜに集まれる場にとっても興味があります。それは福祉なのか疑問ですね。かつての日常が今は福祉の領域なんでしょうか。皆が自然に過ごせる、顔見知りの人がいるのは、ありがたいですし、そんな中で子どもを産み育て、歳を重ねて死んでいけるのは幸せですね。タブノキのお話もとてもよかったです。本音を言い合っていて楽しくないんですが...それでも自分と向き合い相手と向き合う方が、毎日気持ちよく眠れる気がします。また、ケアを感じるマンガの特集が特に良かったです。ケアをするマンガばかり読みがちなのですが（というより医療福祉関係のマンガですね）、知らないものがたくさんあったので調べて読んでみます。
- 20年間義母と義父を介護してきました。現在の介護に対する考え方が、こんなにも健やかになった事を喜んでます。自分の考え方も 変えることが出来るのが嬉しいです。
- 福祉に関わりたいと考えており、色々な事例に触れ、こんな福祉の形があるのかと驚いたし、自分じゃ手に入れられない情報を得ることが出来とても貴重な場だと感じた。
- 「地域でともに生きる」をモットーにしている、「能動的配慮」のことかなあとぼんやり考えています。人口減少でたいへんなんだけど、「これが解決策！」じゃなくて「中動態」の中に営みがあり、ケアの仕事が立ち上がる気がします。
- ごちゃまぜ、ということばに、こここのところ良く出会います 今こどもが特別支援学校に通っていますが、同世代や地域と切り離されてる感が否めないです。ゆるいつながりが広がって重なり合ったり隣合ったり出来たら良いなあと思っています。
- 単純に見えて奥が深い。
- 現在育休取得中の言語聴覚士です。春から仕事に戻る予定なのですが、私は私の仕事が好きだった、ということが記事を読んで思い出されました。
- 介護にもいろいろな分野があることを知ることができた。介護する人される人の関わり方も多様だと知った。
- 現場のことを言葉にするのはとても難しいと思った。読むのは簡単。ケアという言葉にしても、そこからこぼれ落ちる出来事や感情、葛藤があると思う。
- 「介護」とラベリングされる前から、人間が集落を作った頃から存在している仕事だと思う。よく、男性は力があって体力があって女性よりも強いと言われるけれど、ならばなぜ、介護のような力と体力と強さが必要な仕事が、女性の仕事扱いで男性の仕事ではないのか。矛盾？ダブスタ？謎の性バイアス？権力者のご都合主義？さまざまな煮凝りの結果を感じている。また、本連載でその疑問が解消されることはなく、むしろ強化されたように感じる。不思議だな。世間...男性の方が能力が高いというのがその通りならば、介護こそ、男性がやるべき仕事ではないか？今、そう感じて。有能を叫ぶ、パフォーマンス好きの派手好きな男性たちにこそ、介護の仕事がお似合いになると思う。おそらく、排泄に対する忌避感、派手なことをしたい権力者のパフォーマンスに似合わない...偏見、一部の人の傲慢が、介護という煮凝り、それに向ける眼差しに表れているのだと思う。手先の器用さ...どちらかと言えば技術科、三次元の間人を相手に、三次元の道具を使う土木建築製造...工作的なさまざまな能力が必要で、車の運転のように高度な予測、動体視力がなければ安全性を保てない...超高度な技術職なのに、軽視されすぎだと思う。優しさやあたたかさという「安全な表現」「曖昧な主観」「神話」でケアを語る...偏見の内面化を強めたり、加速することに加担するばかりではなく、トラックやバスの運転手のような高い動体視力や瞬間的に何が必要か見分ける技術などの、客観的な指標で介護を語る必要があるのでは？と思った。誰にでもできる仕事じゃないのに、軽視されすぎ。誰かの安心や安全のためには、高い技術力と本物の能力が必要で、それが軽んじられた結果が、高齢者ヘイト、障害者バッシング、困窮者叩きなのだろうと思った。皆、老いるし弱るのに。憤るばかりだ。キラキラさせるばかりじゃ、誰も救わんよ。

こここ読者アンケート結果（こここ連載①②）

「“自分らしく生きる”を支えるしごと」「ケアするしごと、はじめの一步」を読む「前」と「後」の介護のしごとに対する印象



こここ連載を読んでいただくことで、**1.50p**のイメージUP（態度変容）につながった。

「anan × POPEYE × こここ」 連携冊子制作・全国書店配布

連携冊子

無関心層向け

興味喚起

冊子配布

「anan本誌記事8ページ」と「POPEYE本誌記事8ページ」と「こここ連載のダイジェスト解説とリンク4ページ」をまとめた20ページのオリジナル冊子を作成しました。この冊子は展示イベント、トークイベント、交流イベント参加者への配布に加え、全国の書店で若年層にターゲットिंगしたサンプリングを実施。また、前年度ご要望をいただいた福祉事業者や団体の希望者にも一部提供できるよう、前年度より部数を増やしました。

イベントでの配布

「わたしの暮らし」をノックすることば展 by マガジンハウス
 @下北沢会場内で配布。若年層の来場が多い商業施設で効率的に配布。その他、ケアするしごとツアー、介護職発信事業者様のイベント等でも配布。

配布方法 各イベント時に手渡し配布、ラック設置

配布数量 2,500部

配布時期 2025年11月～

配布イベント

ケアするしごと展
 @下北沢



ケアするしごとツアー



全国書店での配布

首都圏の書店を中心に、雑誌・書籍の購入者を対象として、制作した冊子をレジ袋に同梱する形で配布。

配布方法 会計時に手渡し配布、ラック設置

配布数量 10,000部

配布時期 2025年11月～



配布の様子



配布書店計31店舗
 (内訳:BOOK1st/5,000部・LIBROグループ/5,000部)

anan × POPEYE × こここ冊子 書店配架実施店舗一覧

No.	書店名	店舗名	〒	都道府県	住所	部数
1	Book 1st.	新宿店	160-0023	東京都	東京都新宿区西新宿1-7-3 モード学園コクーンタワー 地下1階・地下2階	1,000
2	Book 1st.	中野店	164-0001	東京都	東京都中野区中野4-3-1 中野サンクォーレ1階・2階	800
3	Book 1st.	青葉台店	227-8555	神奈川県	神奈川県横浜市青葉区青葉台2-1-1 青葉台東急スクエアS-1 別館 3階・4階	800
4	Book 1st.	アトレ大森店	143-0016	東京都	東京都大田区大森北1-6-16 アトレ大森4階	600
5	Book 1st.	ルミネ町田店	194-0013	東京都	東京都町田市原町田6-1-11 ルミネ町田店 7F	400
6	Book 1st.	シャポー市川店	272-0034	千葉県	千葉県市川市市川1-1-1 シャポー市川 1階	600
7	Book 1st.	阪急西宮ガーデンズ店	565-0824	兵庫県	兵庫県西宮市高松町14-2-405 阪急西宮ガーデンズ 4階	800
1	TSUTAYA BOOKSTORE	TSUTAYA BOOKSTORE マークイズ福岡もち店	810-8639	福岡県	福岡県福岡市中央区地行浜2-2-1 マークイズ福岡もち2F	300
2	積文館書店	積文館書店 新天町本店	810-0001	福岡県	福岡県福岡市中央区天神2-8-215	200
3	積文館書店	積文館書店 小田部店	814-0032	福岡県	福岡県福岡市早良区小田部4-5-50	200
4	リプロ	リプロ 大泉店	178-0063	東京都	東京都練馬区東大泉2-10-11	100
5	リプロ	リプロ 光が丘店	179-0072	東京都	東京都練馬区光が丘5-1-1	100
6	リプロ	リプロ エミオ富士見台店	176-0021	東京都	東京都練馬区貫井3-7-5	100
7	オリオン書房	オリオン書房 ノルテ店	190-0012	東京都	東京都立川市曙町2-42-1	300
8	オリオン書房	オリオン書房 ルミネ店	190-0012	東京都	東京都立川市曙町2-1-1	300
9	オリオン書房	オリオン書房 むさし村山店	208-0022	東京都	東京都武蔵村山市榎1-1-3-3011	200
10	バルコブックセンター	バルコブックセンター 調布店	182-0026	東京都	東京都調布市小島町1-38-1	200
11	TSUTAYA	TSUTAYA 町田木曾店	194-0037	東京都	東京都町田市木曾西1-17-13	300
12	リプロ	リプロ 浅草店	111-0032	東京都	東京都台東区浅草1-25	200
13	リプロ	リプロ ひばりが丘店	202-8520	東京都	東京都西東京市ひばりが丘1-1-1	200
14	リプロ	リプロ 南砂町店	136-0075	東京都	東京都江東区新砂3丁目4-31 南砂町ショッピングセンターSUNAMO3F 16区画	200
15	TSUTAYA BOOKSTORE	TSUTAYA BOOKSTORE 亀戸	136-0071	東京都	東京都江東区 亀戸6丁目31番6	200
16	リプロ	リプロ イオンモール鶴見店	538-0053	大阪府	大阪府大阪市鶴見区鶴見4-17-1	200
17	リプロ	リプロ 江坂店	564-0051	大阪府	大阪府吹田市豊津町9-1	200
18	あゆみBooks	あゆみBooks 仙台一番町店	980-0811	宮城県	宮城県仙台市青葉区一番町4-5-13	200
19	TSUTAYA BOOKSTORE	TSUTAYA BOOKSTORE 則武新町	451-0051	愛知県	愛知県名古屋市中区則武新町3丁目1-17	300
20	TSUTAYA	TSUTAYA 春日井店	486-0917	愛知県	愛知県春日井市美濃町2-3	300
21	リプロ	リプロ 西明石店	673-0005	兵庫県	兵庫県明石市小久保2-7-20	200
22	積文館書店	積文館書店 アクロスモール春日店	816-0814	福岡県	福岡県春日市春日5-17	100
23	リプロ	リプロ大分わさだ店	870-1155	大分県	大分県大分市玉沢 字楠本755-1 トキハわさだタウン2街区3F	200
24	リプロ	リプロ大分トキハ店	870-0021	大分県	大分県大分市内町2丁目1-4 6階	200
						10,000



小学生向け冊子を活用した大人向け読書会

読書会

無関心層向け

興味喚起

PDFデータ公開

前年度、本事業で制作した「介護（職）」の社会的必要性を訴求する小学生向け冊子（通称『幸せ本』）の普及のためのプロジェクトを立ち上げ、オンラインで福祉にまつわる読書会（通称「幸せ本 読書会」）を開催するための運営ツールをウェブマガジン〈こここ〉で無料公開。プロジェクト活動の一環として、大人向けのオンライン読書会を実施した。

読書会運営ツール



読書会

日時 | 2025年12月7日(日)14:00~15:30

主催 | 株式会社マガジンハウス こここ編集部

申込人数 | 12名

参加人数 | 9名(+こここ編集部メンバー数名)

参加費 | 無料

開催場所 | オンライン(Zoomにて)

対象 | 『幸せ本』の内容に関する理解を深めていきたい方、
次世代の子どもに伝えたいと思う方、
自分も読書会をしてみたい方など、どなたでも



配布方法

ウェブマガジン〈こここ〉
<https://co-coco.jp/series/caresurushigoto-firststep/shiawasebon/slides/>

配布時期

2026年3月~

配布内容

- 幸せ本読書会スライド(Googleスライド:スピーカーノートつき)
- 幸せ本読書会スライド(PDF)
- 読書会イベント告知文見本(Googleドキュメント)



『幸せ本』の内容

- ・タイトル:『幸せに生きるって、どういうこと？
—知っておきたい「介護」のしくみと仕事—
- ・B5版24ページ
- ・発行・制作/株式会社マガジンハウス こここ編集部
- ・監修/堀田聡子(認知症未来共創ハブ)

読書会運営ツール／幸せ本読書会スライド（Googleスライド/PDF）

『幸せ本』読書会 開催用スライド

開催目的や流れは、本スライドに準じておこなってください。
内容に合わせて、調整や追加などしていただくのも問題ありません。
ただしイラストに関しては、実例や作り置き、他団体の使用はしないでください。
掲載の画像は、権利をたすねるクリエイティブアゲーション（CC）の範囲でご使用ください。



制作：東京の介護福祉士 ことばの楽園 | オフライン：日本福祉出版 | オンライン：福祉出版 | 印刷：福祉出版 | 発行：福祉出版 | 販売：福祉出版 | 編集：福祉出版 | 監修：福祉出版 | 協力：福祉出版 | 印刷：福祉出版 | 発行：福祉出版 | 販売：福祉出版 | 編集：福祉出版 | 監修：福祉出版 | 協力：福祉出版

1

子どもたちにどう伝える？ ケアの仕事と社会の仕組み
— 『幸せ本』 大人のための読書会 —



『幸せ本』を見ながら進行しますので、お声かけをお願いします。

2

読者会の目的

『幸せ本』の話を、自分ごととして考えてみる！

3

録画について

本日の講話は、記録のために録音させていただきます。
内容についてご一報、読者会を運営したい想いで、
聞き手としての役割を担っていただきます。

4

『幸せ本』 大人のための読書会の流れ

- 『幸せ本』と読書会について (15分)
- Step1: 自己紹介と一言 (10分)
- Step2: みんなに聞きたい! (20分)
— お題「あなたらしい幸せの瞬間を教えてください」
- Step3: 対話の時間 (30分)
— お題「本の中で気になったページを語り合おう」
- ふりかえり・感想シェア (5分)
- チェックアウト (10分)



5

『幸せ本』 大人のための読書会の流れ

- 『幸せ本』と読書会について (15分)
- Step1: 自己紹介と一言 (10分)
- Step2: みんなに聞きたい! (20分)
— お題「あなたらしい幸せの瞬間を教えてください」
- Step3: 対話の時間 (30分)
— お題「本の中で気になったページを語り合おう」
- ふりかえり・感想シェア (5分)
- チェックアウト (10分)



6

**『幸せに生きてって、どういこと？』
知っておきたい「介護」のしくみと仕事**
(実例：幸せ本)



7

扱われるテーマはこんな感じですよ。



- 人の安心を支えるしくみ「社会保障」
- 幸せを守るための考え方「高年齢の雇用」
- 周りにある見えないバリア「社会的障壁」
- 同じところと、ちがうところがある？
「高齢者のからだ」
- 高齢者の生活を守る「介護保険制度」
- だれが支えてくれるの？「介護の専門家」
- 本当の願いをあきらめないために
「あたり前をかえらなケア」
- 自分らしさってなんだろう？「人の幸せ」

8

『幸せ本』の内容を、まずは大人が自分ごととして捉えてみよう！



9

読者会の目的

『幸せ本』の話を、自分ごととして考えてみる！

10

『幸せ本』 大人のための読書会の流れ

- 『幸せ本』と読書会について (15分)
- Step1: 自己紹介と一言 (10分)
- Step2: みんなに聞きたい! (20分)
— お題「あなたらしい幸せの瞬間を教えてください」
- Step3: 対話の時間 (30分)
— お題「本の中で気になったページを語り合おう」
- ふりかえり・感想シェア (5分)
- チェックアウト (10分)



11

Step1: 自己紹介と一言

**お名前（あだ名などもOK）と、
参加理由を教えてください。**

当日はあらかじめZoomの表示名も変更していただくように
お声かけいたします。お名前を登録していただくことで、お名前が表示されます。

12

Step2：みんなに聞きたい！

「あなたらしい『幸せ』の瞬間は？」

※お話しが長くなると途中で止めてもいいです！

13

『幸せ本』大人のための読書会の流れ

1. 『幸せ本』と読書会について（15分）
2. Step1：自己紹介とひと言（10分）
3. Step2：みんなに聞きたい！（20分）
— お話し「あなたらしい幸せの瞬間」
4. Step3：対話の時間（30分）
— お話し「本の中で気になったページを語り合おう」
5. ふりかえり・感想シェア（5分）
6. チェックアウト（10分）

14

Step3：対話の時間！

1. 「幸せ本」の中で大切に感じたり、気づいたりした箇所は？
2. 意見を聞きながら、ハッとしたことは？

15

対話のルール：「わたし」をみんなで作る

- 「わたし」を主語に
- 時間をゆずりあう
- 話さなくてもいい

16

対話の時間（ダイアログ）の進め方

「話したいことがあるよ」のサイン！
音が止ったからといって、話している人はすぐ話をやめなくてもOK

17

Step3：対話の時間！

1. 「幸せ本」の中で大切に感じたり、気づいたりした箇所は？
2. 意見を聞きながら、ハッとしたことは？

＝＝

18

おかえりなさい！

19

ふりかえり！

- 各グループで話されたことの共有
- 感想シェア

20

『幸せ本』大人のための読書会の流れ

1. 『幸せ本』と読書会について（15分）
2. Step1：自己紹介とひと言（10分）
3. Step2：みんなに聞きたい！（20分）
— お話し「あなたらしい幸せの瞬間」
4. Step3：対話の時間（30分）
— お話し「本の中で気になったページを語り合おう」
5. ふりかえり・感想シェア（5分）
6. チェックアウト（10分）

21

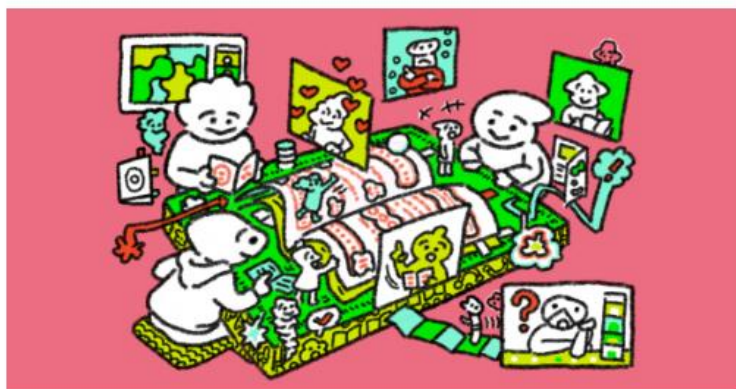
みなさんのお考えを、ぜひお聞かせください。

アンケートご感想票は、各自ご用意ください。
ご参加ありがとうございます！

22

読書会運営ツール／読書会イベント告知文見本（Googleドキュメント）

【イベント告知文見本】大人のための『幸せ本』読書会



社会を支えるしくみや人権の考え方、実際のケアの視点などを、身近な「介護」の話の入口にわかりやすく学ぶ、子ども向け冊子『[幸せに生きるって、どうということ？—知っておきたい「介護」のしくみと仕事](#)』（愛称：幸せ本）。この本の大人向け読書会を、○年○月○日に開催します。

【日時】 ○○

【主催】 ○○

【参加人数】 10名（先着順）

【参加費】 無料

【開催場所】 オンライン（Zoomにて）

【対象】 『幸せ本』の内容に関する理解を深めていきたい方、次世代の子どもに伝えたいと思う方、自分も読書会をしてみたい方など、どなたでも

【参加条件】 顔出しでご参加いただける方（参加者同士の心理的安全性のため）

【参加方法】 ○○よりお申し込みください

※ 当日は、グループに分かれてお互いの気づきを共有しあう時間があります。事前に『幸せ本』の本編（p4～19）を読んで、ご参加くださいますようお願いいたします（ご自身の暮らしの重なりを、ぜひ意識してみてください）

▼『幸せ本』の内容

対話型ストーリーと図解で、私たちの日常を取り巻くさまざまなバリアや、人の安心を支える社会のしくみ、ケアの仕事などについて学べる冊子です。8テーマからなる本編では、小学生のヒカリとウミが、スクールソーシャルワーカーのナギ先生と一緒に、ヒカリのおばちゃん（ユキノ）の暮らしと、その先にある「幸せ」について考えていきます。



- ・タイトル：『幸せに生きるって、どうということ？—知っておきたい「介護」のしくみと仕事』
- ・B5版24ページ
- ・発行・制作／株式会社マガジンハウス こここ編集部
- ・監修／堀田聡子（認知症未来共創ハブ）
- ・PDF版：https://libs.co-coco.jp/images/2025/02/26195417/shittekaitai_kaiqo_shikumi.pdf

“もともと「福祉」は「人の幸せ」って意味なんだ。そこに年齢は関係ない。他の人から見ればやさやかな願いが、本人には重要なことだってたくさんあるんだよ。”

そうナギ先生が語る幸せを、小学生の2人はどのように受け止め、自分たちにとっての「当たり前」の生活と重ねていくのでしょうか。

解説記事：https://co-coco.jp/series/caresurushiqoto-firststep/shittekaitai_kaiqobook/

—参考—

以下は、こここで開催したときのPeatixページです。ご自身の開催ページに貼る必要はありません

<https://shiwasebon-reading01.peatix.com/>

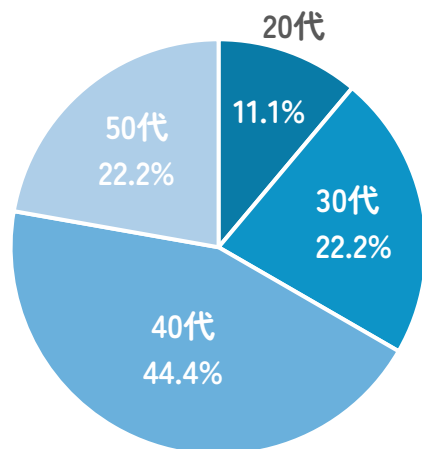
使用可能な画像は、こちらのドライブにあります（「幸せ本読書会_背景透明.png」は背景色を自由に変更いただけます）

<https://drive.google.com/drive/folders/1n36uv37Gb7zf8Av8JrVDWAp7rrK8QDP>

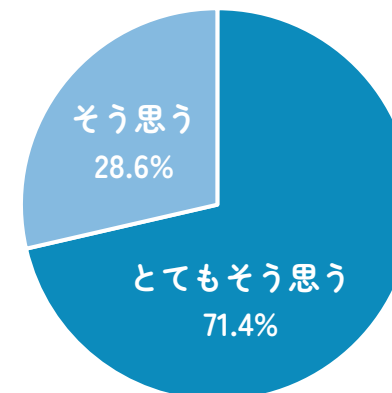
読書会アンケート結果

n=9

Q.年代



Q.今後、幸せ本（冊子『幸せに生きるって、どういうこと？ - 知っておきたい「介護」のしくみと仕事』）を活用したいと思いますか。



Q.幸せ本（冊子『幸せに生きるって、どういうこと？ - 知っておきたい「介護」のしくみと仕事』）の内容を、子ども達により広く伝えていくために、あなたができそうなことを教えてください。

- 職場で共有ができれば、いいなと思います。子どもたちにも伝えていきたいです。
- 身近にいる友人・知人に配布することから始めることかと思います。
- ぜひ配布したいと思います。
- 学校行事なんかで親子で読む会・話す会ができれば良いのでは？と思いました。自分ができそうなことでいうと、ワークショップデザイナーとして活動しているので本をもとにしたワークショップができるかも、やってみたいと感じました。
- この本を読んだ感想をnoteに書いてみようと思います。
- 友人、知人、本屋のお客さんにも配ってみたいです！
- 読書会も開きたいです。2月にスライドがアップされる・・・ということだったので、ぜひ活用させていただきたいです。
- 福祉関係者の知り合いや介護に悩んでいる友人への配布、SNSでの紹介など。
- 家族にシェアして対話する、仕事仲間にシェアする、自分のメディアで紹介する、自分でも読書会を実施する、冊子が入手できれば配布したい。

Q.今回の読書会を通して、理解が深まった点や参加しての感想・気づきなどを自由にお聞かせください。

- 他職種の方と福祉について話す機会がないので、とても良い機会を作っていただき良かったです。子どもたちと読書会をしても面白そうだと感じました。
- いろいろな視点、考え方があることを聞くことができました。日頃、関係者の開される研修会や講演と違う視点で話されることが新鮮でした。ありがとうございました。
- 今日はありがとうございました。読書会は2回目の参加でしたが、やはり楽しいなと思いました。自分以外の方の意見を伺える機会は大変貴重だと思うので、開催してくださってありがとうございます。20代の参加者の方が「介護の問題などをどうして自分たちが知っておく必要があるのだろうか？と正直思うこともある」という素直な意見を伺えたことも、非常に大事な気づきになりました。ありがとうございました。
- この本をきっかけに集まった方の活動フィールドの幅広さにも驚きました。また集って話を聞いてみたい方ばかりでした。制作の裏側のお話も興味深かったです。引き続き情報追っかけながら自分でできることに取り組んでいきたいです。ありがとうございました！
- 「わたしは」を主語にして話す、ということの大切さと難しさを同時に感じました。とても充実した時間でしたし、自分の介護の思い出についても改めて気づきがありました。（本人と一緒に、私もあきらめていたことがあったなと。）素敵な機会をどうもありがとうございました！
- 冊子を介して話すことで、普段は個人的な話としてなかなか話を持ち出しにくい自分の幸せや介護に関する話を話し合うことができよかったです。漠然と介護についていつかは勉強しなきゃ...と思っていたものの、実感がなく先延ばしにしていたときに見つけたのがこの読書会でした。介護していたお父様を亡くされたという参加者のかたが「幸せに生きるって、どういうこと？」というタイトルについて、介護当時の経験を振り返って「誰のための介護なんだろう？」と感じていたのがすごく印象的で、介護される側の幸せを考えるだけでなく、周りにいる人にとっての幸せも一緒に考えることができる冊子だと感じました。議論の時間は長めにとれた方がより多くの人の意見を聞けたり、議題に発展するのかなと感じたので、最初の幸せについて考えるワークは、事前準備をお願いするまたは部屋が分かれた後のアイスブレイクとしてやり、スムーズに議論に入れればより深い議論ができたのかも...？と感じました。
- これが子ども向けに作られたことの意義について、参加する前にはなかった視点が浮かび上がってきました。病む、老いる、亡くなっていく人に対して不安や恐怖や悲しみ、絶望などを感じている子ども、あるいは自分自身が病気や障害(医学的な)、なんらかの困難さや環境とのギャップを感じている子どもにとって、自分の状況について理解したり、自分の中で気持ちや考えを整理するきっかけになりそうな冊子だと思いました。そういう社会への信頼が土台にあるこそ、ケアや介護を仕事にしていきたいと思えるのかなと思います。全体としても子どもの人を見くびってなくて、信頼して手渡していることが随所に感じられます。イラストもかわいくて、表情豊かで好きです。こういう表現だからこそ受け取りやすい子もいるのかなと思います。大人にも役に立ちます。周りの人にも進めたい！アクセシビリティ的には、見えない、見えづらい、聞こえない、聞こえづらい子どももアクセスできる形式になっていたらなおいいなと思います。読み上げ対応、手話による動画など。他の参加者の方々が本当にさまざまで、刺激を受けました。運営の方々も含め、真摯な言葉が聞けたからこそ、深く潜って思考できたんだなと思います。丁寧に場が作られていて安心して参加できました。印象深かったコメントとしては、介護されている祖父母の近くにいる子どもやその子の近くにいる人が、子どものケアについて気づききっかけにもなるのではないかというものがありませんが、まだまだケア役割を担わされる側なのかなと思ったりもしました。よいものを作ってください、ありがとうございます。また読書会という貴重な機会をありがとうございました。見つけた自分を褒めたいです。

anan × POPEYE × こここ 「ケアリングノーベンバー2025」 @下北沢

イベント

無関心層向け

興味喚起

イベント

2025年11月に開催した下北沢BONUS TRACK「ケアリングノーベンバー」に合わせて、マガジンハウスの一部共催でコラボ企画を実施。「ことば」と「暮らし」をテーマにした体験型展示や、「老い」にまつわる演劇ワークショップ、VR技術を活用した認知症体験会などを開催。介護やケアに関わるトピックを知り、「介護のしごと」の魅力を広く発信した。

ケアリングノーベンバー

セルフケア、だれかへのケア、介護や福祉の仕事、ケア視点のある本や商品。「ケア」は、わたしたちの暮らしの延長線上にあります。毎年11月、BONUS TRACKでは「ケアリングノーベンバー」と題して、「ケア」イベントを開催します。展示、広場でのマーケット、体験型イベント、トーク、ブックフェアなど、ケアについて知ることでできるコンテンツがもりだくさん。11月はケアしよう。

名称	ケアリングノーベンバー2025
開催日時	2025年11月11日(火)～11月29日(土)
開催場所	下北沢BONUS TRACK
主催	株式会社散歩社
一部共催	株式会社マガジンハウス anan×POPEYE×こここ
来場者	約6,300人

体験型展示

冊子配布

トークイベント

演劇ワークショップ

体験イベント



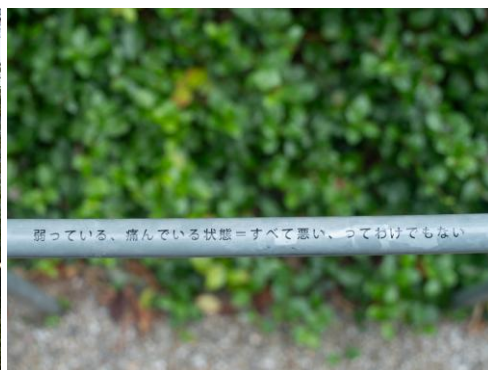
“わたしの暮らし”をノックすることば展 (11/11～11/29)

BONUS TRACK GALLERY 1 内の様子



“わたしの暮らし”をノックすることば展 (11/11~11/29)

展示コンセプトと連動する言葉を、取材記事から引用し会場内に配置。



“わたしの暮らし”をノックすることば展 (11/11～11/29)

展示コンセプトと連動する言葉を、取材記事から引用し会場内に配置。



ケアリングノーベンバー (BONUS TRACK) / 来場者・告知

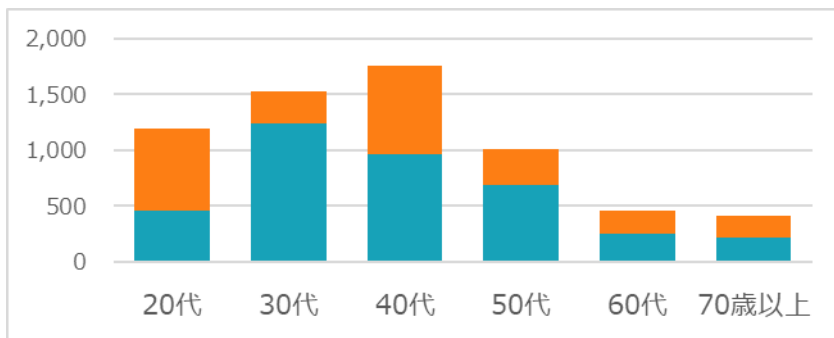
- 集計方法：全人口推計値(日ユニーク)
- 性別：男性,女性
- データ期間：2025/11/11~2025/11/29
- 年代別：20代,30代,40代,50代,60代,70歳以上
- 日にち区分：期間全体
- 居住者,勤務者,来街者
- 時間帯：11:00~20:00
- 商圏タイプ：円
- 来訪日数：1日以上
- 商圏サイズ：0.5km
- 滞在時間

(緯度：35.659340912093、経度：139.664011147403)

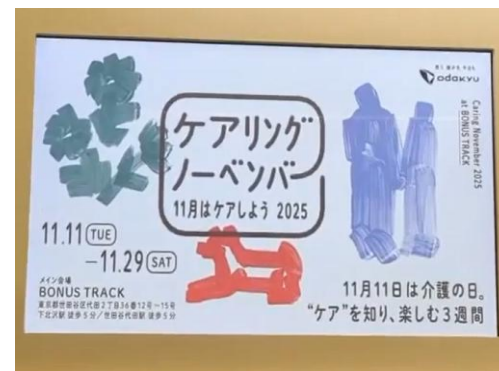


下北沢駅ホーム

性別

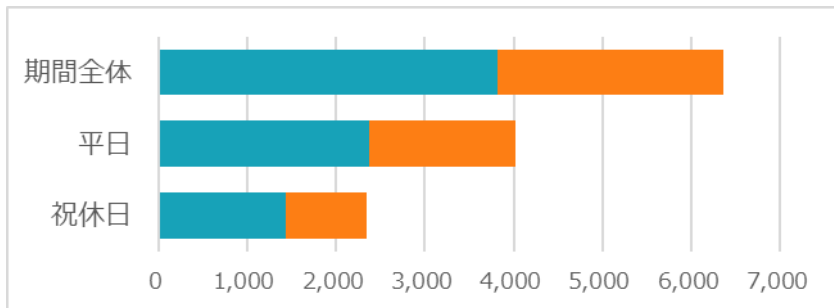


	男性	女性
20代	461	735
30代	1,244	284
40代	968	782
50代	683	326
60代	247	213
70歳以上	213	201



小田急線トレインビジョン

年代別



	期間全体	平日	祝休日
男性	3,819	2,380	1,438
女性	2,544	1,636	908

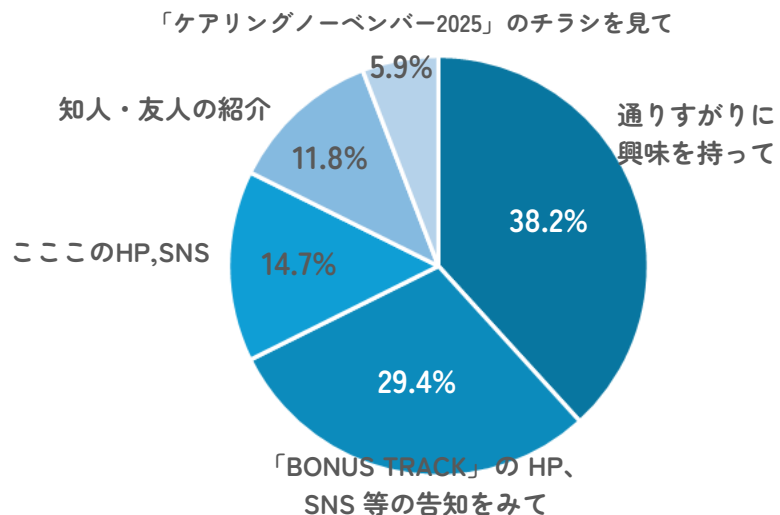


BONUS TRACK敷地内

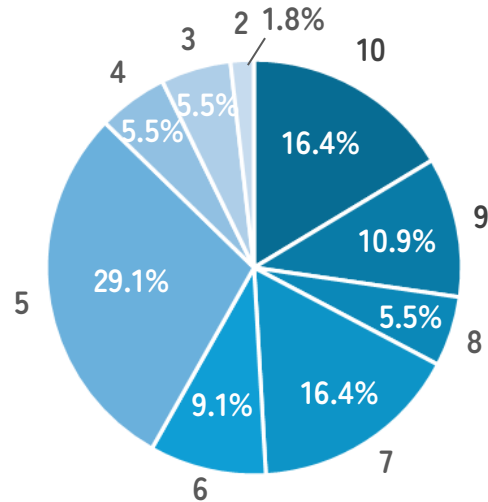
ことば展／アンケート結果

n=55

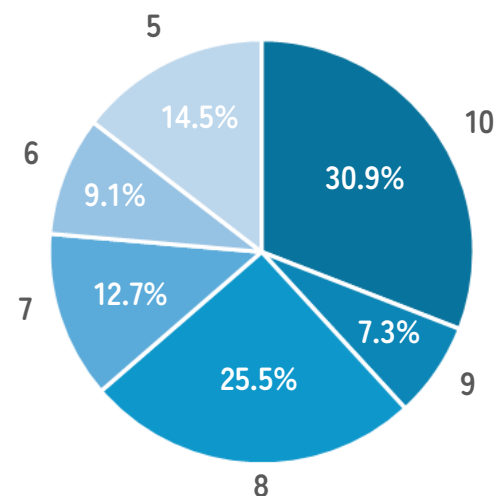
Q. トークイベントに参加したきっかけ



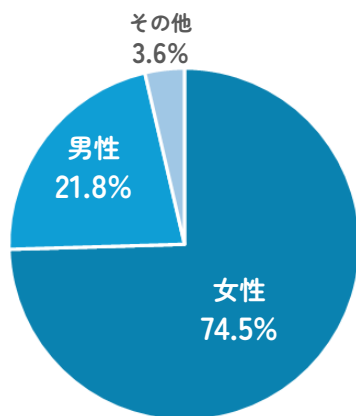
Q. 参加する[以前]の介護のしごとに対する印象



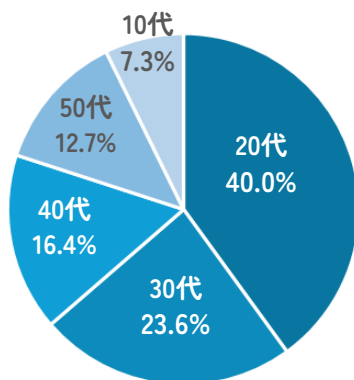
Q. 参加した[後]の介護のしごとに対する印象



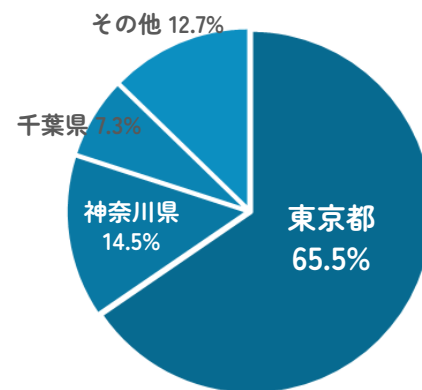
性別



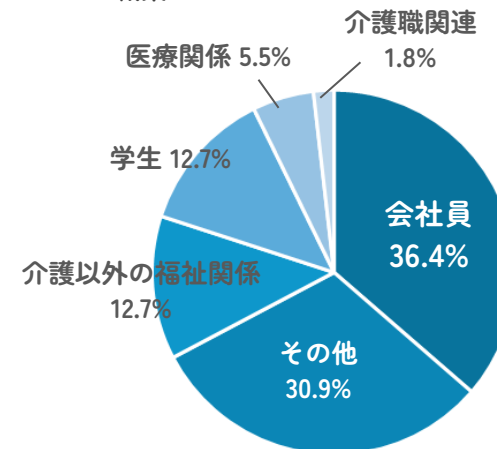
年代



居住地

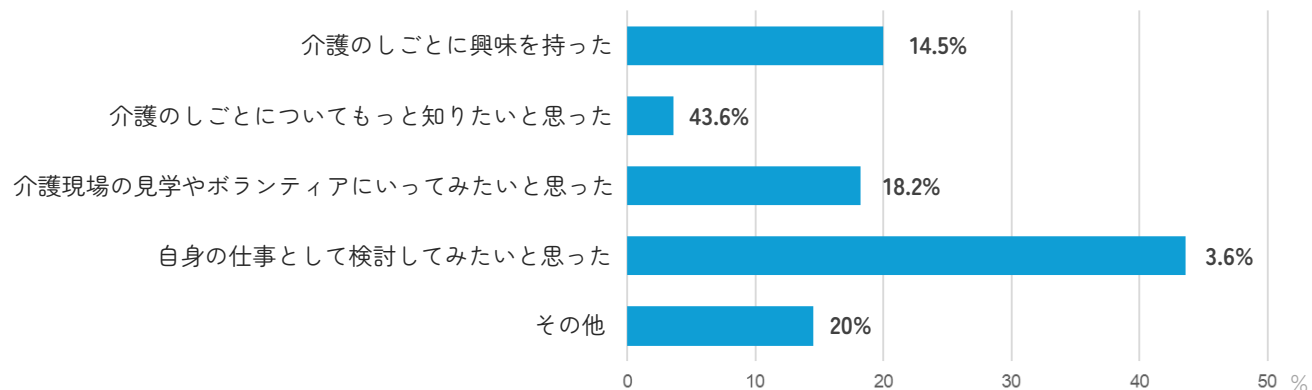


職業



ことば展／アンケート結果

Q.展示を見てどのように感じたか



▼その他回答

- 今現在、自分が取り組んでいる活動を暮らしとつなぐ道筋が見えてきました。
- ケアについて考えた。自身の生き方にもつながる良い言葉をたくさんいただきました。
- ケアをめぐる人々の想いには、介護を受ける人だけでなく、すべての人々にとって重要な根底があるように感じられた。人生についてよく考えさせられた。
- 自分自身の日々にもつながった
- 色々な正解があるのだと感じた
- 福祉の仕事をしています。毎日きれいごとでは終わらない事がたくさんあります。逆に教えられることもたくさんあって四半世紀も続けられてるのかなあ。
- 意味がすごく狭いとおもった
- 介護ってなんだろうと考えるきっかけをもらった。
- 日々働く上で意識していることや、共感できる言葉が自分の仕事、人としてのあり方に自信を持たせてくれる展示だった
- 実際に自分も福祉で働いているので関心があった
- 振り返れて良かった
- 認知症にも色々なものがあることに驚いた
- こんなにも見方が違うのだと勉強になりました
- パンフレットに直接書く質問事項が自分へのケアのアイディアに繋がった気がした
- ケアは自分以外の人へ向けたケアだけでなく、自分へ向けたケアもある、でも自分へ向けたケアだけじゃなくて、ケアしてあただ全く心が自分以外のひとにも広がってそれがもっといろんな人に広まったらいいなと感じました。
- 介護してくださる方々に感謝の気持ちが湧いた
- 介護という概念について考えたいと思った
- 介護士さんの人の心の温かさを感じられました。介護の仕事の奥深さを感じました。
- 迫ってくるような言葉にぐっときました。今は心にゆとりがあるので、時間をかけてゆっくり見れましたが、少し前だったら泣いてしまったかもしれません。シートを書くのはとてもよい時間でした。
- ケアについて興味が出ました

ことば展／アンケート結果

Q. ご意見・感想

- ゆったりとした時間が流れる中、心に染み入る言葉を探して庭を散策する事で、落ち着いた心持ちで介護のこと、周りのこと、自分のことを考えるすばらしい時間でした。すばらしい企画だと思います。
- 表現が難しい、ケアや福祉のテーマが、デザインや言葉によって本来持っている魅力がより伝わりやすくなり 身近に感じられる素晴らしい展示でした。
- 普段、見逃してしまう、場所に言葉が、置かれており、現場での言葉もそのように、気づきにくいところに存在しているよねーと感じた。ケアとはもしかしたら、かくれんぼ、なのかも。
- 言葉を集めるという面白さ、その言葉の素敵さに非常に考える余白がありとても良い展示だと思いました。
- 散歩に近い感覚で良いリフレッシュになったと思う。今後もここで得られた言葉についてよく考えていきたい。
- すごくいい展示だと思いました それぞれの求めるケア、周りがしてあげられるケア、いろいろと考えたくなりました。
- 社会人として働くうえで感じるストレス、悩みみたいなものをほぐしてくれる展示だった。また、本当はどう日々を過ごしていきたいのか、考えるきっかけになった。
- 大きな意味で自分もケアできた。
- 面白い体験だった。
- 心に響くことばが沢山ありました 歩きながら、ことばを探す、素敵なことばに心が動く、楽しい時間でした！
- 自分に向き合うことができました。
- 幅広く、ケアという意味をとった展示 介護に限らず 児童福祉なども含めると良いと思った。
- 参考になった
- 探するのが楽しかった。セルフアセスメントから楽しかった。一緒に行った友人と最後に200円クーポンで買ったお菓子を食べながら今日1番グッときた言葉を語り合おうと思う。
- 言葉を通じて自分のことを知ったり、福祉の心を持つ様々な方の考えと出会うことが出来ました。みんなが毎日安心して心豊かに過ごせるような仕事を今後もしていきたいと改めて思います。ありがとうございました。
- 振り返れて良かった。
- 最初に自分についてじっくり振り返る時間があり、私にとって心地よさとはなんだろうと見つけ直す機会になりました。また、言葉を通して介護の仕事を知る、という仕組みが面白かったです。その場所にぴったりの言葉もあり、景色をとおして身体の中ですっと入ってくるように感じました。
- たのしい。
- 自分について見直すきっかけとなっています
- 介護に関わるイメージを変えるのにとっても効果的です素敵なアプローチだなと思いました。制度だけでなく意識やイメージの変容って、実は長い目で見て重要ですよね。
- 目で見ても楽しくいつものポーンストラックにことばが隠れている展示がよかった。
- ニュースでしか触れていなかったのが、介護職に対しては、大変そう、辛そう、という暗い印象が強かったのですが、もっと具体的にどんな人が関わっているのかということが見えてきて良かった。
- 今までの介護のイメージを変える展示でした。
- 「言葉の展示」ということに惹かれて行きましたが、ひとつひとつの言葉に重みがありました。展示の仕方が素敵でした。

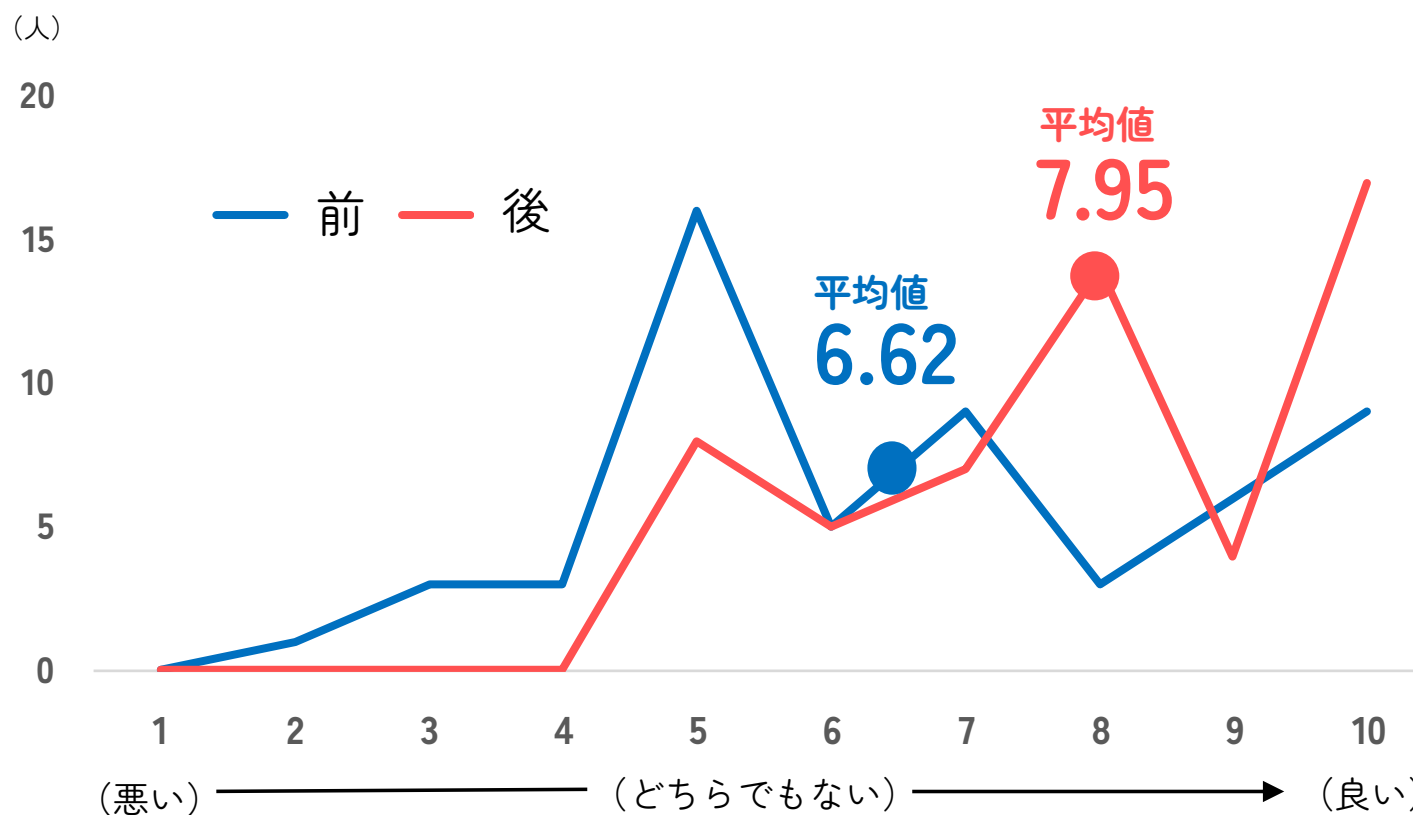
ことば展／アンケート結果

Q. ご意見・感想

- デザインや仕掛けがおもしろく、介護の仕事の、つらそう、キツそうを払拭する価値のある展示だったと思いました。とくに、若い世代に対しては魅力が伝わりやすく、ハートフルな側面を、感じるものだったと思いました。自分も親も歳を重ねる実感が増してきた今、どう老いるか、どうしまうかを考えるきっかけにもなりました。
- とても心に残る言葉ばかりで、より福祉に携わりたいと思いました。ありがとうございます。
- 問いになっていなかった、問いとみなしていなかったものに対して考えこむ時間になった。悩むことを避けていた問題や、悩むことが恥ずかしいと思っていたことだった。
- 言葉と背景が相まってとてもよかった。
- 言葉を丁寧に使う展示で好感を持ってました。
- 面白い取り組みと出会えて良かったです。
- 日常でのケアについて気づかされる展示でした。

ことば展／アンケート結果

「“わたしの暮らし”をノックすることば展」にご来場いただく「前」と「後」の介護のしごとに対する印象



「わたしの暮らし”をノックすることば展に参加いただくことで、**1.33p**のイメージUP（態度変容）につながった。

トークイベント

トークイベント

“わたしの暮らし”をノックすることは展 by マガジンハウス

関連トークイベント

向坂くじら×吉田真一 「”セルフケア”は矛盾をはらんでいる？」

日時：11月12日（水）19:30-21:30

会場：本屋B&B／オンライン配信

料金：入場料無料

ゲスト：向坂くじらさん（詩人）

吉田真一さん（株式会社でいぐにてい代表）



向坂くじらさん
（詩人）



吉田真一さん
（株式会社でいぐにてい代表）

「ケア」、特に「セルフケア」という言葉を目にする機会が増えました。自らの暮らし、健やかさを大切にしていくことは大事だし、これまで過小評価され、偏った立場に任せてきた「ケア」の重要性が語られる機会は引き続きあってほしいと思います。その入り口として、「セルフケア」も機能しているはずですが、でも使われ方によっては、問題のある環境や構造を変えるのではなく、「自分の機嫌は自分でとる、それができないのは、自分の問題」という考えを強めてしまう気がします。

詩人の向坂くじらさん、訪問介護事業を経営する吉田真一さんをお呼びし、「自己責任」的な思惑に利用されないセルフケアやケアのあり方を考えます。



会場参加：30名

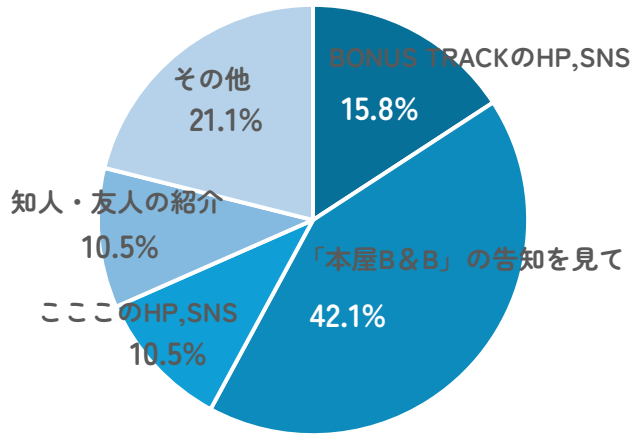
オンライン参加：約100名

※見逃し視聴（2026年3月31日まで）

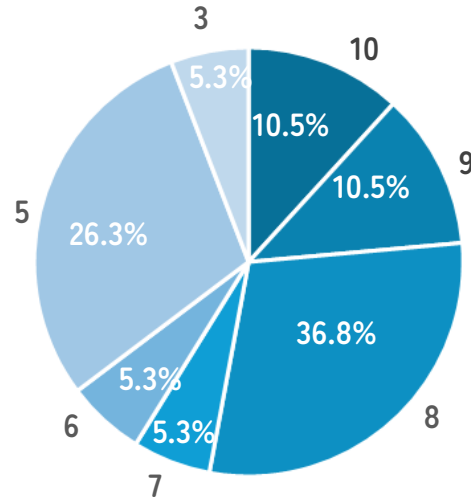
トークイベントアンケート結果

n=19

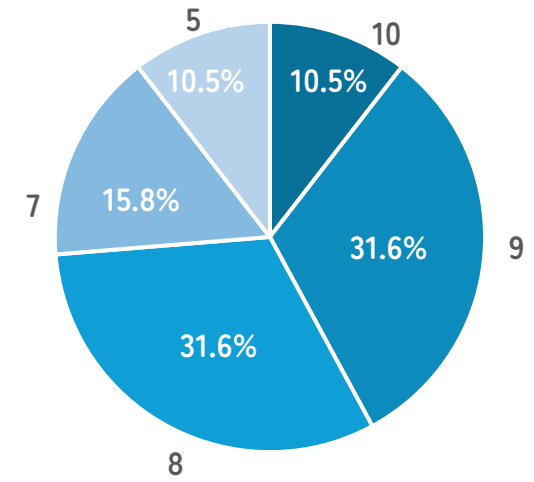
Q. トークイベントに参加したきっかけ



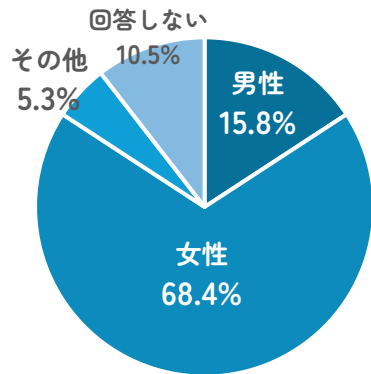
Q. 参加する[以前]の介護のしごとに対する印象



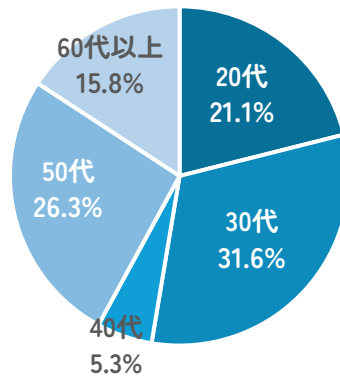
Q. 参加した[後]の介護のしごとに対する印象



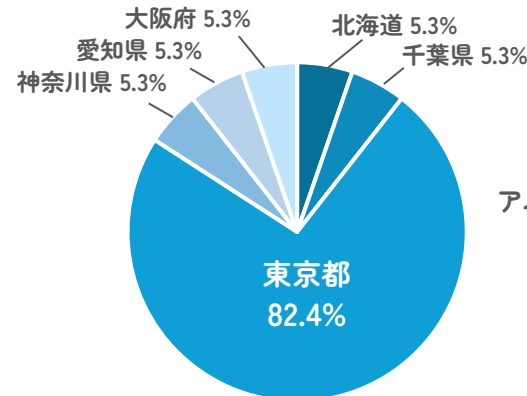
性別



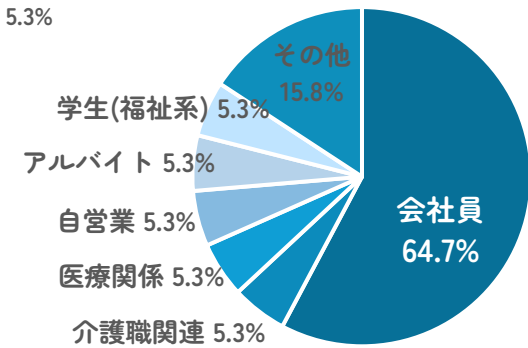
年代



居住地

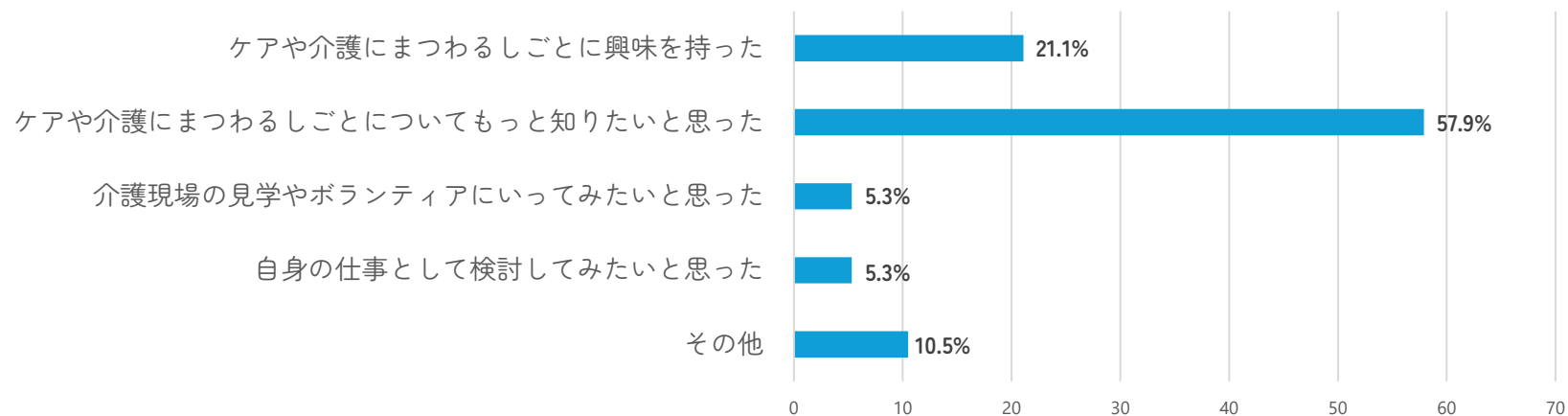


職業



トークイベントアンケート結果

Q.トークイベント「”セルフケア”は矛盾をはらんでいる？」にご参加いただいてどのように感じたか。



▼その他回答

- ・純粋にセルフケアを生活の中で実践したいと思い、セルフケアという言葉にビビッときました
- ・「介護される人」の気持ちについて考えさせられた。

トークイベントアンケート結果

Q.トークイベント「”セルフケア”は矛盾をはらんでいる？」に参加してのご意見・感想

- とても最幸な時間でした！
- 自分の関心ごと（自分の中にある家父長制的価値観を変えていきたい）に引きつけながら聞いていて、始まりから終わりまでずっと途中のままな感じがしてとてもよかったです。グラフィックデザインの仕事をしているのですがデザインの中にある、ある種の一方的な考え方をどう変えていけるか今日の話を書いたことを思い出しながら考えていきたいと思いました。
- ケアという言葉の使われ方について、深く再考する時間でした。推し活がセルフケアに文脈で使われているという指摘はなかなか鋭いです。そして、ケアしていることが正しくてしていない人がダメだという風潮は確かに私も感じていたので、いわゆるケアの暴力だなと感じている。ケアだけでなく、この暴力的な風潮は他にもいろいろとありますよね。吉田さんの、介助してもらっているけど、ケアじゃないという言葉結構重く刺さりました。まさに当事者側の想いですよね。ケアもする側される側で認識や考え方も違う。本当に言葉の使われ方、って時には恐ろしいとつくづく感じた時間でした。こういう考え方になったのは一体誰のせいで、どうしてなのか気になるところではありますけど、そこを掘ったところで今更の認識を改めることも難しいのが言葉であって。今回はケアという観点からでしたが、支援という言葉に変えても同じことが言えるのではないかとちょっと思いました。参加してよかったです。向坂さんの著書も拝見してみようと思います。
- 今日はありがとうございました。私は、その存在感ある吉田真一さんが出演ということに興味関心あふれて拝聴しました。今回は前回の対談のベースを知らずに惜しみと、双方の背景や環境を知らずにあったがゆえにもっともお聴きしたかったなあ、と思いました。
- 普段、介護や子供たちとは縁遠い生活をしているので、お二人の普段のお話はとても関心を持ちました。特に「ケアされているかどうかは受け手に委ねられている」というところは、私の身の回りで起こっている人間関係の中の「良かれと思ってした気遣い」に似た部分を感じました。一ツ気になったのは、普段人を介してケアと対峙されているお二方の経歴もあり、自分の内面で起こっているセルフケアのお話の割合が、やや少ないように感じました。最後の視聴者の質問で、そちら方面に話が広がった感じはありましたが、タイトルから連想しやすい「自分で自分をケアする」という視点で、もう少し深掘ってもらいたかったです。
- お二人の独自の視点がとても興味深かったです。
- トークイベント、とても面白かったです！ 終盤で吉田さんが味噌煮込みうどんを食べたとき、意図せず「ケアになった」とのお話をされていて、向坂さんも、コントロール外の自分に出会う、と返されていた、そのお話がわたしはしっくりきました。「ケアをする」ではなく、「ケアになる」が本来の意味での「セルフケア」のような気がします。セルフケアは、セルフケアしようと思ってしたときに満足することって、恐らく思っている以上に少なくなくて、「セルフケアのために湯船に浸かろう」と思ったときよりも、「寒いから湯船に浸かろう」と思ったときのほうが、「あ～沁みる～！！（まさに、沁みる、という漢字の感じ）」となります。そう思うと、「セルフケアしよう」「セルフケアしたい」と思うのではなく、自分自身の内なる欲望に応えられたときに、結果としてそれがケアになるような気がしました。最後、吉田さんが精神的死と身体的死のお話と、飲酒と喫煙のお話をされていて、どんなに体（身体的）に悪くても、それが本人にとっては「ケア」（精神的）になっている側面があるよな、としみじみ感じました。短い時間のなかでしたが、もっとたくさんのお話を聞きたかったです！ また、問いかけのじかんでお伺いしきれなかったのですが、「セルフケア」の対義語というか、反対の状態をお2人に聞いてみたいなと思いました。吉田さんが途中で「ケアの反対は、罰すること・傷つけること」と仰っていて、「セルフケア」もまさに、「セルフネグレクト」という言葉もありますが、お2人はどのように捉えているのかな？と気になった次第です。
- 深く考えさせられる、イベントでした。生成AI全盛期で、最適解を容易に求めやすくなっている社会において、ケアという行為のパーソナリティ性の意味を深く、深く感じさせられました。セルフケアという言葉や行為について、誰もこもっと向き合う、そんな時間を持ってほしい。アフターコロナで、まるで他人に興味を持たなくなってしまったような日本人が今最も向き合うことは、他者への思いやりだと改めて実感しました。
- 目から鱗の内容がたくさんありました。貴重な機会をありがとうございました。冒険する権利、完璧なケア、セルフケアとセルフコントロールの話が印象的です。自身・他者問わずいかに理解したかにならずにいかに想像し、対話をしていくかが重要だと気づきました。とはいえ、その塩梅の難しさも同時に感じ、考えることを放棄してはいけない、トライアンドエラーを繰り返すしかないのかもしれないとも思いました。もっと話を聞いてみたい内容がたくさんあったので、公開トークセッションの第二弾のご検討もどうぞよろしく願いいたします。

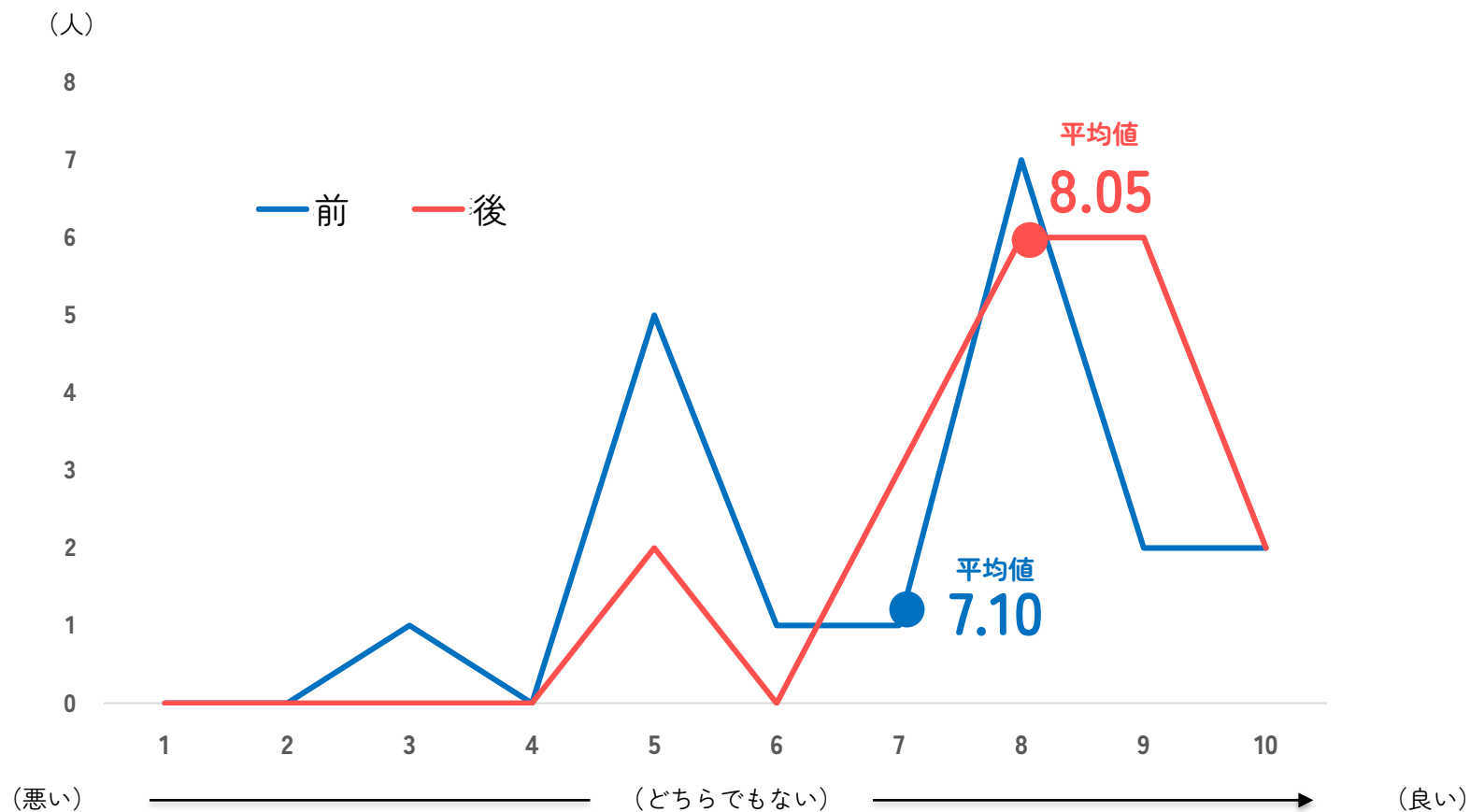
トークイベントアンケート結果

Q.トークイベント「“セルフケア”は矛盾をはらんでいる？」に参加してのご意見・感想

- 知らないひと、もの、場所への畏れは尊敬 約束事は信頼 いつも敬意があるか自問しないで自分で曲解する同意を心配しないで 万に一つ、ケアとケアが手をつなげたら それをいっしょに喜びたい
- お二人のじっくり聴き合いながらのトーク、楽しかったです。ケアと聞くと、まずは医療関連のイメージがありますが、あらゆる職種、また社会生活を送る上で改めて誰人にもセルフケアは必要なものだと感じました。普段はあえてセルフケア、と意識したことはないのですが自分が自分で居られるように自然に行なっているように思います。ただでさえ生きづらい昨今なので、それぞれのやりかたで日々少しでも自分を温める時間を持つことが大切かなと。またケアされたと感じるのは吉田さんの話にもありましたが(味噌煮込みうどんの件)魂で感じられるレベルのことかなと思います。自分にとって生きていく上で経験したじんわり心が熱くなるような心震えるシーンがあるものですよ。そういう場面に会った瞬間に泣けるような。たとえ自分が身体的にも心理的にも、どんな状況でもそれは変わらないと思うので、そのレベルのことが自分や他者によって実現できたならそれは心から嬉しいと思います。心が充足される感じ。生きててよかった一時的な、それがケアされた、という感覚なんだと思います。それから、今日お話聞きながらちょっとだけ論点に加えてほしかったのは、ケア＝甘えという式について。たまには自分を褒めようとか、甘やかそうとかいう時代の風がありますよね。セルフケアとはそれと近い部分もあるのかなと。一方で似て非なるものでもある。先ほど書いたように、魂レベルでの満足があつてのケアされている感、だと思うので。最後に...「リスクを負う権利」について、ですが、本当に大切なことだなあと感じました。障害のある方を最大に尊重する視点だと思うので今日から忘れずにいろんな立場の方とつきあっていきたいと思います。進行も落ち着いた安全空間を保証してください...本日はありがとうございました！！
- くじらさんがしていた、教育の場ではいかに子どもが死にくくなるように大人が振る舞いがちだが、子どもには痛む権利もあるというようにお話がすごく印象に残っています。
- Q2の回答にも書きましたが、介護される立場の人が何を感じ、考えるかという問題を知ることができました。障害者サーフィンの開放感とか、ゴッホ展に並びたいとか、自分の目標の形があるから手伝わなくて欲しいとか、すごく印象的で、そういう感覚に敏感でなくてはいけないということを考えさせられました。「介護する側」の言説が多くなりがちな昨今、当事者の意思を尊重する姿勢をどう保つか。新鮮な視点を得ることができました。
- 昨今の「セルフケア」の扱い方について、私自身思うところがあったため、今回テーマとして取り上げてくださったことに、まず驚きと嬉しさを感じる。介護のお話は、私が以前介護職に就いていたこともあり、当時の状況を思い出すきっかけになったし、考えさせられる内容であった。「危険回避・安全であること」と「その人の意思を尊重すること」は、両方大切な考え方であるが、時に両立が難しい状態になることもあり、一筋縄ではいかない問題だと思う。向坂さんと吉田さんの対談が非常に興味深く、もっとお話を聴いてみたいと感じた。

トークイベントアンケート結果

「トークイベント」に参加いただく「前」と「後」の介護のしごとに対する印象



トークイベントに参加いただくことで、**0.95p**のイメージUP（態度変容）につながった。

演劇ワークショップ（11/20・21）

演劇ワークショップ

演劇を通して相手の世界を想像する。

OiBokkeShiによる老いと演劇のワークショップ

日時：11月20日（木）、21日（金）19:00-21:00（18:30開場）

会場：世田谷代田仁慈保幼稚園 Piazza（東京都世田谷区代田2丁目32-16）

参加費：無料 ＊要事前申込み

ゲスト講師：菅原直樹さん

（「老いと演劇」OiBokkeShi主宰、俳優、介護福祉士）

<https://engeki-ws.peatix.com/>

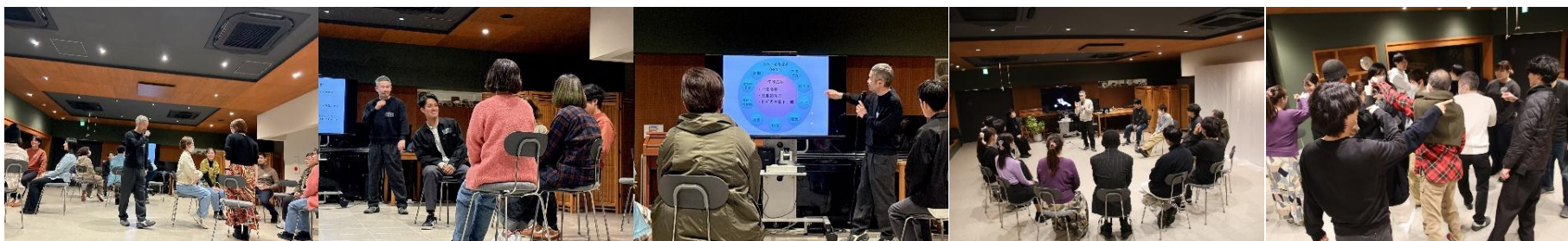


参加者

11月20日：18名

11月21日：15名

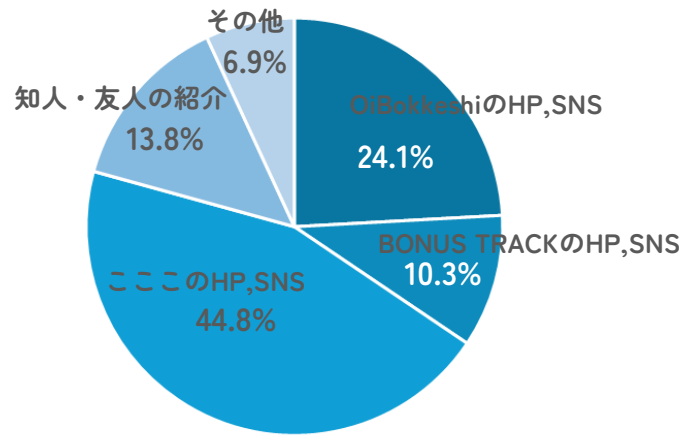
演劇は「他の人の立場に立ってみる」ことから始まります。例えば、時間や場所がわからなくなってしまうたり、物忘れをしてしまったり——。そんな感覚を演じることで、新しい視点やコミュニケーションの工夫が見えてきます。このワークショップでは、ゲームや演劇体験を通して、認知症のある人の世界に近づきながら、向き合い方や関係性の作り方を考えます。演劇や介護経験は不問。楽しみながら、未来の自分や身近な人とのことを想像してみませんか？



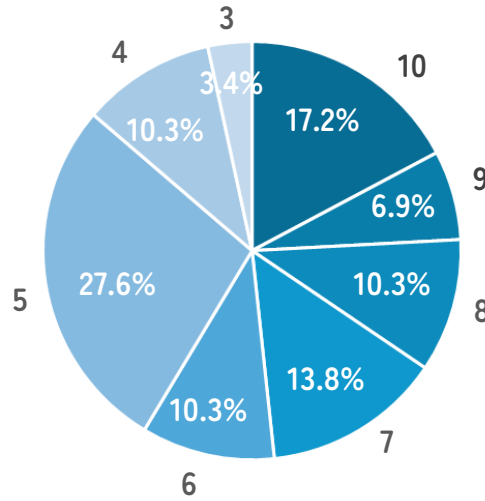
演劇ワークショップアンケート結果

n=29

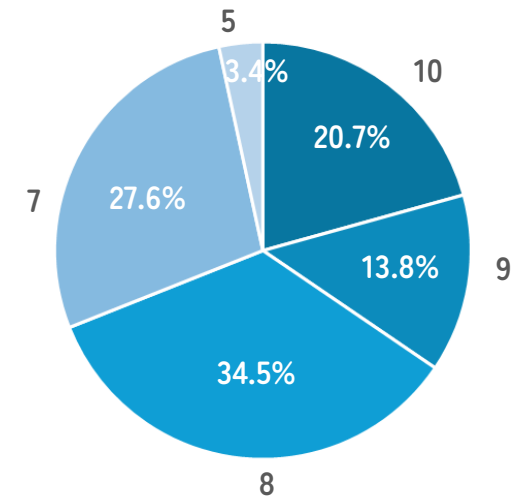
Q.演劇ワークショップに参加したきっかけ



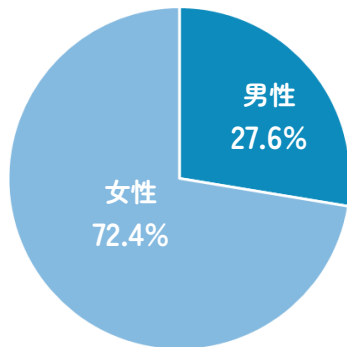
Q.参加する[以前]の介護のしごとに対する印象



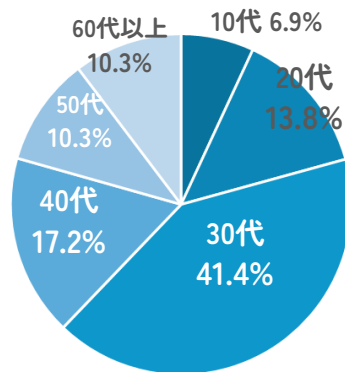
Q.参加した[後]の介護のしごとに対する印象



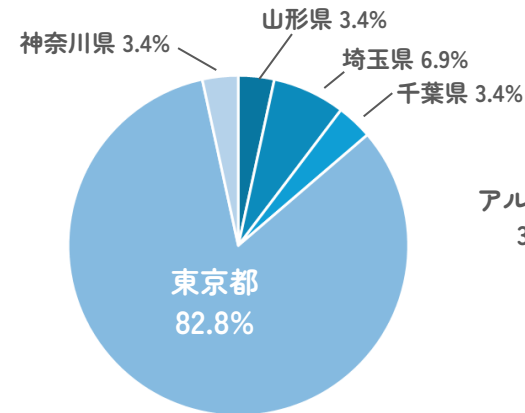
性別



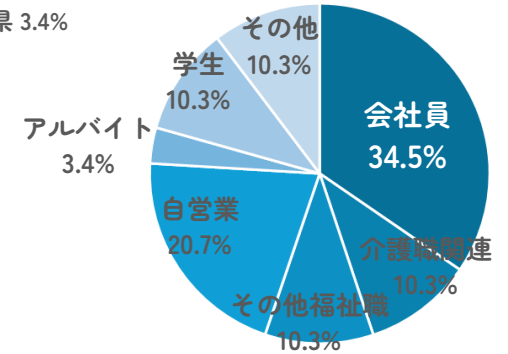
年代



居住地

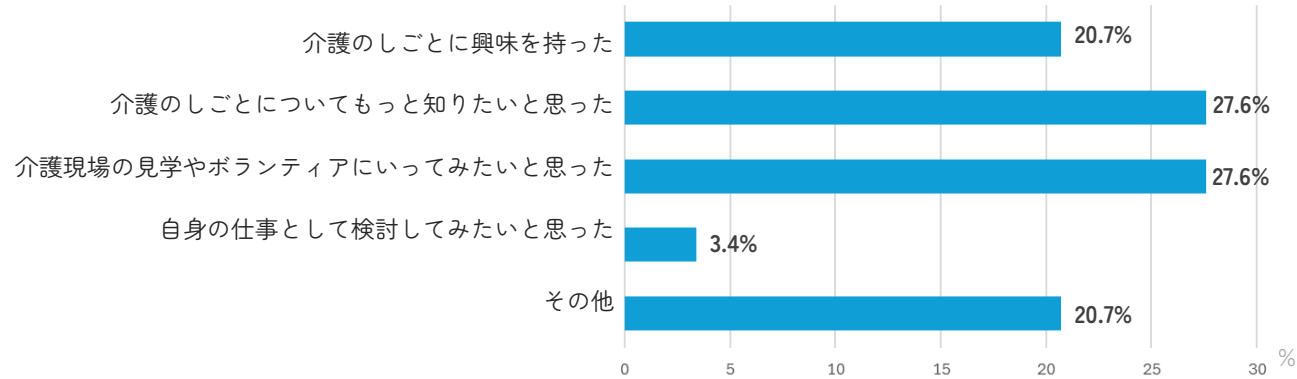


職業



演劇ワークショップアンケート結果

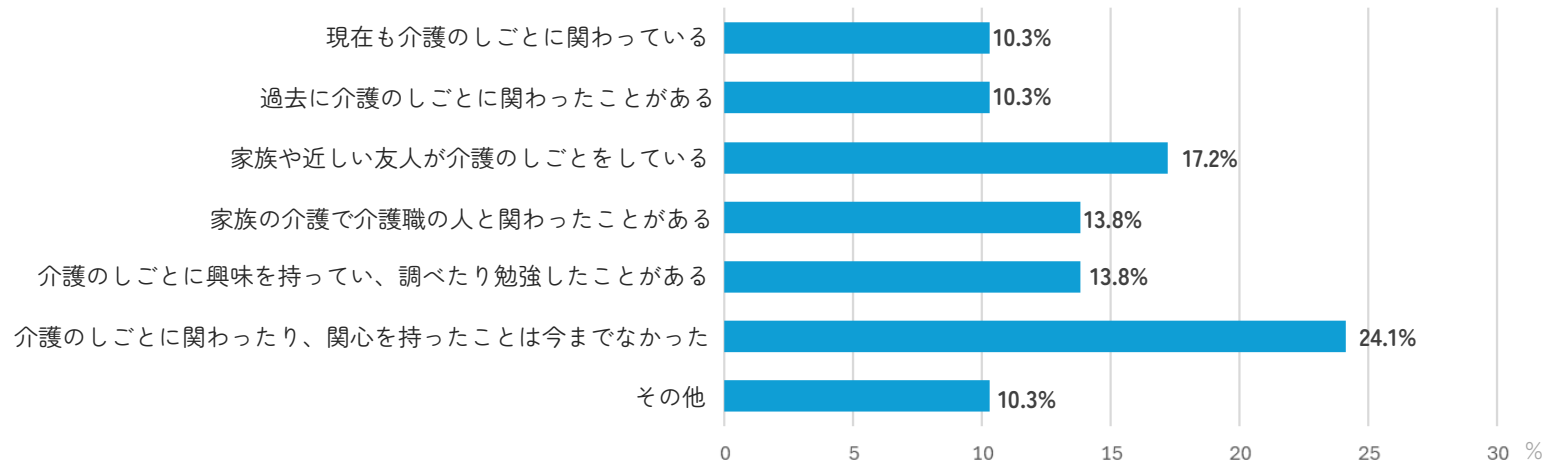
Q.演劇ワークショップに参加してどのように感じたか



その他

- 利用者さんのレクに役立つと思う
- 人との違い、人の背景にある気持ちを知ろうと思った。
- 今ついている介護の仕事に生かしたいと思った。
- 自分の両親の介護を今後考える上での参考になった。
- 自分の仕事とつなげて考えていきたいと思った。
- 今までの自分の利用者さんに対する関わりに自信が持てました。

Q.あなた自身の「介護のしごと」との関わりを教えてください。



演劇ワークショップアンケート結果

Q.演劇ワークショップにご参加してのご意見・感想

- ディズニーキャストとしてパークの入り口で勤務する中で、ご家族とお越しになった記憶を追って、認知症の方が徘徊の行先としてパークにお越しになることができました。その際に、全く関わりのなかった私は、「ここにはご家族がいらっしゃらないですよ」と否定をしてしまっていました。今回のワークショップの「肯定と否定の芝居」を通じて、認知症の方がどのような理由、思考プロセスで行動を行っているのかを学ぶことができ、私の否定が当人をどれだけ傷つけ過去の思い出も汚してしまったのではないかと思い直すきっかけになりました。サービス職をするうえでも、介護の知識、経験がホスピタリティに活かさせるなど学ばせて頂きました。
- つい2日ほど前、半年ぶりに実家に帰った際に会った80代の祖母に認知症の症状が出ており、戸惑っていたところでした。サ高住宅に祖父と二人で住んでいるのですが、97になる祖父はしっかりしており、祖母のおかしな言動を常に「それは違う！」と正そうとしていて、そのことも気になっていました。このワークショップを通して正しさが全てではないこと、受け入れてみることによって、安心していられる場ができること、それによって、変えられる行動があることを知ることができました。次に祖母に会うときには、Yes&で答えてみよう、会話を楽しめたらいいな、と思いました。もちろん、日々出会う地域のおじいちゃん、おばあちゃんたちとも、認知症に限らず、こどもたちとの会話や、近い大人同士でも、まずは相手の話を一度受け入れてみることを心がけたいと感じました。（そのために、余裕のある自分であることも重要です。） 現実には、実家から離れて一人暮らしをしているので、祖父母とも、地域の高齢者の方とも距離があるのですが、そう遠くはない自分ごとの話として、家族のことも、地域の介護事情のことも、もっと知りたいと思いました。とても楽しいワークショップでした。ありがとうございました。
- 感情を焦点にあてそれに身体反応がついてくることを再認識した。
- だれかを演じることで、感情的に楽になることがあるのかもという気付きがありました。
- 演劇が介護をやわらげてくれるのがよくわかりました。
- 当施設(児童養護)のスタッフ研修で取り扱っていただきたい
- とても面白かったです。演劇を様々な形で使えたらと思いドラマセラピーなども学んでいたのですが、介護の現場でこんな使い方ができるというのはとても勉強になりました。ありがとうございました。
- 全ての人に体験してもらいたいと思う内容だった。
- 工作中、気持ち的に追い込まれることもありますが、今日のWSを思い出してユーモアや「抜く」ような感覚を大切にしていきたいです。「介護の研修」というラベリングではなく演劇という枠組みだったことでより自由な発想で表現できた気がします。まだ入職して一年、これから名女優になれるようがんばります。
- 家族に認知障害の診断が出て、認知症との方のかかわり方について考え始めたタイミングでした。不安が少しやわらぎました。ありがとうございました。
- 介護の現場の職員にとって研修にもなり自分の気づきにもなると思う。自己表現と精神障善のテーマでもワークショップお願いしたいです。
- 共感の大事さについて改めて実感しました。不寛容な空気がどんどん広がっている昨今、たくさんの人にこのWSを受けてほしいなと思いました。OiBokkeshiさんの講演もぜひ見てみたいと思いました。
- これまでの福祉の仕事(重心障害者の介護～精神障害の方の就労支援)や今取り組んでいるインプロの活動は共通するものがあると感じていましたが、それをまさに体験できてよかったです。利用者ファーストで感情に寄り添うのは忙しくて余裕がなくなるとどうしてもできなくなりがちですが「心の中のカチンコ」という良い切替の言葉をもらえました。仕事の中でも楽しんで演技をすれば仕事の取り組み方や周囲の世界の映り方も変わりそうだと思います！
- 自分の両親、祖父母のいざという時の接し方を考えるきっかけになりました。
- とても素敵な内容でした。`今`を楽しむことはできる。演劇と介護はこのようにつながっているんですね。

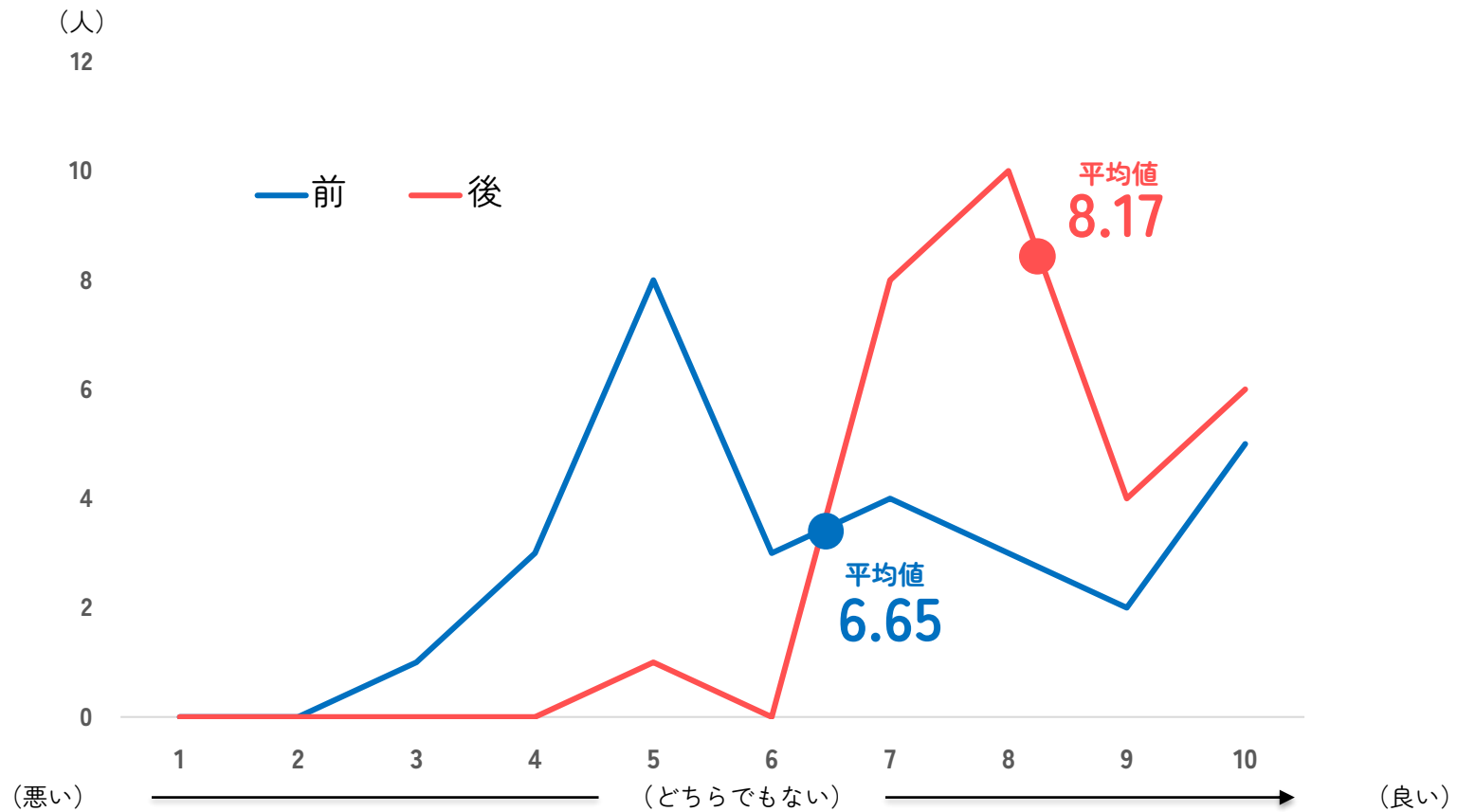
演劇ワークショップアンケート結果

Q.演劇ワークショップにご参加してのご意見・感想

- OiBokkeShiのYouTubeを見て興味を持ち、近くでワークショップがあるとわかり来ました。介護をしている友人が「おばあちゃんやおじいちゃんがかわいいのよ」と言っていたのは肯定するやり取りが上手なんだとわかりそれを楽しめているから楽しく仕事をやっているんだと分かった。
- たいへん意味のあるワークショップでした。返ってくるものがありました。
- とても勉強になり、なおかつあたたかい気持ちになりました
- 初めて演劇のWSに参加しましたが老い(認知症)との関わり合いに対して演技から考えてみるのがとても楽しかったです。
- 「上手に演技をしよう」と考えるより「認知症の方だったらどう考えるだろう?」ということに意識が向いていました。
- 認知症の祖母と暮らしていた時にもっとこうすれば祖母も自分も良く生きれたんじゃないかと考えさせられました。普段おいについて科学的な面からみているが接し方とかそういうのも大事なんだとわかった。
- とても楽しかったです。ネガティブな印象があった認知症が実はたのしくおもしろいと思える側面もあるというのを身体で感じることができました。
- 相手の世界や見ている景色を尊重することの大切さを実感することができた。
- すごく楽しかったです。おばあちゃんが認知症になる前にこれからおばあちゃんが生きるかもしれない世界を知っておきたかったので、参加してよかったです。他の方のフィードバックも聞いてよかったです。
- 勉強にもなったし楽しかったです。
- 以前に公演をみたことがあったので(忘れられないものでした)WSに参加する機会をいただけて光栄でした。
- 明日、介護の仕事へ行くのが楽しみになりました。どの仕事においてもコミュニケーションは大切ですが、介護は相手を受け入れるコミュニケーションが認知症の症状を緩和できる可能性があるということにやりがいや魅力があると改めて感じました。多くの方にこのワークショップを受けていただくことで介護の魅力が伝わると思いました。
- 自分はリハビリ介護で、介護の現場に関わっていますが、むしろ、その現場にいる自分が演じていると思っていて、改めて、他社の前で再現することは難しいと感じました。
- ロールプレイによってとてもリアルに感じられた
- 自分の考え方を見直すきっかけになるワークショップでした。

演劇ワークショップアンケート結果

「演劇ワークショップ」に参加いただく「前」と「後」の介護のしごとに対する印象



演劇ワークショップに参加いただくことで、**1.52p**のイメージUP（態度変容）につながった。

VR認知症体験（11/22~24）

VR認知症体験会

VR認知症体験会「私をどうするのですか？」

日時：2025年11月22日（土）、23日（日）、24日（月・振休）13:00-18:00

会場：BONUS TRACK GALLERY 2

体験時間：約15分

参加費：無料 *事前申込み不要

参加者：11月22日(土) 60名 / 23日(日) 93名 / 24日(月・祝) 96名



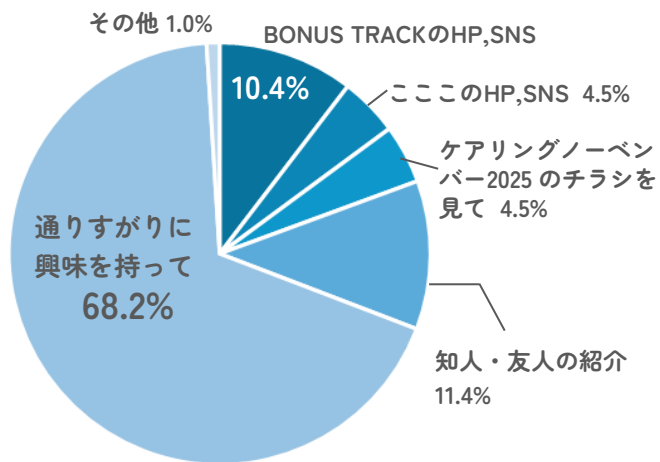
VRの技術を活用し、認知症の症状を本人視点で体験することができる「VR認知症」体験会を開催します。認知症になると気持ちを表に出すことが困難になります。しかし「理解されにくい」「問題」とされる行動の多くは、周囲の人たちの“理解”が不足していることが原因の場合も。今回提供するプログラム「私をどうするのですか？」では、認知症は単なる記憶障害だけではないことを本人視点のVRで体験いただき、認知症理解を深める機会を提供します。



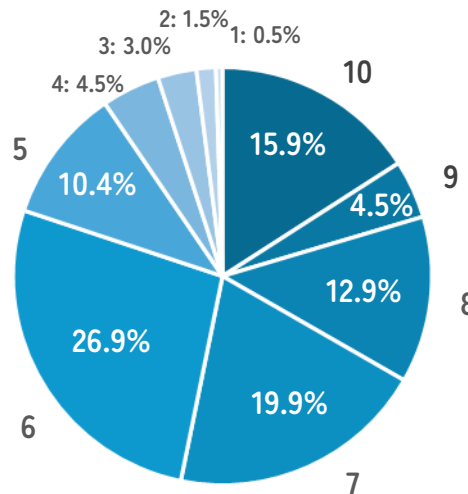
VR認知症体験会アンケート結果

n=201

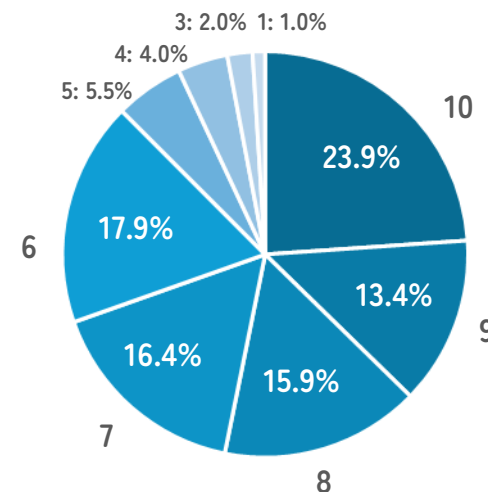
Q.VR認知症体験に参加したきっかけ



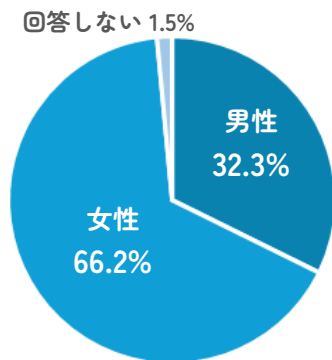
Q.参加する[以前]の介護のしごとに対する印象



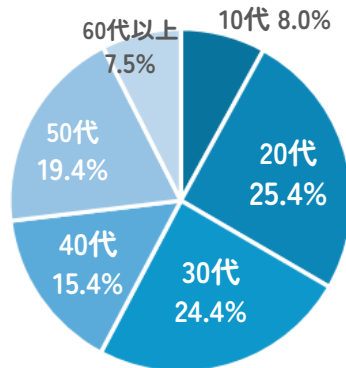
Q.参加した[後]の介護のしごとに対する印象



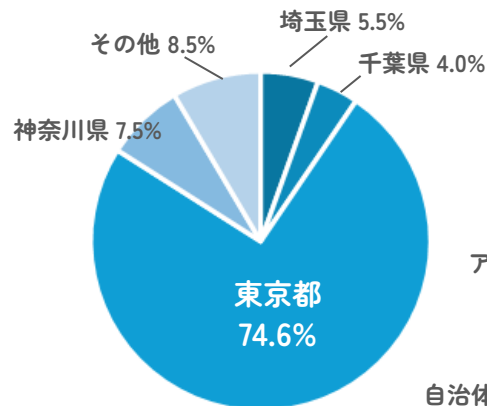
性別



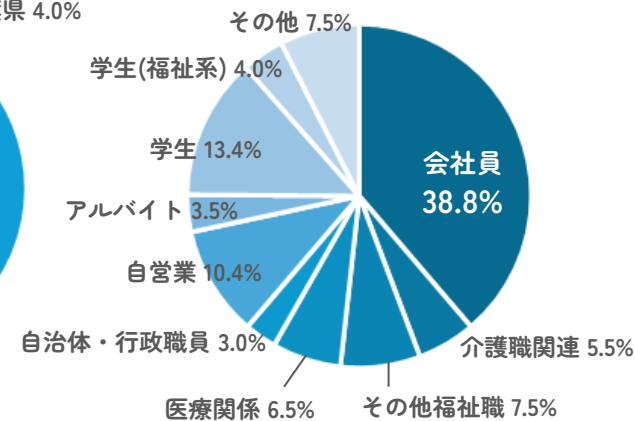
年代



居住地

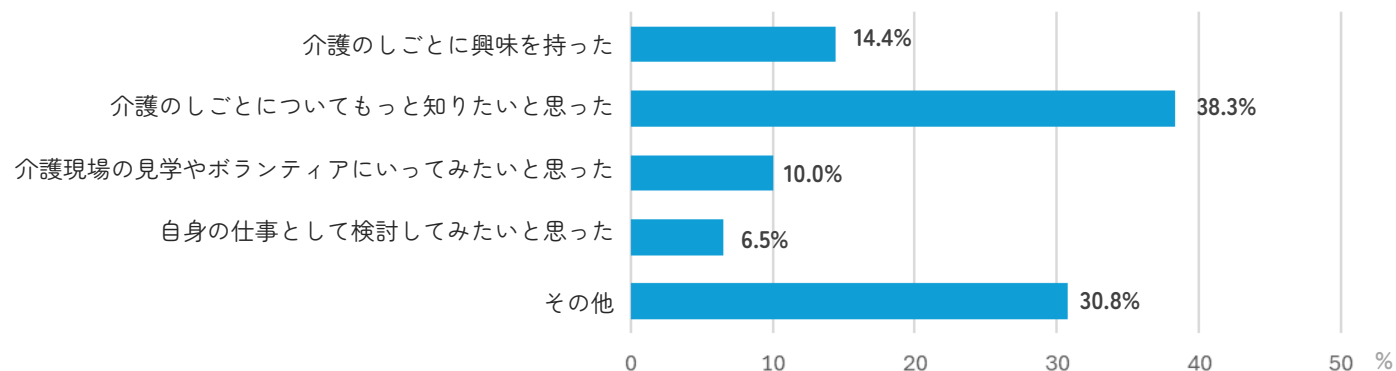


職業



VR認知症体験会アンケート結果

Q.VR認知症体験に参加してどのように感じたか

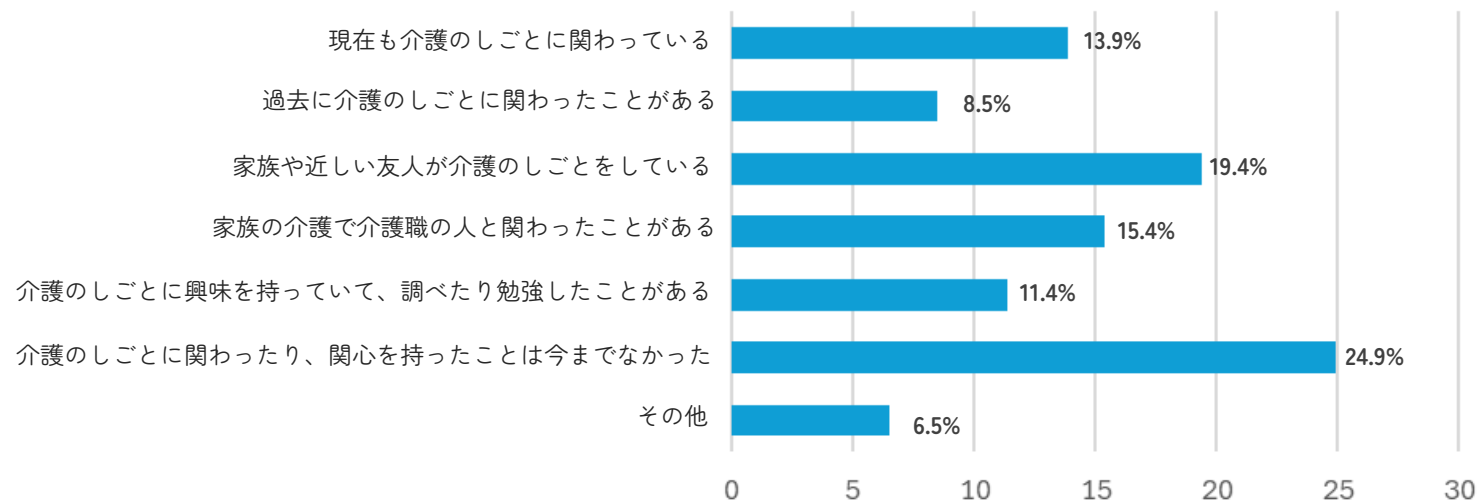


その他(一部抜粋)

- ・ 老化についてもっと知りたいと思った
- ・ 介護の仕事よりも当事者を想像するまでだった
- ・ 仕事をしているので、参考になった
- ・ 日常に活かしたいと思った
- ・ 認知症といっても、いろいろな症状があることを知れた
- ・ 認知症を色々な方が知るきっかけとして、とても良いと思いました
- ・ 認知症の方の状態がこんなに大変なのかと、びっくりした
- ・ 知識がないと介護する方・される方・家族の間で意思疎通がうまくできない
- ・ 色々な感じ方をするのだと思った
- ・ もっと色々見たかった
- ・ 認知症のしくみ(?)をもっと知りたい
- ・ 実母を介護していた経験から興味感心をもって体験させていただき良かったです
- ・ 介護の仕事の大変さを知った
- ・ 介護への価値観が変わった
- ・ 自身の家族について考えました
- ・ 認知症の1つを知った
- ・ 家族や周囲の人の認知症にどうしたら上手に寄り添えるか考えた
- ・ 認知症の人の気持ちを少しでも体験できてよかった
- ・ うちの母親が認知症です。もっと早く体験できたら、やさしくなれたかな
- ・ 仕事に活かしたい
- ・ 以前、介護の仕事をしていましたが、こういう感じだったとわかって意識が変わりました
- ・ なるほど、そういう世界が広がっていたのかと新しい世界を知れた
- ・ 認知症の症状について興味を持ちました
- ・ 根本的解決について考えてみたいと思いました
- ・ 認知症症状について、もっと知りたいと思った
- ・ 生活や下の世話のようなイメージだったが、新しい角度から介護の仕事を見つめられた
- ・ 親が認知症なので、参考になった
- ・ 当事者が見ている世界が知れて良かった
- ・ 視覚化されることで、利用者が何を見て、感じているか理解できる
- ・ 認知症について、もっと知りたいと思った
- ・ 認知機能を維持するような生活習慣を意識したいと思った。
- ・ 介護の内容が一義的でないことが分かりました
- ・ 想像を超えた体験だった
- ・ 介護のお仕事されている方に感謝しかないです
- ・ 知識が重要であると理解した
- ・ 家族の介護の参考になりました
- ・ 身の回りの方との接し方を改めて考えてみたいと思った
- ・ 認知症に対する理解が深まりました
- ・ 利用者一人ひとりの気持ちをくみ取り、言葉にする仕事でもあるのだなとしれました。空間認識がこれほど変わると知り驚きました
- ・ 認知症になったかたは、自分では想像もつかないものの見方をしていることが分かりました

VR認知症体験会アンケート結果

Q.あなた自身の「介護のしごと」との関わりを教えてください。



その他

- ふんわり、ふんわりと関心はあったけど、調べてはいなかった
- シニアレジデンスで事務をしています
- 祖母が認知症だった
- 精神障害者に対する福祉の仕事をしている
- 障がい者福祉施設勤務
- 相続の仕事をしているので、制度の説明などに活かしたい
- 間接的に介護の仕事に関わっています
- 介護のしごとに関わりがないですが、友達の人が視覚障害で支度の手伝いなど結構やっていました。
- 発達系のセラピー

VR認知症体験会アンケート結果

Q.VR認知症体験会に参加してのご意見・感想

- ・ 祖母を在宅介護していてせん妄に苦しんでいたが、このような視界が見えていたのかと実体験できてよかった。
- ・ 体験できるというのがとても貴重で、こうした機会がまたあると良いと思った
- ・ 認知症の人がどのように感じているか 分かることで対応の仕方も変わると思いました
- ・ 他のも見たいと思いました。
- ・ 私たち（自分自身）の常識だけで認知症の方と関わることの難しさを感じた。
- ・ おもしろかった 言葉よりも価値がある
- ・ 介護者目線での声掛けの間違いに気づかされた。重要性・ご本人に合わせて考える、介護するよう、今後にかきたい。
- ・ 学校や若者がいる場での体験を増やしてほしいと思う
- ・ 認知症の人がどのような世界を見ているのか。知れて良かった。
- ・ 両親が認知症なのですが、特に父は歩けるのにほとんど歩かなくなりました。もしかしたら、このような状態だったのかと思うと、それもあるほどと、こんなこわい思いをしていたのかも・・・とキツイ言葉を投げかけてしまい申し訳なかったな、と思いました。体験できて良かったです。
- ・ ビルの屋上の体験がリアルだった
- ・ どのように見えているか体験できたことは有意義な時間でした。
- ・ 有意義な時間でした。私の母とは違う症状でこういうのもあるのかと思った
- ・ 貴重な体験でした。介護の際の視点や声掛けの方法など、気付かされることがありました。ありがとうございました。
- ・ 送迎バスからおりるところ という状況の説明が先にあると、もっと良い気がしました
- ・ 体験するってとても大切だと思いました。当事者になってみないとまったく理解できないことばかりだと思います。
- ・ 「私はどうしたらいいですか?」と感じました。「私をどうするのですか?」とは感じ方が違う。体験しても感じ方って違うんだなと思いました。
- ・ VRというデバイスを用いた新しい体験によって、より幅広い方々に介護について知ってもらえる機会になると思いました。
- ・ 怖さと怒りがわいた後に、最後のシーンでハッとさせられた。自分の認識との大きな違いを感じた。
- ・ 認知症の方の気持ちを理解したいと改めて思ったし、実際にVRで見ることで、勉強になりました。
- ・ 認知症体験をしてみないとわからないことがあり良かった。本人ではないとわからないことが怖いと思った。
- ・ ホラー映画のように感じた
- ・ 問題定義するのきっかけには、良い内容になっている 人によって感じ方が違う
- ・ もう少し色々な場면을体験してみたかった
- ・ 本人の中には理由があるのだなと思った。行動には理由があるは、子どもも大人も一緒だなと思いました。
- ・ 認知症の方々が普段どれだけ大変な環境で過ごしているのかが分かって、本人もケアをする人がどれだけ苦労しているかを知れた。多くの人がこの状況を知ることができたら、生きづらさも和らぐと思いました。
- ・ 「認知」の違いがとても興味深かったです。もっと知りたいと思いました。
- ・ 認知症の症状について、想像しているものと違うことがよく分かった。
- ・ 自身の祖母も認知症で階段やバスの乗降で足を止めてしまう場面も見たことがあるので、祖母がどんな気持ちだったかを知ることができてよかったし、もっと早く知っていればよかったと思います。
- ・ 認知症について、「ボケる」という雑なイメージしかなかったが、その症状の幅広さ、個人差を知って、より「介護する人」へのケアの必要性を感じた。介護する側もされる側も無理なく、追いつめられることのないような社会の仕組みや無関係だと思っている人たちの理解が必要だと思う。
- ・ 自分が認知症なら、手を引いてもらったりとか触られたりしたり安心しそう
- ・ 見ている風景が違い過ぎてびっくり
- ・ 初めて体験してみて、いい体験ができ、勉強になりました。
- ・ 実体験(VR)してみないとわからないことがあるなと感じた
- ・ 貴重な体験でした
- ・ 認知症の方の見え方が分かり、興味深かったです！
- ・ 最初何が起きているのかわからなかった 解説を読んで状況を理解して、認知症に対して恐いと感じるとともに、自分が認知症についてあまり理解していなかったことを痛感した
- ・ 介護士が自分を突き落とそうとしているようで怖かった
- ・ もっとこのようなイベントが広がってほしいと思った
- ・ 認知症で視覚的に変わることがあるとは知らなかったので、知るいい機会になった
- ・ 見えてる環境と大丈夫と言われていることに差を感じる ということを実感し、認知症の方への理解が少し進んだ
- ・ 実際、介護の仕事をしていて小さなことが、利用者にとっては、大変なことだったんだなと思った
- ・ とっても優しくスタッフさんは声をかけていても、当事者の人の目線とのギャップがあるのだと感じさせられました

VR認知症体験会アンケート結果

Q.VR認知症体験会に参加してのご意見・感想

- このような家庭の問題と向き合っている人はたくさんいると思う もっとそんな人たちに寄り添う、このような企画がもっと増えればいいと思う
- 自分の親も60を過ぎて、他人事じゃないと思うので、体験して、話を聞けて良かったです。変なことを言っているわけではなく、それぞれの理由に寄り添うのが大切だと知れました。
- 耳で聴くよりも圧倒される体験でした 車を降りた後、「また迷惑をかけてしまった。」と思うのだろうと感じて胸が苦しくなりました。
- 自分の父が認知症なので少し理解できたかなと思いました。
- ケアを提供する立場として、認知症の方にはちょっと時間に余裕をもって接することがすごく大切だと感じています。
- 相手の感覚の違いにびっくりしました。笑顔が逆に怖いと感じることもあるんですね。
- 全く違う世界に驚きました。
- びっくりしました
- 認知症という病気の症状として「記憶」以外にもこんなに生活に影響があるとは知らなかった。
- どうしていいのかわからない
- こういった体験は大変大事と思った 恒例の親もいるので他人事ではない
- 興味深い内容でした。本当に体験してみないと当事者の方の怖さはわからないけれど、疑似体験できて勉強になりました。
- 認知症はただものを忘れやすい傾向が増えるだけと思ったけど、今回の体験を通してこれは本当に怖い病気だと認識し、介護の仕事についてすごく勉強になりました。ありがとうございます！
- こわさ、恐怖がわかり、声掛け、支援が大切だと実感しました
- 自分の体で実感すると自分事になると思った
- 体験会に参加してみたいと思いました
- 想像以上に怖かったのですが、本人の立場にたって考える良い機会となりました。他の体験会にも参加してみたいと思います。
- 恐かったですつい言うってしまう「支」側の"大丈夫ですよ"が「利」さん側に立って"どうして怖いのですか?"といえるようになりたいです。
- 認知症は人それぞれ症状が違うが、私が考えている以上のことが、起きているのだと実感できました。丁寧な支援を行いたいと反省しています。ありがとうございました。
- その人にしかわからないと思っていた体験をVRという最新技術を駆使して経験できたのはとても勉強になった
- 当事者への理解を深める貴重な機会になりました。楽しかったです。
- マンションから落ちる感じがした こわかったです
- うまく状況が分からないまま、VRに入り、とても怖い感覚を持ちました（アテンドの方の批判ではありません！VRがショック過ぎたということです）とてもインパクトのある体験でした。問いかけ、ケアの仕方、考えさせられますね。
- 実際の認知症の人の気持ちを、改めて考えたことがなくて、正直なにも分からないから、動いてくれないのだと思っていた。だけど見えている世界を知ると、「わからない」ではなく「こわい」と思った。だから簡単に人を介護するというのはできないのかな、とってしまった。見えている世界を知れて、すごく勉強になった。
- こわかった。認知症の人の気持ちに寄り添った声掛けってどんなことができるのかな・・・と考えてしまいました。
- リアルティィーがあってとてもよかったです。認知症ケアについて考えさせられる良い体験でした。
- 個人の感覚を安易に否定しないです。
- 貴重な体験ができた 相手を感じている感覚が違うことが理解できた
- 互いに悪気はないが患者さんからするとひどい人みたいに感じた
- とても怖かった。認知症の方に対する対応を改めようと思った。
- 母が若年性アルツハイマーを患っていた為、私自身、介護に苦勞した時期がありました。ヘルパーの資格は取得しましたが、このような体験ははじめてだったので、とても良い体験でした。このような体験がもっと多くの人でできたら良いな。と思います。ありがとうございました。
- 祖母が認知症だったので興味を持って来場しました。何パターンか体験できると良かったです。
- 要介護者に対して、想像力を働かせるということは、こうした強い疑似体験があると、その意味が深くわかる。空間認知においても、不便があるというのは、知られていないことだと思いました。
- 今まで想像していたよりも、怖い気持ちになったのと同時に、介護現場の大変さをより感じられた
- 周囲は認知症の方についてわからないことが多いので、もっと理解を深める必要があると思った。
- 介護することは、認知症を知っていけないといけなかった。
- "空間についての認識が歪む"というのが、当初のイメージだったので、そもそも全く違う空間として認識されていることに驚いた。介護士の方への尊敬がより大きくなった。

VR認知症体験会アンケート結果

Q.VR認知症体験会に参加してのご意見・感想

- VRで認知症をどう体験するのか、最初は不思議に思いましたが、視覚的にもこのような混乱が起きるケースがあると知れて驚きました。困っている人の追体験ができ、人に優しくなりたいなと思いました。
- 認知症に視覚のイメージが無かったので、新しい視点でみることができよかったです。
- 大変こわく、助けて下さる方の表情や言葉とのギャップをリアルに感じました。
- 介護の仕事に対する認知を社会的に広めることは非常に大切だと思います。若い人にもっと知ってもらえるように頑張りたいです。
- 私は父が認知症になりました。言ってもわかってくれないことがあり、何でわかってくれないのか？と感じたことがありました。VR体験は本当に体験できて理解することが出来ました。知っていたら、もう少し優しくできたと思います。
- 当事者側の気持ちや体感を味わうと、一概に決めつけたり、判断することをやめようと思いました。もっと創造力を養いたいと思います。
- 全人類やった方がいい
- こうやってケアする人に不信感を持つのかと納得 気を付けて接したい
- なぜこんなに高い所から足を踏み出さなければならないのか、わからなくて怖かった。介護者からどのような対応をされると落ち着くのか知りたい。
- 何が起きているのか全く分からない状況 これが認知症の起きている景色なのか言葉を選ばずに言えば非常に面白かった
- わかりやすかった！もう少し長くてもいいかも。
- VR見始めたときは状況がよく理解できず、似たような困乱する状況に置かれるのかもしれないと思いました
- 認知症の人の気持ちを考えさせられるきっかけとなりました
- 脳に関する事が知れて良かった
- 「脳機能の低下」という言葉で理解するのと、症状の視認による理解の差は大きかった
- 介助する側も声かけが大変で難しいと強く感じました。「大丈夫」の一言がこんなに無責任で怖いのか、とビックリしました。相手の立場になってみることの大切さに気付いて良い体験ができました。
- VR体験はとても恐かったです。右足出し手と言われても本当に落ちそうで、これはVRの世界で右足出しても大丈夫と分かっている、出せませんでした。このタイプの認知症にはなりたくないと思いました。
- 認知症体験がリアルで勉強になった。
- 認知症の方の感じている恐怖を実際に体験し、今後、町で見かける人への見方が変わりそうです。
- とても恐かった
- 介護をされていた方に対して恐怖を感じました。
- 自分には自分の感覚しかわからないから、周りの人たちがどうしてそのような状態で、どうしてそのような声を掛けてくるのかわからず、不安感や孤独感があり、怖かったです。認知症の方々のパニックに対するわからなさや介護に対するぼんやりとした「大変だな」という気持ちがありましたが、もっとお互いのことを思いやって寄り添いたい。安心できる仕組みやコミュニケーション方法があればいいのと思いました。
- 物忘れの延長だけでないことがわかった 怖いと思った
- 当事者の状態を理解した上での声掛け・支援が重要だと思いました。
- 貴重な体験だった
- 介護の必要性をとて感じました。段差一つにあんなにギャップがあると思いませんでした。
- とてもリアルな体験と、何が起きているのか 最初は全くわかりませんでした。興味深いです。
- 認知症という名前の知名度の高さに対して、中身はなかなか知れていない、理解できていないと感じました。まだ一歩だと思いますが、もっと勉強したいと思います。
- 最初にシチュエーションの説明→体験の方がよかったです私は感じました
- 知らない症状があるのにびっくりしました。
- 私をどうするのですかをVR体験させていただきました。貴重な体験ありがとうございました。 やすおじいちゃん物語も体験してみたいです。
- 普通に考えたらおかしな状況が目前で起きると知って怖くなりました。
- 物忘れをするだけではないことがわかった。身体がうまく動かないことの恐怖を感じた。
- 認知症の怖さ、このような症状を持つ人がどんなことと向き合っているか体験できたことは非常に興味深い学びとなった。
- この状況をどのように解決すれば良いかわからなかった。
- 知ることによって当事者の方に適切に接することができるかもしれないと思った
- 想像していたより恐ろしいと思いました
- 全く知らなかったことを知れてよかったです
- 初めての体験でした。どう声をかけるか、考えることからはじめてみたいです。
- 普段から認知症の方と関わる機会も多く、新たな視点を持つことができました。
- こんなに見方が違うんだとすごく勉強になりました。
- 周りに認知症の人がいないので当事者の気持ちになろうと思ったことがなかった。ためになる体験でしたし、互いを思いやる介護の大切さを実感しました。

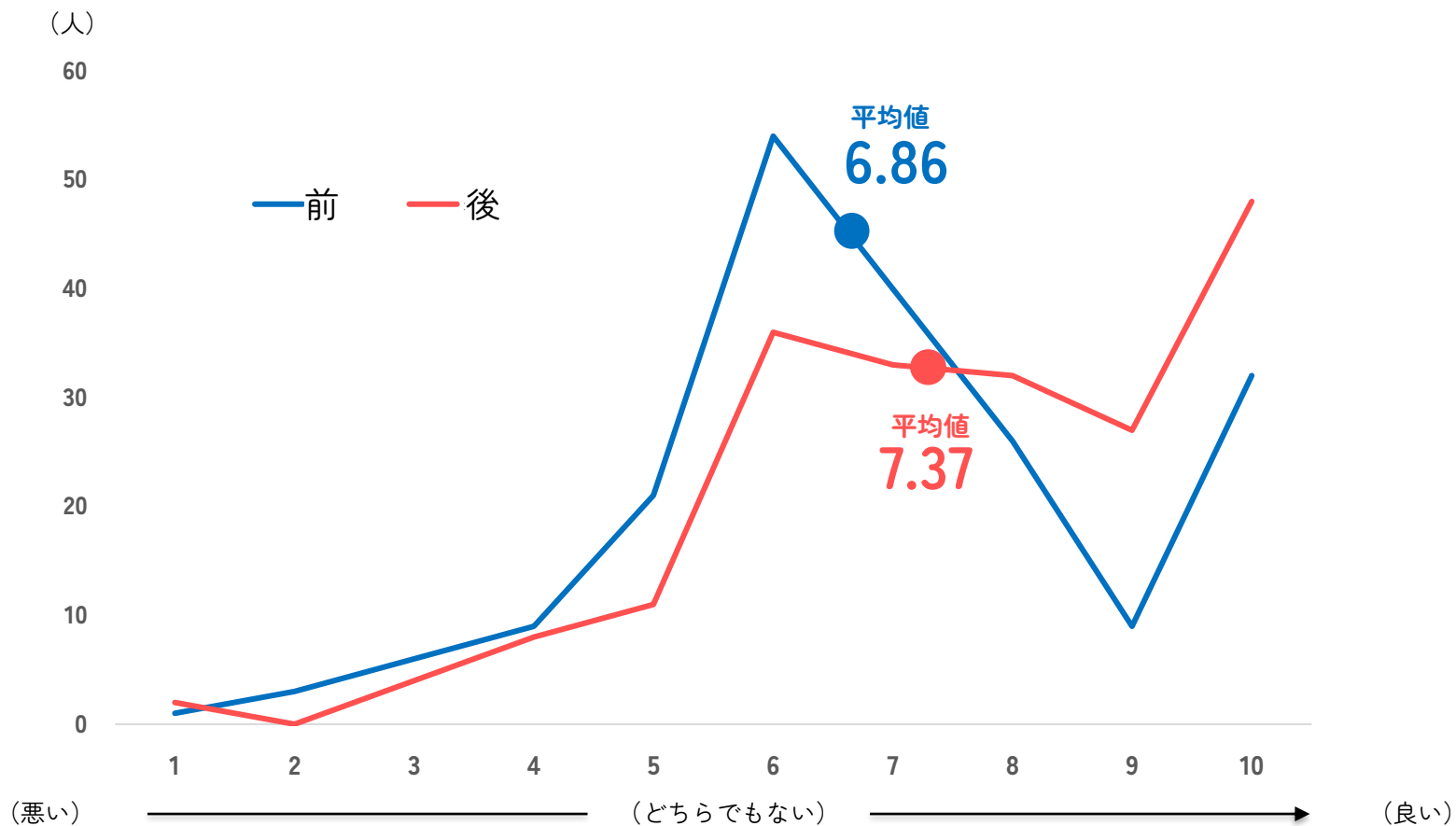
VR認知症体験会アンケート結果

Q.VR認知症体験会に参加してのご意見・感想

- ・ 認知症の方が感じる怖さがこんなものだとは知りませんでした 体験できて本当によかったです
- ・ 相手の世界を考えたり知らないで一方的に「大丈夫ですよ」とか「早く」とか声を掛けたりよくないなと思った。けどどう見えてるか分からないから相手の声や様子を考えたり、聞いたりしようと思った。
- ・ 実際にどのように対応するのが正解なのかを教えてほしかったです。もちろん人によって異なると思うのですが。
- ・ とてもリアルな体験でした
- ・ なかなか経験できないので、参加できて良かったです。
- ・ これからどうしたら良いのかよくわからなかったです。VRをして、声の掛け方を気を付けていくべきなのか。どう声をかけたらいいのか悩んでモヤモヤしてしまいました。自分たちもこうなるんだよ。なのか、メッセージがよく分からなかった。
- ・ ユニークなイベントで効果的だと思いました。
- ・ VRを自分で用意するのは、少しハードルが高かったため、今回のように無料で体験できる機会を頂けて良かったです。ありがとうございました。
- ・ 体験できると実感できますね
- ・ 恐かった！
- ・ 怖さ、と言っても想像を超える怖さでした。声掛け一つ、少しの違いが大切だと思いました。
- ・ こわかった。サポートして、と思いました。寄り添うサポート必要ですね。
- ・ 経験がないと、当事者に寄り添うことは難しいと思うので良い経験になりました。
- ・ 接する相手が置かれている状況は必ずしも自分と同じではない
- ・ これだけ短時間にも関わらず、多くのことを考えさせられる内容だと思いました。自身にも認知症の祖父がいますが、認知症を老いと結び付けて、適切な配慮ができていなかったと反省しました。
- ・ 人としてのリスペクトを失わずに、いかに対応すべきかを考えたい。と思いました。
- ・ 親のことも含め、介護や認知症について、より自分事に感じることができました。とても有意義な機会となりました。
- ・ 認知症について、もっと知ろうと思いました。
- ・ 最初、VRでどうやって記憶がなくなることを体験させるのだろうか？と思っていたが、認知症に別の症状もあるということが驚きだった。具体的にどのくらいの割合の方がかかえる症状なのかも知りたいなと思った。
- ・ 認知症について知ることができる機会がこれまでなく、初めての体験でした。本などで学ぶよりも感覚的にわかりやすく、大変貴重な学びをさせていただき、ありがとうございました。
- ・ 認知症について、少しだけではあるけれど知れた気がします
- ・ 認知症の方の話を聞くことはあっても、体験する機会はないので、とてもよい機会だった
- ・ 空間認知の変化は初めて知りました！ 貴重な経験をありがとうございました！
- ・ 仕事に活かせると思った
- ・ 認知機能の低下だけではないと思いました
- ・ 介護のしごと、良い悪いではなく本当に大変だなという印象。両脇のスタッフが何を言っているのか理解できなかった。というのが、当事者ご本人の状態なんだな。それは叫びたくなる。そんなところまで想像するのは難しいけど、こうやって体験して共有できることで、少しでも想像が広がるのはありがたいことだなと思います。
- ・ 見え方が全く違ったものになっていて、知らなければ無理やり下ろそうとしてしまっていたと思う。知れて良かったです。
- ・ テレビなどで病気自体をきくことはありましたが、症状を体験でき、より想像することができました。
- ・ 恐怖体験でした。発症した場合、生きていける自信が無くなった。
- ・ おもしろかったです。
- ・ 様々な症状の方がいることが分かりました。
- ・ 利用者さんがどう見えているのか。想像以上のものでびっくりしました。
- ・ 知識がないと想像できないような症状で、認知症についてもっと知りたいと思
- ・ 分からないもの／ことはこわいとあらかじめ思いました。
- ・ こういう機会を作ってくださいありがとうございます。認知症の方が感じる恐怖を少しでも知れてよかったです。
- ・ 認知症というのは字の如く、「認知のゆがみ」病であることを再認識した。このような体験会を開いてくださってありがとうございます。
- ・ 私をどうするのですか、そのままの体験でした。自身も以前リハビリ職として病態は理解しているつもりでも、身体・心は理解できていないこと、また祖母の認知症に対して向き合ってきたつもりが、考えさせられた。
- ・ 介護福祉士ですが、とても貴重な経験をありがとうございました。同じ介護職の方にも体験していただきたいとくみと感じました。
- ・ 認知症GHに実習で2か月ほど通っていました。外側から見る（その人の）症状は理解できても、そのように（疑似）体験ができる機会は少ないと感じています。貴重な体験でした。

VR認知症体験会アンケート結果

「VR認知症体験」に参加いただく「前」と「後」の介護のしごとに対する印象



VR認知症体験に参加いただくことで、**0.51p**のイメージUP (態度変容) につながった。

体験・交流イベント「ケアするしごとツアー」の開催

しごとツアー

関心層向け

理解促進

イベント

メディアやイベント等で介護のしごとに興味を持った方、まだ職業選択が未定の若年層、大学生等に向けて、体験・交流イベントとして「ケアするしごとツアー」を実施します。全国の地域を盛り上げる介護事業所を見学し、介護職についている方々と交流。コーディネーターとして、全国のさまざまな介護事業所の実践に触れてきたKAIGOLEADERSの発起人とコミュニティマネージャーが担当。介護の仕事の魅力発信に熱心な若手介護職がツアーコンダクターとして同行。見学先ごとにタイムテーブルを作成し、(見学先の方のお話→施設や取り組みの見学→座談会)体験、交流を図りました。

ツアー概要

参加人数 | 1回あたり15名程度(全4回)
 ターゲット | 学生、20～30代の社会人(基本的に福祉職以外)
 開催時期 | 2025年12月～2026年2月

----- コーディネーター -----



訪問先



12月6日(土)
 広島県 | 鞆の浦・さくらホーム

1月17日(土)
 宮城県 | ライフの学校

1月20日(火)
 東京都 | 深川えんみち

2月11日(水・祝)
 神奈川県 | シニアライフセラピー研究所

<https://heisei-kaigo-leaders.com/event/carejobtour2025/>

体験・交流イベント「ケアするしごとツアー」 / 鞆の浦・さくらホーム

【第1回 開催概要】

鞆の浦・さくらホーム（広島県福山市）

日時 | 2025年12月6日(土)

参加者:11名(申込:14名・キャンセル2名・途中離脱1名)

【当日のスケジュール】

13:00 燧冶(ひうちや)集合

当日のご案内/ひとこと自己紹介

13:25 さくらホームの紹介・代表の羽田知世さんのお話

14:00 さくらホーム・さくらんぼ見学

15:00 質疑応答・感想共有

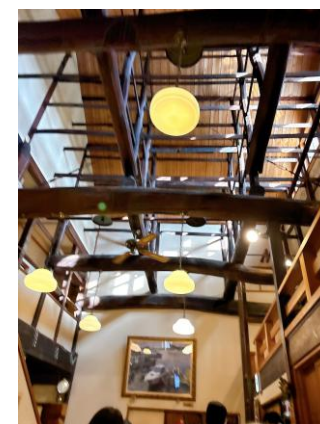
15:30 終了

■ 施設概要

瀬戸内海に面する小さな港町、鞆の浦のまちなかに、生活半径400m以内で介護・障がい福祉・就労支援など5つの拠点を展開し、地域にひらかれた福祉を実践しています。

さくらホームでは「年齢を重ねても 障がいがあっても 居場所となるまちづくり」を掲げ、ケアをまちにひらき、弱さやハンディをもった人を排除せず、日常の一部として受け入れる。「ケアする心を、まちの文化に」と取り組んでいます。

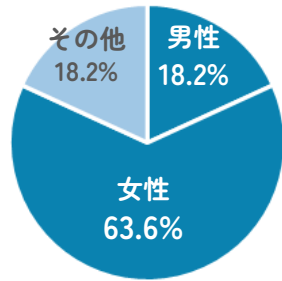
さらに、古民家を活用した宿と交流の場「燧冶(ひうちや)」や、障がいや生きづらさを抱える方の働く場でもあるカフェ「スープとおにぎり クランク」なども運営。



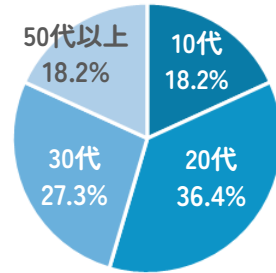
体験・交流イベント「ケアするしごとツアー」 / 韮の浦・さくらホーム

n=11

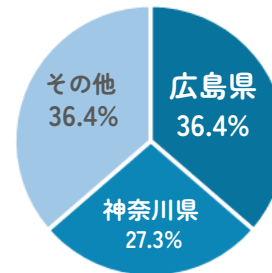
性別



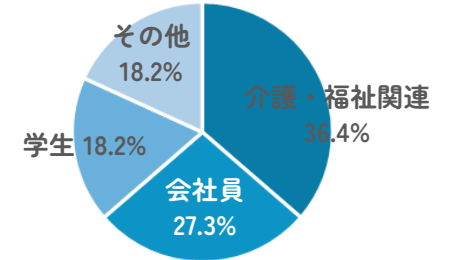
年代



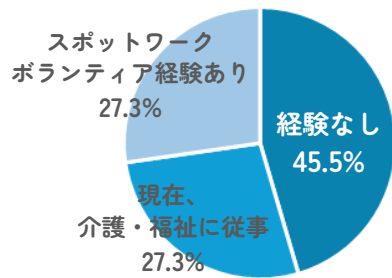
居住地



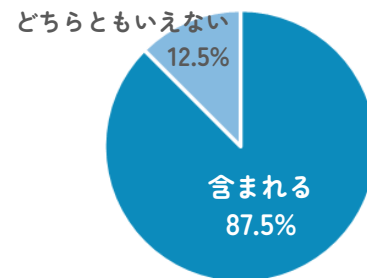
職業



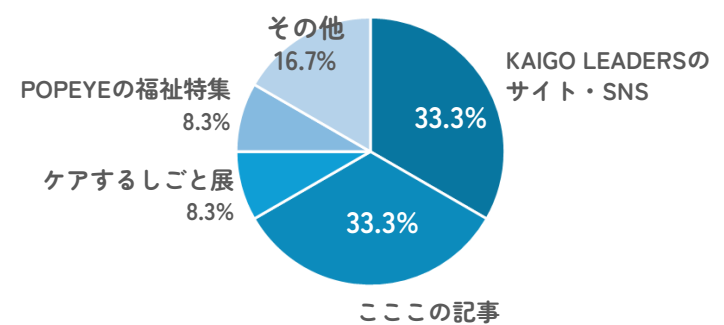
介護・福祉職に従事された経験



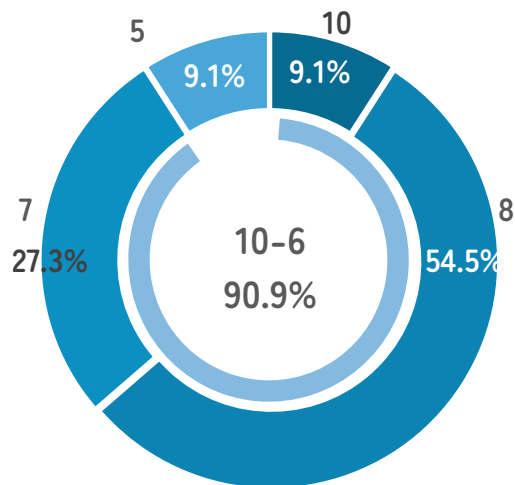
今後、就職や転職、副業といったセカンドキャリアに介護・福祉の仕事は選択肢に含まれるか
※介護・福祉関連以外の方



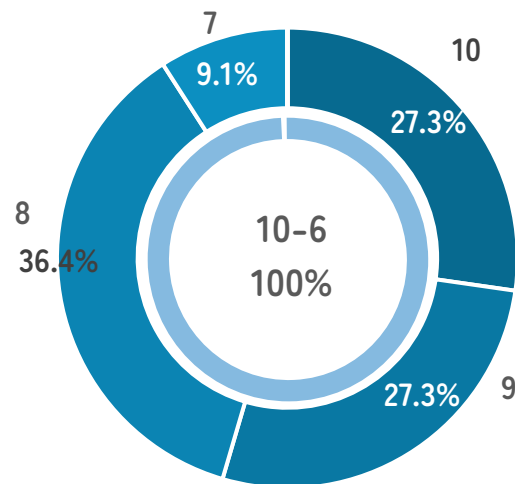
ツアーを知ったきっかけ



介護のしごとに対する印象
(ツアー参加前)



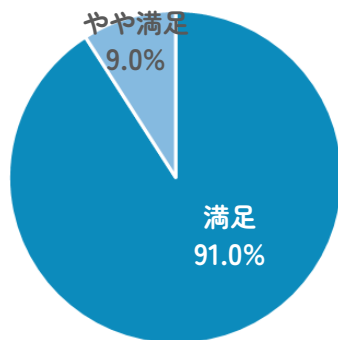
介護のしごとに対する印象
(ツアー参加後)



参加以前と印象が変わった、または変わらなかった理由

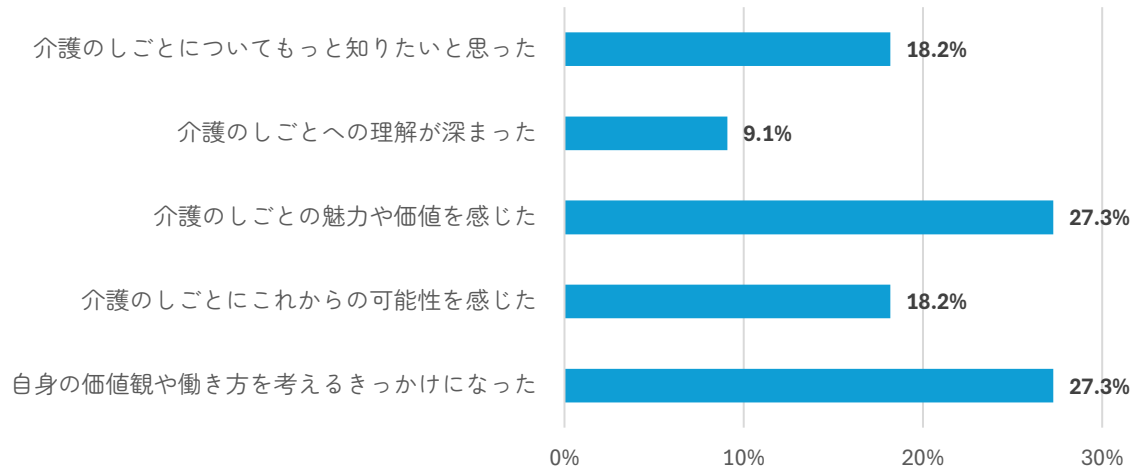
- 想像以上にいろいろな場面で地域の人々の交わりが起っていて、そこに関わっていけることを魅力的に感じたから。
- 自分の仕事は介護ではないにも関わらず、日々の業務に繋がる気付きがあった。
- 介護は大変というイメージが大きかったが、ケアを受ける側も支援する側も笑顔が溢れており、よい環境下でサービスが行われていることを感じた。
- スタッフの方々が参加して実際に施設利用者の方と接されている様子を見て、改めて一人ひとりの「人」と向き合う仕事であることと、その誠実さが大変そうでもありました。ですが、スタッフの方々はそのコミュニケーションまで楽しまれている印象でした。
- 悪い印象は持っていなかったが、より良い印象を持った。地域の暮らしの中に在ろうとするケアの在り方、皆ではなく一対一のケアの様子などを、場の空気感の中で感じる事ができた。
- 介護の仕事は一朝一夕ではなく、日々利用者の方と過ごしていく中で悩みを抱えたりやりがいを感じるものだと思うので今日のことだけでは判断できませんが、こういう介護の形もあり、それを利用している人がいるというのが自分が今後どんな介護をしていきたいのか知るきっかけの一つになれたと思います。こんな介護もあっていいんだなあ〜と安心できました。できればこんな形で介護にかかわってみたいです。
- 想像していた以上に街、暮らし、人生に寄り添っていらして、ルールの中でもどうすれば利用者さんの意見を汲めるかを考えていらしたのがそこまでのできるのか！！と驚きでした。
- 介護のスタイルは思った以上に自由なのだとわかったから。形式にとらわれず、おこなっておられる介護・支援が印象的だった。
- 参加する前と後で介護や施設のイメージが変わって、参加することで考えを深めることができた。
- 町じたいが介護施設(拠点作り)

ツアー満足度

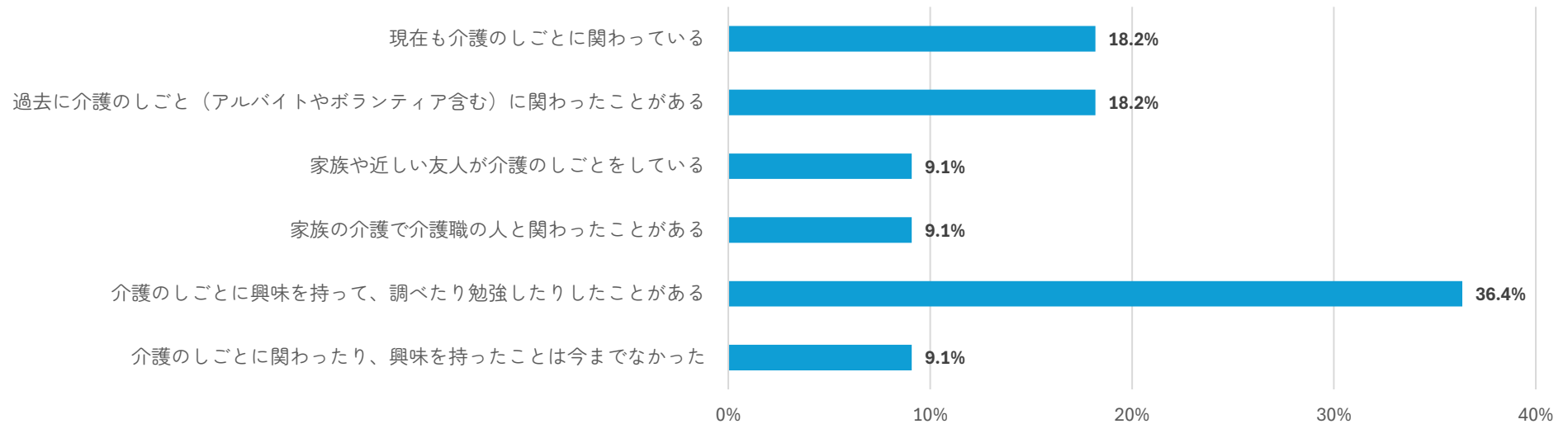


- どんな考えを持って、施設を運営されているかということや、施設で実際に起こっている人々の交わりについて直接聞くことができ、とても勉強になりました。
- 一人では巡る事が出来ない場や学びに出会えた。
- それぞれの活動されている思いの背景や建物の活かし方などを知り、一般的に存在している施設とは違ったさくらホームさんの素晴らしさが知ることができた。こういった施設が全国に増えたらいいなと思った。
- 実際にまちを歩きながら、施設を見て回れたことで、街の風景や環境含めてお話を伺えたのがとても学びになりました。参加者の方々も思っていたよりも様々な職種の方がいらっしゃったので、移動中に交流したり、意見交換ができる時間があったのも良かったです。
- 質問などに丁寧に回答&対応していただき、理解しながら自身で噛み砕きながら、まちを歩きながら学ぶことができました。場を作って下さったみなさんの雰囲気づくりのおかげか、安心して発言できました。
- さくらホームさんの施設の中での様子はもちろん、地域の中で行っている事業での紹介も参加になりました。自分の知らない介護の形を知れて良かったです。
- 実際の現場やまちの様子を間近で感じることができる時間で、具体的な取り組みをはじめ、実際の様子を知ることができたから。
- 様々な施設を見ることができ、勉強になった。今までの介護のイメージがくつがえされ、自分の将来を考えるいいきっかけになりました。
- 地域との関わりがたくさんあって良いなと思った。施設間が全然なくて施設に入ったら地域との交流も減ると思っていたけど、保育所の子たちとの関わりなど少ないからこそできることがあって良いなと思った。
- 地域の歴史もあわせて考えることができたから。
- 説明と見学で納得する場面が多かった。

「ケアするしごとツアー」に参加して、どのように感じたか



自身の介護のしごととの関り



体験・交流イベント「ケアするしごとツアー」 / 鞆の浦・さくらホーム

ご意見・感想

- 今後もぜひ継続して頂きたい。
- 参加される方々も様々な職種や背景があったが介護への興味といった同じを思いで参加しているため、嬉しい気持ちがあった。また個人的に施設見学をしたかったタイミングでのツアーだったため、ありがたかった。今後もこういったツアーを続けてほしい。
- 実際にその場所を様々な理由でツアーに参加された方々と一緒に見て回ることができて、とても貴重な経験でした。
- 現地集合解散という利点を活かして、拠点のある地域を歩いたり観光したりする時間を前後に持つことができたので、地域の雰囲気を感じることができた。次回このような場に参加することが出来たら、意識的に時間に余裕を持って参加したいと思う。できればもっと現場や施設などに滞留したかった、もしくはグループに分かれて全てを見て回りたかった、職員や利用者の方と面と向かう機会が多く欲しかった。でも、限られた時間の中で大変有意義な時間でした。これをきっかけに自分から関わりに行ってみようと思えました。ありがとうございました。
- 実際に現場で見学できたのはもちろん、介護について関心のある人と交流できて良かったです。自分も自分の思うケアの形をあきらめないでがんばろうと思いました。
- とてもありがたく貴重な場だと感じました。「ケアする仕事」を調べてもネットでみられる情報には限りがあるし、実際の雰囲気を知ることができて参考になりました。(実際に見ないとわからないことがあるなと実感しました)
- 普通に机に座って教科書内用ばかりを勉強しているので、現場を自分の目で見たり、現場の人の話を聞くことができ、勉強になった。
- 介護について考えなどを深めることができたため参加してよかったと思った。これからの学校生活やボランティア、進路などで今日学んだことを生かしていきたいと思った。
- また参加します！
- 良い体験ができました。ありがとうございました。

体験・交流イベント「ケアするしごとツアー」/ライフの学校

【第2回 開催概要】

ライフの学校(宮城県仙台市)

日時 | 2026年1月17日(土)

参加者:16名

【当日のスケジュール】

11:00 萩の風キャンパス集合

ご案内&ひとこと自己紹介

11:15 ライフの学校紹介・理事長の田中さんのお話

11:35 萩の風キャンパス見学

12:10 昼食

13:25 六郷キャンパス見学

14:10 霞目キャンパス見学

14:30 質疑応答・感想共有

15:00 解散

■ 施設概要

ライフの学校は、日々のケアの中にある「いのち」や「暮らし」、「生きる」ことについて学び合う拠点をめざし、杜の都、仙台で高齢・障害福祉を中心に6つのキャンパスと畑を展開。

施設と地域の間にあった壁をなくした庭、ライフの図書館、駄菓子屋などを地域にひらく仕組みを整え、子どもや地域の人が自然に集い、世代をこえて交流できる地域の拠点となっています。

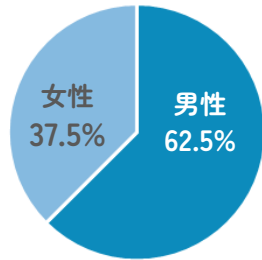
パートナー（ライフの学校では、入居者や利用者を“パートナー”と呼んでいます）の人生を振り返る「ライフストーリー学」や、パートナーのゆかりの料理と一緒に味わう暮らしの食堂やこども食堂など、毎月さまざまなプログラムを実施しています。



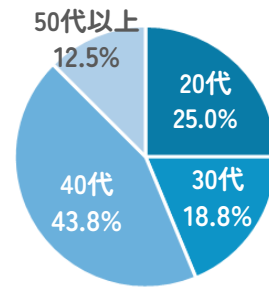
体験・交流イベント「ケアするしごとツアー」/ライフの学校

n=16

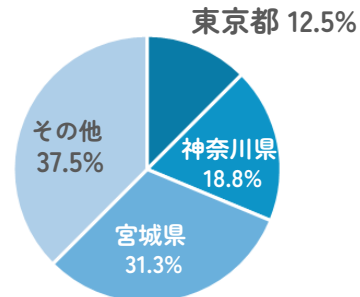
性別



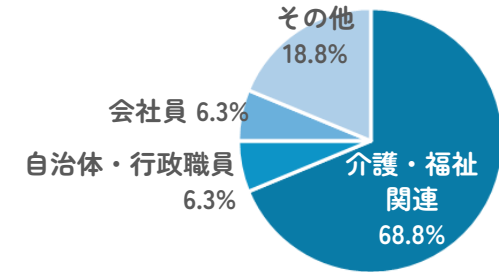
年代



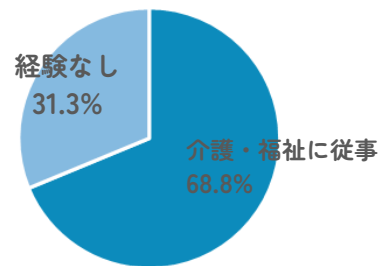
居住地



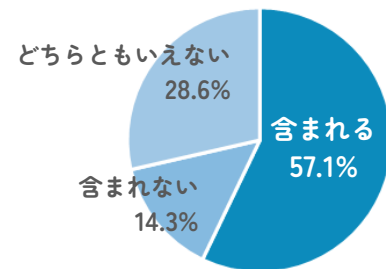
職業



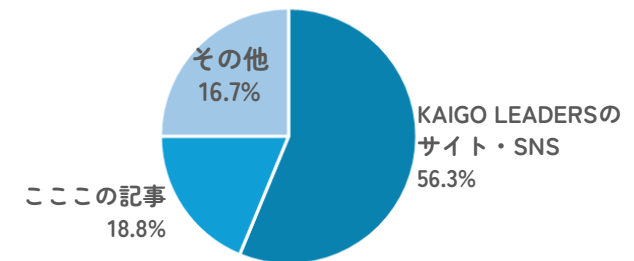
介護・福祉職に従事された経験



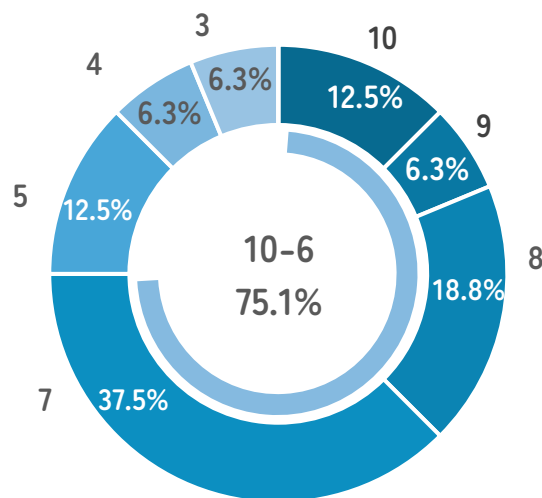
今後、就職や転職、副業といったセカンドキャリアに介護・福祉の仕事は選択肢に含まれるか
※介護・福祉関連以外の方



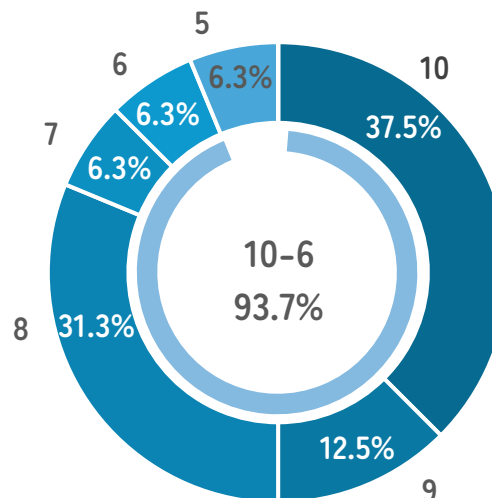
ツアーを知ったきっかけ



介護のしごとに対する印象
(ツアー参加前)



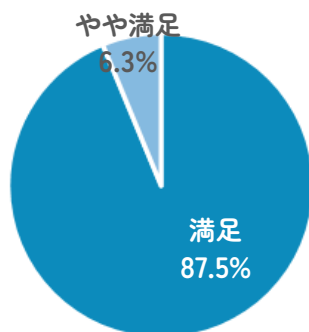
介護のしごとに対する印象
(ツアー参加後)



参加以前と印象が変わった、または変わらなかった理由

- 自分の働いている施設とは異なる環境、異なる取り組みをしている施設の現状を見学でき、改善への可能性を見出した。
- 利用者さん目線が多く職員目線のお話しがあまりなかった。
- スタッフの集め方はどこも課題があると感じた
- イキイキして職員が働いている様子が見えた
- ずっと同じ職場で働いていると刺激が少なく、同じ方向を向いて仕事をしたいと思ってもなかなか難しい側面もあり。。。でも、同じ方向を向いていない人との関わり方など勉強になった。
- 福祉の仕事として、できることの幅が自分の中で広がったように感じました。
- わかりやすそうで、見た目の良い発信の一方で、「福祉は手段」や「ひらかれた依存関係」などのワードが印象的で、様々な違和感に向き合ってきた根っこがあったこと。
- 共生型ということで、内部で働く介護スタッフさんの中でも、様々なポジション・業務があるかと想像します。もし自分がスタッフとしてジョインするなら、このように横断的で風通しの良い（と思われる）環境が良いなと感じました。一方で気を配ることが山程あり、とても苦勞されているだろうなとも思います。
- 介護士は介護を、相談員は相談業務をなどと分けられている所ばかりではないと知り福祉のイメージが変わりました。
- 利用者1人1人、スタッフ1人1人と向き合う姿勢に触れて、より良い印象に興味が深まりました。
- 共生型を学べたから
- 元々良いイメージだが、言行一致したコンセプトがとても良かった。
- いろんな取り組みをもっと知り学んでいかなければと思いました。
- ライフストーリーブックもやろうーと思いました。子ども食堂は500円からでも無料は考えてたのでやろーと思う。
- 特に変わらないのですが、地元これだけの法人がある事を恥ずかしながら知りませんでした。
- 介護というと、施設ありきの印象がありました。訪問介護も含めて充実した機能を持った屋内で生まれる関係性というイメージがありましたが、ライフの学校は外や地域とシームレスに繋がっていて、介護する人される人、そしてケアする人される人同士がとても見晴らしのいい関係を築いていました。

ツアー満足度

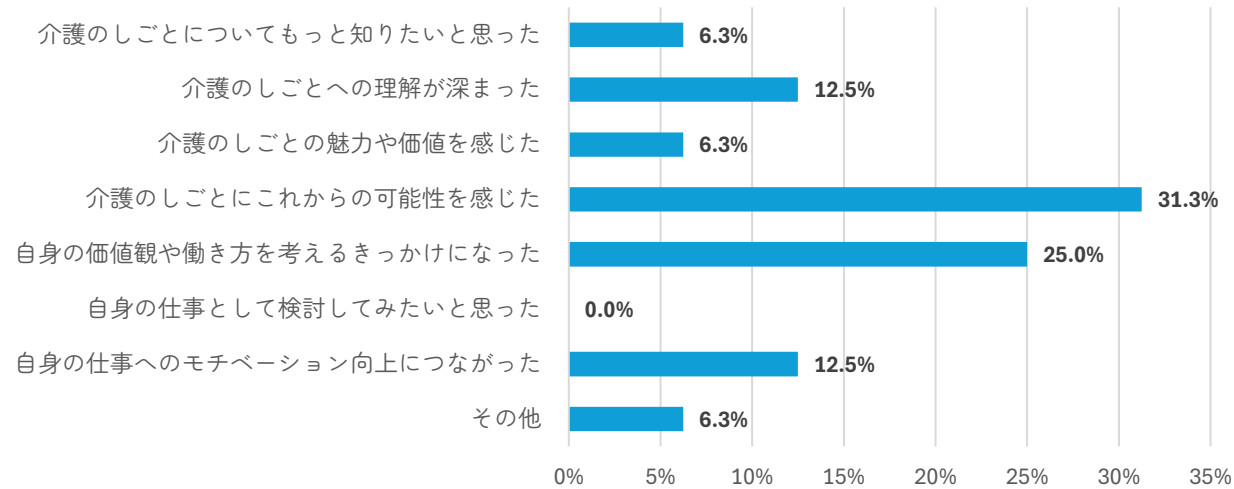


- ・ 大変参加になり、元気をもらえました。
- ・ 普段見みれない他の事業所を見れたので。
- ・ ショートで必要な物品を就労のパートナーが作るなど、サービス間での連携を仕組み化していることが参考になりました。
- ・ 施設見学の中で理念や方針に基づいて実施している事を知る事が出来た。 職員の働きがいも知る事が出来た。
- ・ 初めて誘われてなんとなく参加したが、熱い話をたくさん聞いて、とても刺激になった。
- ・ 事業の組み合わせだけでなく、福祉を手段とする対する向き合い方などを伺えたことがよかったです。
- ・ 施設見学にとどまらず、ライフの学校の取り組みや思想など様々な視点から学ぶことができました。
- ・ 訪問施設（ライフの学校）自体がとても素晴らしく、非常に良い刺激を受けました。ご案内いただいた職員さんやツアースタッフさんはもちろん、全国から集まった方とお話ができ、とても嬉しかったです。
- ・ より福祉に興味を持ちました。また自分の勉強不足も痛感したため努力していきます。
- ・ 施設を見学させていただいたり直接お話を聞く機会はなかなかないので、とても貴重な経験となりました。
- ・ 想いを伺うことができたから。実際のパートナーさんの様子を見ることができたから。
- ・ 理事長直々にフルでご案内頂けることでかなり踏み込んだ話が聴けたから。
- ・ 施設見学も田中理事長のお話も大変勉強になり、自分の仕事にとても良い刺激を得ることができました。
- ・ 資料やHPで見ただけと実際見るのとは「温度感」や「想い」の量が違った。
- ・ 共生型の面白さをイヤと言う程感じました。
- ・ 4時間以上、ずっと熱を帯びたまま色々な取り組みについて教えていただきました。庭の石ひとつとっても、そこにおいてあるものが理由や意味に接続されていると知り、誰にとってもセーフティなスペースを作るということはどうやって些細な部分まで考え抜いてようやく生まれてくるのだろうなと思いました。感動する話だけではなく、経営などシビアな部分にも触れてくださり、現場の温度感をよりリアルに知ることができました。

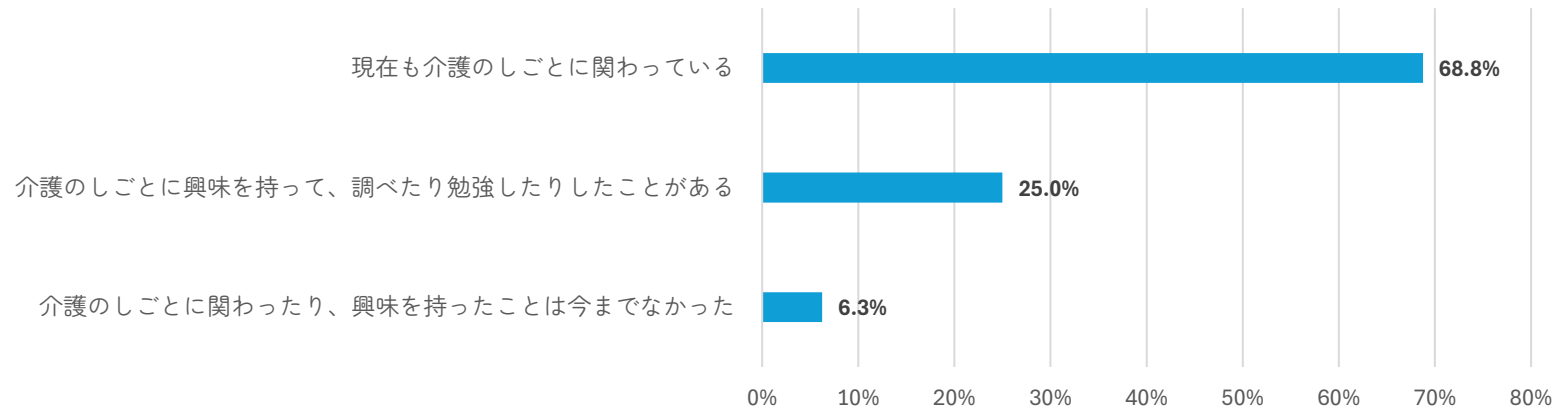
体験・交流イベント「ケアするしごとツアー」/ライフの学校

n=16

「ケアするしごとツアー」に参加して、どのように感じたか



自身の介護のしごととの関り



ご意見・感想

- とても勉強になりました。アウトプット前提でまた参加したいです。
- とても刺激になりました 今後ともよろしくお願いします。
- 今後とも色々なツアーを計画してほしいです。
- 色々な人の話や意見が聞けて、とても良い。
- 大事にしている価値観に触れながら、内容を伺えたことが良かったです。あとで色々振り返りたいと思います。
- 様々な分野や職種の方が参加されていて、色んな視点からケアについて、理解を深めることができ、他のツアーにも参加してみたくくなりました。2027年からの介護リーダーの研修にも職員と参加できればと考えています。今回、ツアーを企画して下さりありがとうございました。
- 興味深いお話を伺えたり、生き生きと生活されているパートナー（利用者）さんの様子を見学できたり、とても楽しく意義深い時間になりました。福祉に関心のある人が全国からこんなに集うということ自体にも、勇気をいただきました。ありがとうございました。また機会がありましたら参加したいです。
- 施設内の見学、貴重なお話を聞くことができとても刺激となりました。ありがとうございます。
- “ひらかれた依存関係”という言葉がとても印象的で、自分型が大切にしたいことと重なり、しっかりきました。参加して本当に良かったです。これからもケアの仕事に関心を持っていきたいです。
- 程よい人数でまわることでこの空気感が良かった。
- 良い機会をありがとうございました。
- 大変貴重な機会をありがとうございました。これからもこのような機会を作ってください。
- 2月の藤沢のに参加しようかなと思ってます。
- (社員の)教育は大切だなと感じました。

体験・交流イベント「ケアするしごとツアー」/深川えんみち

【第3回 開催概要】

深川えんみち(東京都江東区)

日時 | 2026年1月20日(火)

参加者:12名(申込:15名・キャンセル3名)

【当日のスケジュール】

13:30 深川えんみち 学童保育クラブ(2階)集合

ご案内&ひとこと自己紹介

14:00 デイサービスでのプログラムに参加 ※時間の都合上実施なし

14:30 施設見学

15:40 職員さんからのお話

16:00 質疑応答・感想共有

16:30 終了

■ 施設概要

深川えんみちは、東京都江東区にある複合型福祉施設です。
1階には高齢者のためのデイサービス、2階には学童保育クラブと子育てひろばを備え、
世代をこえて人が集まる居場所をつくっています。

放課後には子どもたちが1階のデイサービスを通して2階の学童保育クラブへと行き来し、
施設全体がにぎやかな雰囲気に包まれます。

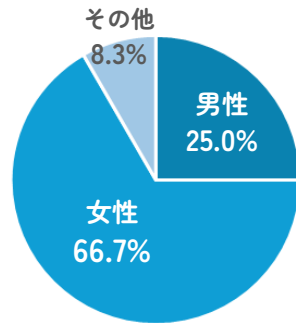
さらに私設図書館も併設されており、福祉施設と接点を持ちにくい世代や地域住民も
自然に立ち寄れる環境が整っています。



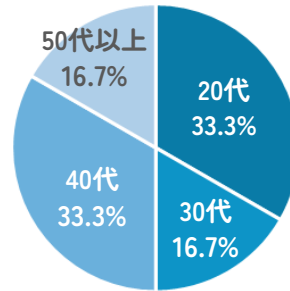
体験・交流イベント「ケアするしごとツアー」/深川えんみちアンケート結果

n=12

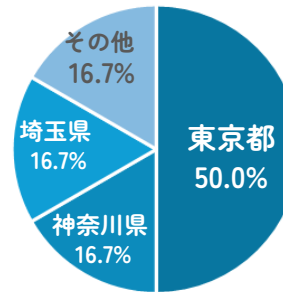
性別



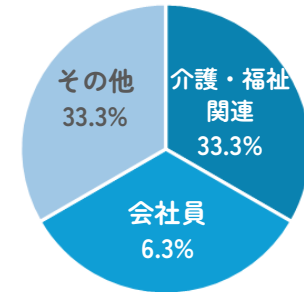
年代



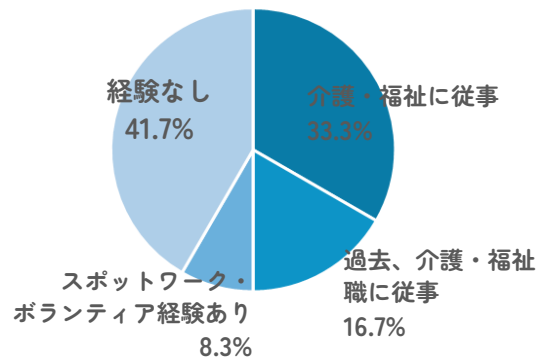
居住地



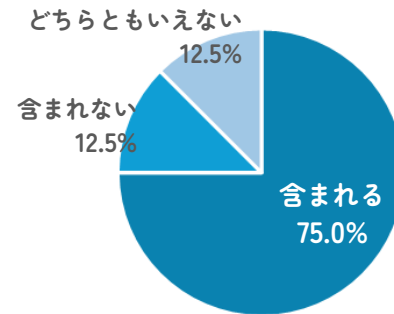
職業



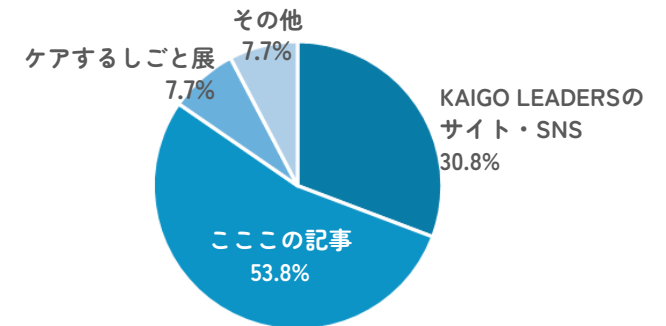
介護・福祉職に従事された経験



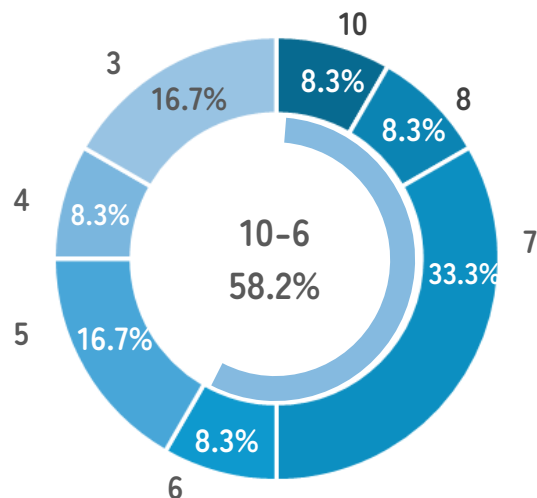
今後、就職や転職、副業といったセカンドキャリアに介護・福祉の仕事は選択肢に含まれるか
※介護・福祉関連以外の方



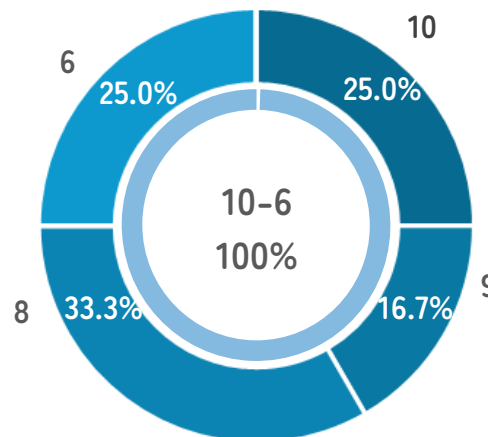
ツアーを知ったきっかけ



介護のしごとに対する印象
(ツアー参加前)



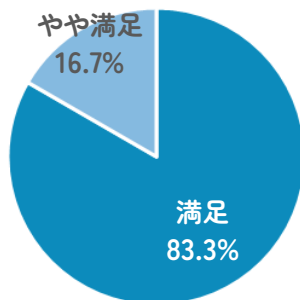
介護のしごとに対する印象
(ツアー参加後)



参加以前と印象が変わった、または変わらなかった理由

- ・ 大変というイメージが変わった
- ・ 働きやすい環境や介護だけの枠にとられない運営スタイルなど、刺激をいただきました。
- ・ 開かれた場所で、楽しそうに働いていらっしゃる方ばかりでとても良い印象です。
- ・ 介護の仕事というよりは、建築、デザインの可能性を感じた
- ・ 失礼だが、ステレオタイプなイメージでキツイ汚い暗いみたいなものを想像している節があった。えんみちは明るく賑やかで、スタッフ利用者共に生き生きとしている感じがかった。もちろん今回のツアーでは楽しい部分だけ見せてもらったとは思うが、ポジティブな面がここまであるのかと想像を上回った。
- ・ 介護は大変という印象でしたが、複合施設の良さと金属年数の長い方が多かった点が働きやすいのではと印象が変わりました。
- ・ 機能的な設備があると働きやすさにつながるのかなと思いました。
- ・ わたしが有料老人ホームしか介護の現場を知らないことも大きいと思いますが、開放的な空間で、誰の鳴き声も、大きな声もしないのが不思議で、聞こえてくる声子ども声やいろんな音で、ここは本当に介護施設なのかなって思えるくらいにあったかい空気がありました。
- ・ 介護の世界はどうしても閉鎖的になりがちですが、実際取り組まれている姿を拝見し、自分の世界が広がりました。少しずつ、何か自分にも出来る事で関わっていただけたいいな、と考えるきっかけをいただきました。
- ・ 印象は変わりませんが環境によって介護職がここまで広く社会的に活躍できることを思いました。
- ・ こういう横断的に人とかがわりながら働ける環境もあるんだなと初めて知って印象が変わりました。
- ・ 1社目の施設見学で比較対象がなかったため
- ・ これだけ働いている方が明るく楽しそうに仕事をされているのがわかった。

ツアー満足度

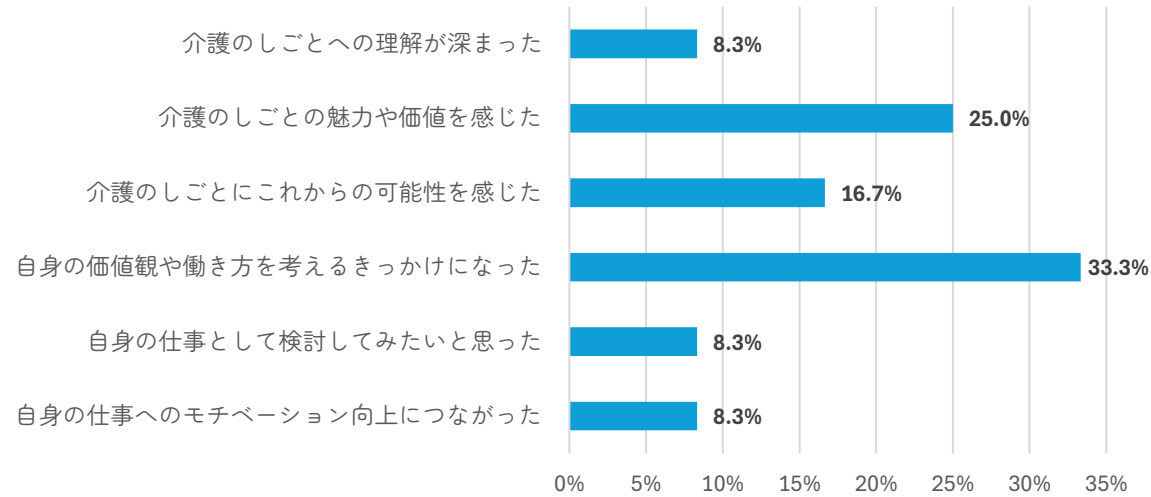


- 今までにない施設だったので。
- 普段見ることのできない先進的な施設の見学をすることで、改めて刺激を受けることができました。
- なにか「体験」もできる時間があればもっと嬉しかったです。
- 大人数を受け入れていただき説明もしていただいたので。
- 施設をたっぷり案内してもらい、福祉現場の解像度を上げる目的を達成できたため。実際に利用者の方がいるタイミングにおじゃまできたこともよかった。
- 現場にきて分かることが多く勉強になりました。
- いろいろなことを考えられて作られた施設の魅力をしっかりみたり、聞いたりすることができました。
- すごく素敵な施設だなと感動しました。建物へのこだわりのお話から、いろんな方々の力で成り立っている深川えんみちに驚いたし、行動を起こして運営をしているみなさんが本当に素敵でした。
- 今回深川えんみちのツアーに参加させていただき、取り組みの素晴らしさを実際に感じることでできました。お子さん達が地域で見守られているような安心や、ご利用者さんも様々な方々との交流で、日常の延長に近い形で過ごせる事等、改めて多世代共生、交流の大切さを感じました。又、契約者だけでなく、いかに地域とのつながりを作っていくか、その取り組みにもとても感銘を受けました。
- やはり実際に拝見し、お話を伺わないとわからないんだということが判りました。
- しっかり見学と説明の時間を取っていただけて、施設の表面的な部分だけでなくスタッフさんの感じていらっしゃることや具体的事例まで知ることができ大変勉強になりました。
- 14:00からデイサービスレク体験(プログラム体験)があると書いていた記憶があったがなかったため。
- 実感と伴った具体的な説明をしてくださったので。

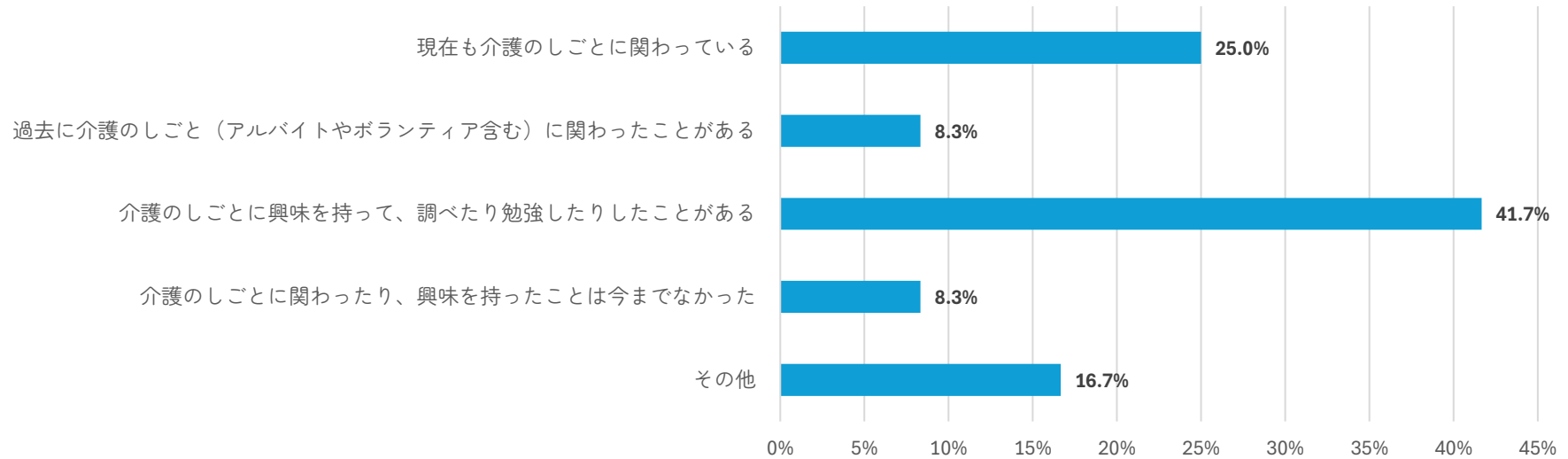
体験・交流イベント「ケアするしごとツアー」/深川えんみちアンケート結果

n=12

「ケアするしごとツアー」に参加して、どのように感じたか



自身の介護のしごととの関り



体験・交流イベント「ケアするしごとツアー」/深川えんみちアンケート結果

ご意見・感想

- なかなか、介護や福祉の業界にいないと内部などがわからないので、いい機会となりました。
- あっという間の施設見学の時間になりました。運営者としての気になる点は多々ありましたが、介護スタッフとして施設見学をさせていただくことで、心地よさを感じる時間になりました。介護に関わっていない方が介護の魅力に少しでも触れていただくツアーになっていたら嬉しいです。
- 体験型に特化したタイプのものの提供もぜひご検討いただきたいです。
- 素晴らしい取り組みなので、これからも続けて下さい。
- 運営ありがとうございました！
- いろいろな施設を巡ることで、福祉、介護の仕事がどのような環境なのかイメージしやすくなってきました。次回も楽しみです。
- 介護は大変というイメージですが、深川えんみちさんはスタッフや利用者さまもなたもが楽しく利用できている印象でした。新たな介護の様子を発見できました。ありがとうございました。
- 参加して本当によかったです。もっと皆さんともお話ししてみたかったです。介護士の仕事は心も身体も大変で、自分のことが嫌いになりそうで辞めてしまいましたが、ここで働いてみたい、ここでの過ごし方をもっと知りたいって思いました。
- 心地良い和やかな雰囲気に参加でき、良かったです。沢山の気づきや学びをいただき、ありがとうございました。又、機会がありましたら、ぜひ参加させていただきたいです。どうもありがとうございました。
- 大変学ばされまして、スタッフの皆さま誠にありがとうございました！これだけ多くの方々がかかわることの経過を見せて頂き、ただ自身のこれからの活かさせていただきたく思います。
- 広島、東京と参加させていただき、ありがとうございました。実際に現場をスタッフの方々に説明していただきながら見て勉強できる機会はなかなかないので、大変ありがたかったです。仕事につなげられるようがんばりたいと思います。
- 施設は世の中いろいろあるし、多様化共生の特殊な例を見られてよかったです。貴重な機会ありがとうございました。
- 国の事業として、ケアに従事する方の具体的なことを開いていくことを継続してほしい。今日は本当にありがとうございました！

【第4回 開催概要】

シニアライフセラピー研究所(神奈川県藤沢市)

日時 | 2026年2月11日(水・祝)

参加者:13名

【当日のスケジュール】

10:30 見学・体験

- ・福祉コミュニティカフェ亀吉(障害者就労支援施設)
- ・カルチャースクール亀吉(介護保険デイ・共生型生活介護)
- ・パン遊房亀吉(就労継続B)

12:00 昼食

12:45 代表鈴木さんからのお話

13:15 質疑応答・感想共有

14:00 終了

■ 施設概要

NPO法人シニアライフセラピー研究所は、知恵者であるシニアの人生経験を活かし、地域福祉の向上を目指して活動を続けています。

「ないものは共に創る」をモットーに、就労支援やデイサービス、子ども食堂、傾聴ボランティア育成、農福連携、海外支援など、多彩な取り組みを展開しています。

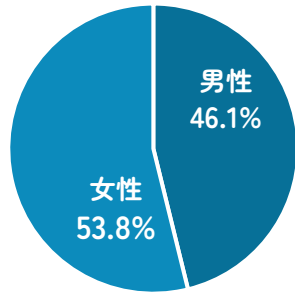
神奈川県藤沢市の鵜沼海岸では、デイサービスの利用者が調理を担うカフェレストラン〈かめキッチン〉をはじめ、天然酵母のパンを販売する〈パン遊房亀吉〉、さまざまな習い事を楽しめるコミュニティスペースなど、介護の領域を超えて地域の誰もが楽しめる場を生み出しています。



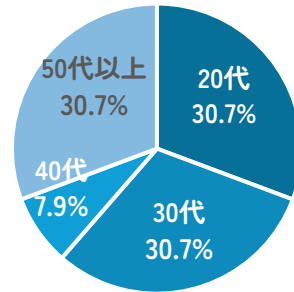
体験・交流イベント「ケアするしごとツアー」/シニアライフセラピー研究所アンケート結果

n=13

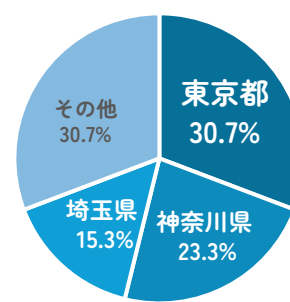
性別



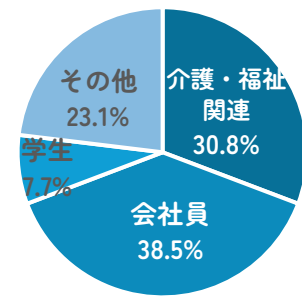
年代



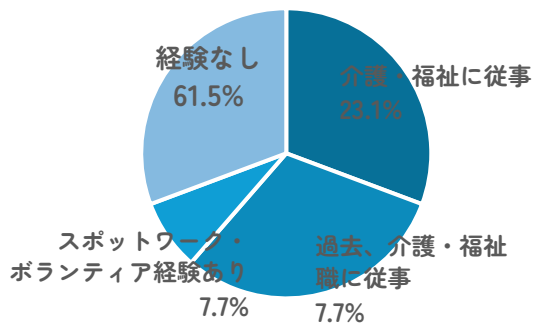
居住地



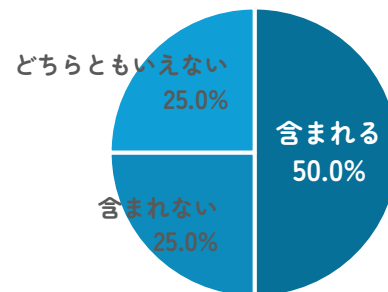
職業



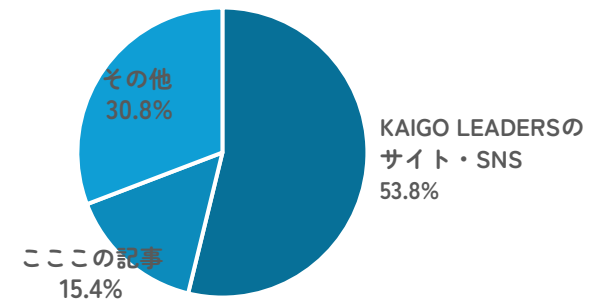
介護・福祉職に従事された経験



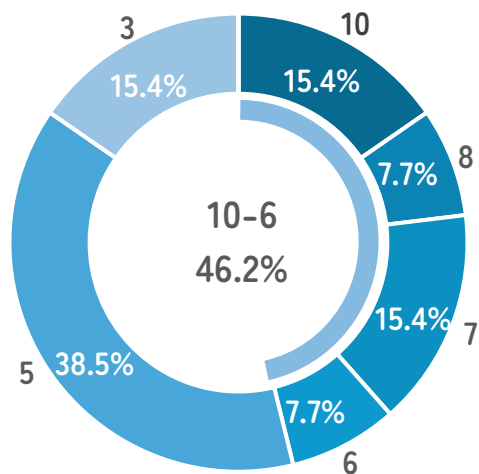
今後、就職や転職、副業といったセカンドキャリアに介護・福祉の仕事は選択肢に含まれるか
※介護・福祉関連以外の方



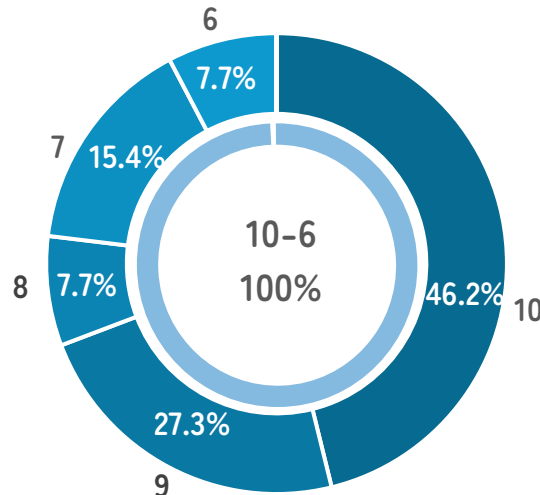
ツアーを知ったきっかけ



介護のしごとに対する印象
(ツアー参加前)



介護のしごとに対する印象
(ツアー参加後)

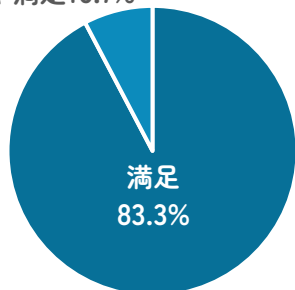


参加以前と印象が変わった、または変わらなかった理由

- 個人的には介護の現場の仕事に引き続きあまりポジティブな印象はない。
- 一般的に言われている介護に違和感があったのですが、今回のツアーはわたしの理想に近くより専門知識を学びたいと思いました。
- 将来、自分がデイサービスに通うことになったとき、こんなデイサービスに通いたいと思ったから。
- 印象は変わりました。仕組みやルールを確立しながら、ここまで利用者の自主性を重んじることができるやり方を取られてることに驚きもあり、新鮮でした。
- これまでと大きく変わったのは介護の前提です。見立て＝解釈を変えるということがこれほど関わり方に大きく影響するという事に驚きました。介護は一方向的な関係性に見えて双方向であることが実は一番重要なことだと感じました。
- 仕事も含め、色んなコミュニティの形があることを実際に拝見でき、気持ちが明るくなりました。
- 自分と同じ考えの人がいることが、頑張ろと思えた。
- 何が介護の仕事なのか、自分の定義がゆさぶられました。
- もっと制度的な枠組みの中でしかサービスできない印象でしたが、その先入観を変えさせられました。
- 福祉現場での「仕方ないから」と制限をしていくことへのネガティブなイメージがガラッと変わったというか、制限ないように気をつけるとかではなくもはや根本的にみんながやりたいことをみんなで作っていくという発想に、新たな視点を発見しました。
- 自分の施設でも利用者に参加してもらいたいが無理だという意識もぬぐえなかった
- 介護という言葉から感じることは反対の自由さや柔軟さを感じた。魅力的に思いました。
- 職員が大変な仕事とっていました。それがみんなが幸せになる仕事と思うようになりました。

ツアー満足度

やや満足16.7%

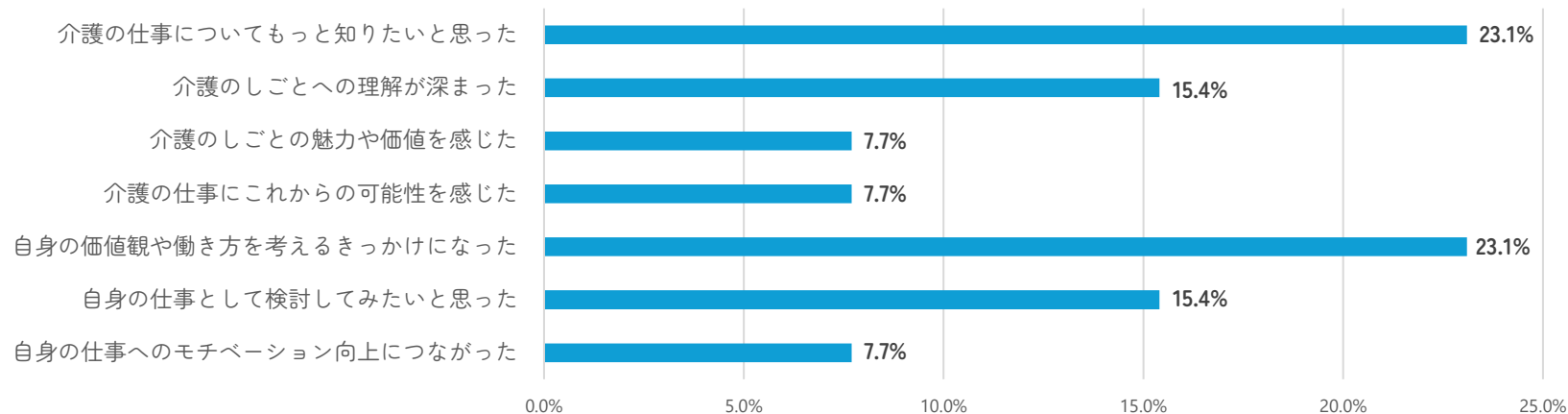


- ・ 地域に根ざした非常に面白い活動。ガチローカルって感じ。ツアーの時に声が聞こえづらかった点、講演の際に深掘りがあまりできなかった点が少し残念ポイント。
- ・ 福祉の仕事につくにあたってイメージが具体的になりました。
- ・ 今までにないデイサービス、就労支援施設のかたちをみることができました。地域との繋がりが希薄になっていく昨今ですが、子ども会も活性化していて、素敵だと思いました。
- ・ 普段は接点が少ないサービス、業種業態について知ることができ、非常に勉強になった。
- ・ 利用者さんとの距離も近く、たくさんコミュニケーションをとることができました。普段の様子や空気感を肌で感じることで良い体験でした。
- ・ 実際の取り組みを見せていただき、又、色々とお話をお伺いできて、新しい価値観や自分の常識を考えるきっかけをいただきました。利用者さんが生き生きされている姿、ダンスを披露してくださった事にも感動しました。
- ・ 肌で雰囲気を感じられた。ソフト面、ハード面、人。
- ・ 想像をはるかに超える事業展開をされていて驚きました！介護というよりも“地域”の中でどうあるかが考え抜かれていて面白かったし、こういう所が欲しいとなりました。
- ・ ごちゃまぜ市場は、人生初めての場を体験して良い経験になりました。
- ・ 裏側のような所に入らせていただき利用者さんから説明を聞いたり職員さんもボランティアさんも利用者さんもわからないまま一緒にお昼を食べたり色々な人の楽しそうな姿を短時間だけれど入り込んで見れたから
- ・ とても刺激になった。
- ・ 去年の3月に退職をして(保育士)そろそろしごとしたいなあ、福祉モード入れたいなあと友人に急に誘ってもらい参加したのですが、エネルギーがすごかったです。反対に優しさもはんばなく感じ働きたいモードになれました。
- ・ 鈴木さんの講演がとても勉強になりました。当初は介護現場の課題、職員様が大変なことを学ぶつもりでした。そうではなく利用者様の力を引き出して運営するという逆転の発想に驚かされました。

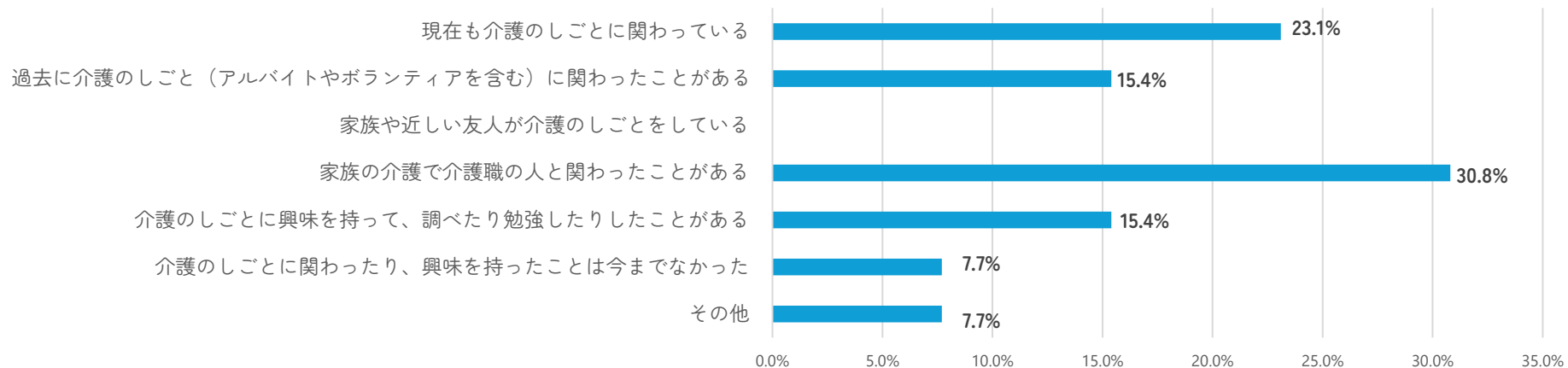
体験・交流イベント「ケアするしごとツアー」/シニアライフセラピー研究所アンケート結果

n=13

「ケアするしごとツアー」に参加して、どのように感じたか



自身の介護のしごととの関り



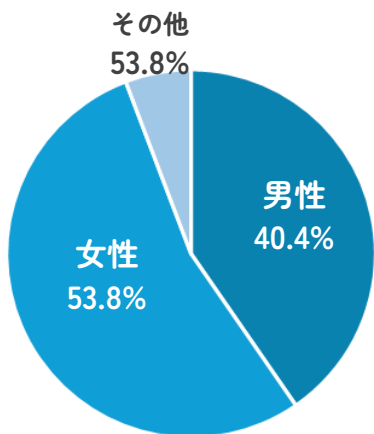
ご意見・感想

- ディスカッションの時間やもっと深める時間があった方がいいかも？
- 想像もしていなかった、介護や福祉を知ることができ、福祉に関わることが楽しみになりました。ありがとうございます。
- 集まった方々の素敵なお話し、お考え、理事長の気さくなお人柄にも直接触れることができてよかったです。参加させていただきましてありがとうございました。
- 見学した場所の感想になってしまいますが、朝に近所のスーパーで買い物して(仕入)、デイサービスでつくった食事(製造)を、隣に卸して(流通)、お客さんに販売する(小売)というコンパクトなサプライチェーンが確立されてるのが大変興味深かったです。
- 2回参加しましたが、どちらも別種の学びがありました。「介護、福祉について」だけではなく、自分の明日からの生き方につながる学びも多く、いろいろな領域に応用できる新たな視点を獲得できた気がします。
- 前回に引き続き、素晴らしい学びや発見の機会をいただけて本当に感謝です。どうもありがとうございました。
- 濃い時間でした。お弁当屋さんを目指すのではなく、みんなが輝ける"手段"がお弁当屋さんただだけ。だからこそ生産性を目指していないし、みんながやりたいことや挑戦したいことができる雰囲気、環境なんだと思った。介護をやっているのですが、介護もあくまで手段で、利用者が幸せになるのが目的なのに、介護するのが目的化しているのが現状。介護職という専門性という名の管理者的な価値観を変えるには、、、スタッフから外すという選択もあるというのは面白いなと思った。ただ、介護職は今後必要になるばかりなので、鈴木さんとは違うやり方を自分なりにもっと模索して頑張りたいと思います！お弁当作りをしている障害者と言われるスタッフ達、甘やかさないでちゃんと厳しくすることが大事と聞いて障害者とか認知症とか関係なく、ちゃんと働きにきてる"人"として接していることが大事なのだなと思った。介護をしている時も利用者さんと関係性ができる時は必ず介護職としてではなくて、ただ、人と人と向き合った時だったなと振り返りができました。
- スゴクよかったです！ちょっと特殊な場所だとは思うのですが、わくわくしました。
- 実際に体験してわかる事があり、このような機会を頂いてありがとうございます。
- 「やらなきゃ」を感じさせない考え方の軸を知ることができた。もうちょっと長くてもいいかもと思うくらい楽しくてあっという間でした。ありがとうございます。
- 楽しめました。ありがとうございました。
- 初めての参加でしたが、とても勉強になりました。利用者さんの働いている姿がとても自信があって、こういう施設が全国にたくさんできるといいなあと思いました。
- 大変勉強になりました。ありがとうございました。

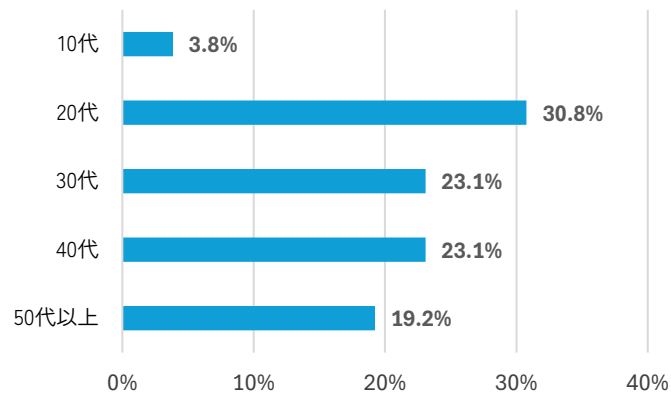
ケアするしごとツアー|参加者アンケート (全4回まとめ)

n=52

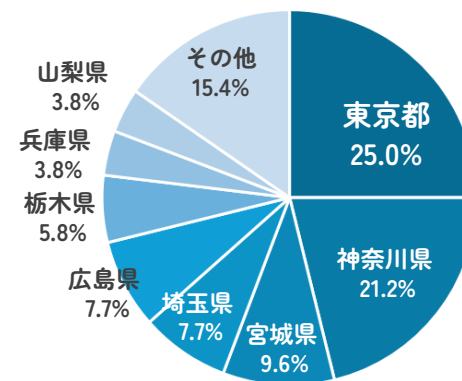
■ 年代



■ 年代

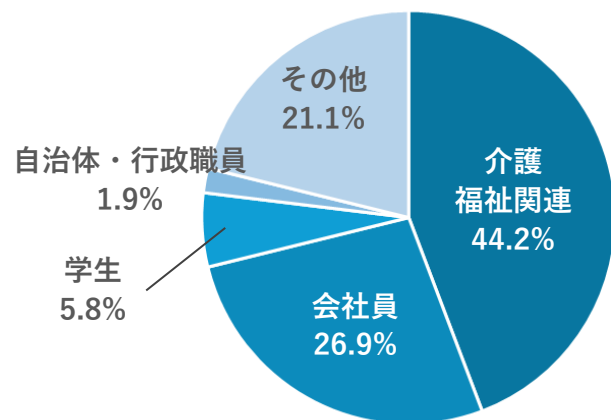


■ 居住

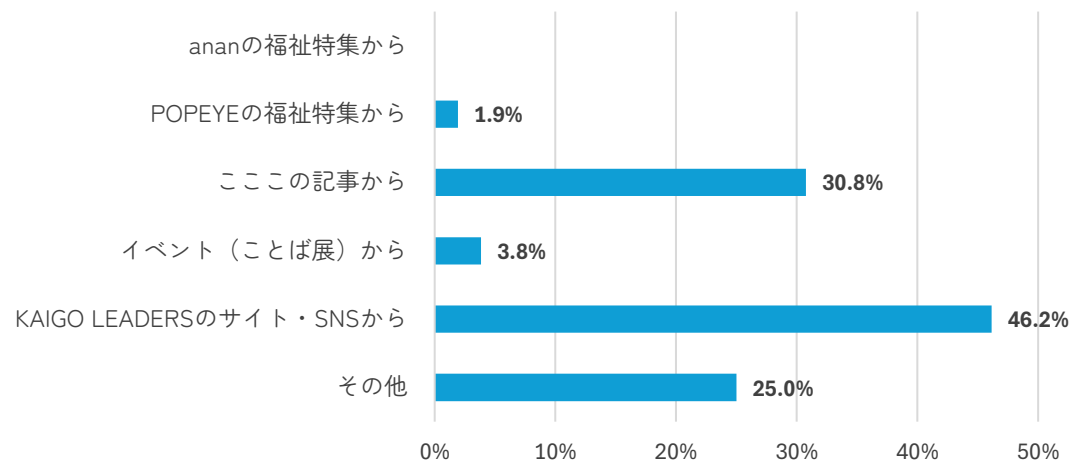


- [その他]
- ・ 福島県
 - ・ 富山県
 - ・ 千葉県
 - ・ 静岡県
 - ・ 京都府
 - ・ 大分県
 - ・ 福岡県
 - ・ 沖縄県

■ 職業



■ ツアーを知ったきっかけ

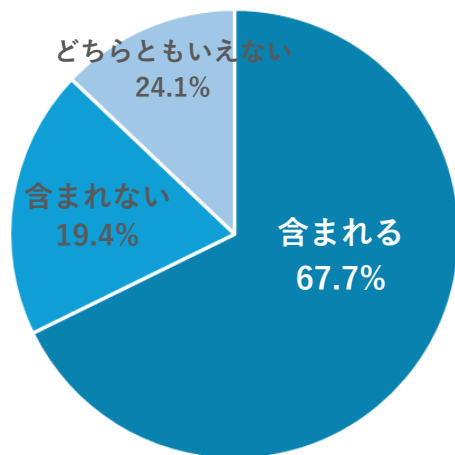


ケアするしごとツアー|参加者アンケート（全4回まとめ）

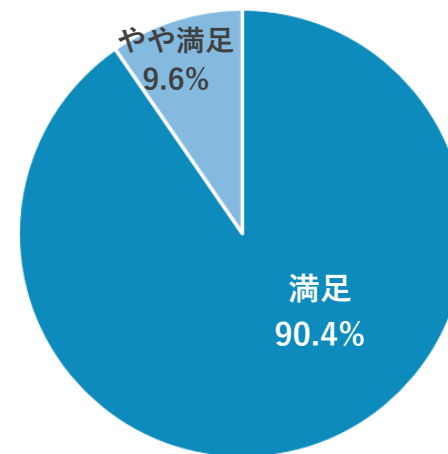
n=52

■ 介護・福祉の仕事は選択肢に含まれるか

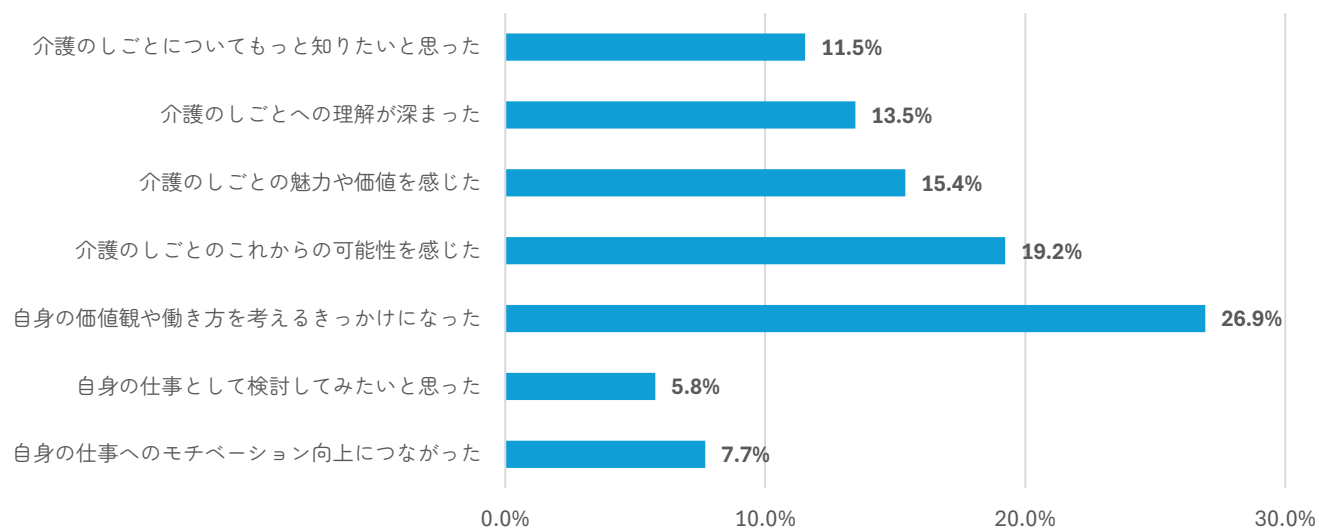
※ 介護職以外の方n=31



■ 満足度

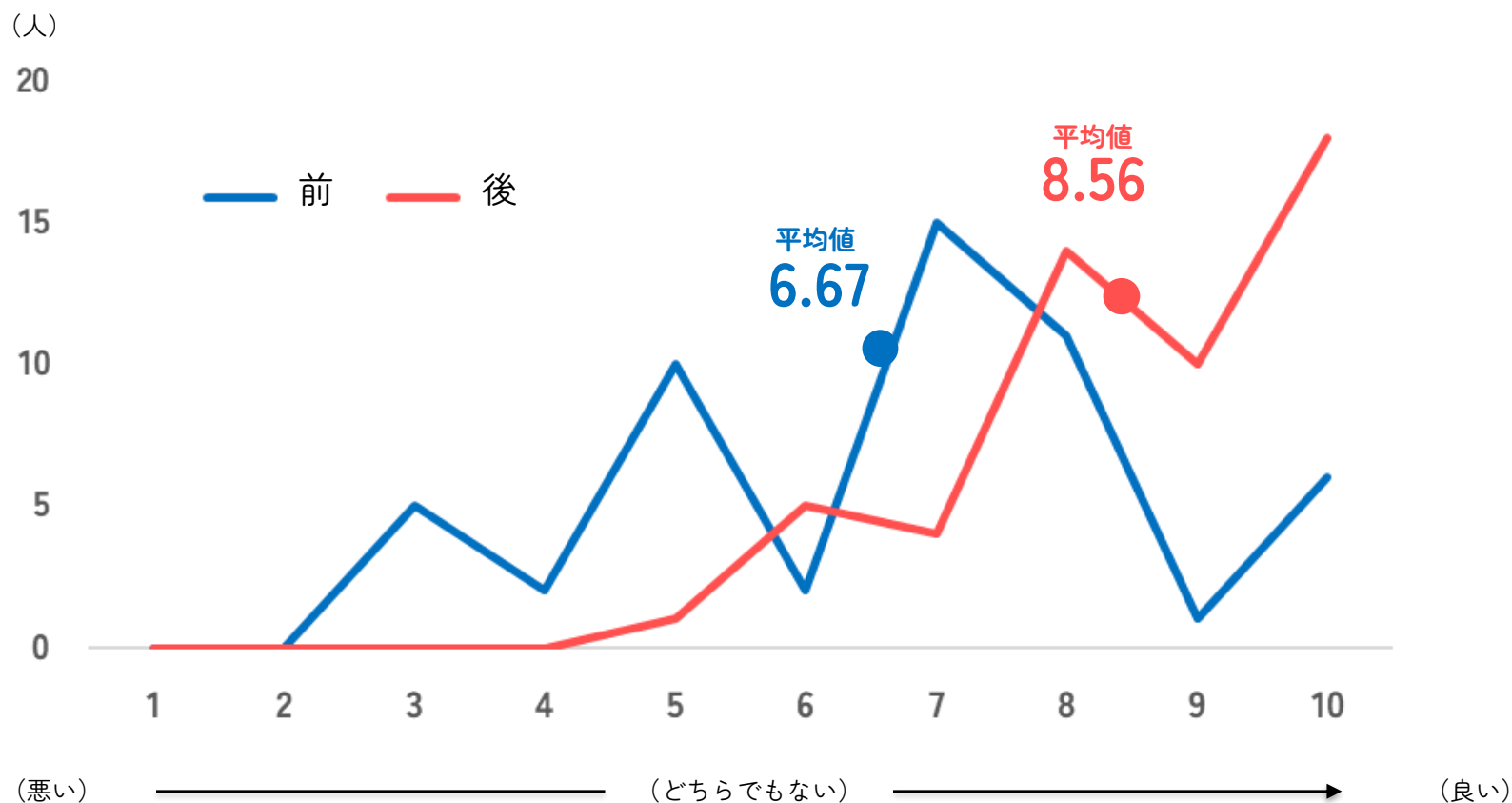


■ ツアーに参加してどのように感じましたか



ケアするしごとツアーアンケート結果

「ケアするしごとツアー」に参加いただく「前」と「後」の介護のしごとに対する印象



ケアするしごとツアーに参加いただくことで、**1.89p**のイメージUP（態度変容）につながった。

プレスリリース配信

1回目：2025年10月16日

PV数：1,194

転載数：26

11月11日は介護の日。“ケア”を知り、楽しむ3週間「ケアリングノーベンバー2025」開催！ マガジンハウスも一部コラボ企画で参画

2025年11月11日（水）～11月29日（土）、東京・下北沢「BONUS TRACK」にて開催。広場でのマーケット、体験型イベント、トーク、ブックフェアなど、ケアを知り、楽しむ企画がもりだくさん！

株式会社マガジンハウス
2025年10月16日 12時10分

株式会社マガジンハウス（以下マガジンハウス、本社：東京都中央区、代表取締役社長：鉄尾周一）は、2025年11月11日に開催する「BONUS TRACK」（東京・下北沢）のイベント「ケアリングノーベンバー2025」に一部共催として参画します。

ケアリングノーベンバー2025とマガジンハウスのコラボ企画では、「ことば」と「暮らし」をテーマにした体験型展示や、「若い」にまつわる演劇ワークショップ、VR技術を活用した認知症体験などを開催。介護やケアに関わるトピックを知り、「介護のしごと」の魅力を広く発信する機会を目指します。

約3週間に渡り「ケア」にまつわるユニークな企画が開催されるイベントです。ぜひお越しください！

■「ケアリングノーベンバー2025」について

11月11日は介護の日。“ケア”を知り、楽しむ3週間

セルフケア、だれかへのケア、介護や福祉の仕事、ケア視点のある本や商品。“ケア”は、わたしたちの暮らしの延長線上にあります。毎年11月、BONUS TRACKでは「ケアリングノーベンバー」と題して、“ケア”イベントを開催します。展示、広場でのマーケット、体験型イベント、トーク、ブックフェアなど、ケアについて知ることでできるコンテンツがもりだくさん。11月はケアしよう。

2回目：2025年11月11日

PV数：679

転載数：56

マガジンハウス、介護のしごこの魅力発信プロジェクトを始動。「介護」をテーマにしたスペシャルブック発行。「ケア」をテーマにした体験型展示やイベント、職場ツアーなども開催！

「fanaru」「POPEYE」「こここ」3メディアが連携。2025年11月11日「介護の日」からBONUS TRACK（東京・下北沢）にてイベント開催。全国の施設をたずねる「ケアするしごとツアー」も。

株式会社マガジンハウス
2025年11月11日 12時00分

「fanaru」「POPEYE」「こここ」スペシャルブック表紙（POPEYE側）

株式会社マガジンハウス（以下マガジンハウス、本社：東京都中央区、代表取締役社長：鉄尾周一）は、介護のしごこの魅力発信を行うプロジェクトを始動しました。

プロジェクトに参加するのは、女性向けワークマガジン「fanaru」、シティーボーイのためのファッション&カルチャー誌「POPEYE」、福祉をたずねるウェブマガジン「こここ」の3メディア。それぞれの読者に合わせた企画で、「自分らしく生きる」を支える介護職にまつわる魅力を発信していきます。

マガジンハウスならではの企画で、多彩なプログラムを展開！

本プロジェクトでは、「fanaru」（2025年10月8日発売号）、「POPEYE」（2025年10月9日発売号）の特集を皮切りに、ウェブマガジン「こここ」での連載、「ケアリングノーベンバー2025」とのコラボ企画、全国の介護施設をたずねる「ケアするしごとツアー」、介護のしごこを紹介する小学生向け冊子の普及事業など、多彩なプログラムを展開します。また、「fanaru」×「POPEYE」×「こここ」合同のスペシャルブックも発行し、全国で配布します。

※本プロジェクトは、厚生労働省補助事業「令和7年度介護のしごと魅力発信等事業（情報発信事業）」の一環として実施しています。（実施主体：株式会社マガジンハウス）

【お知らせ】紙媒体1

3回目：2026年3月27日

PV数：235

転載数：33

福祉や社会の仕組みを考える「読書会」を開催しませんか？ マガジンハウス（こここ）がイベント運営ツールを無料公開！

ハンドブック「幸せに生きるって、どういうこと？ 知っておきたい介護のしくみと仕事」（幸せ本）を普及するプロジェクト

株式会社マガジンハウス
2026年3月27日 09時00分

株式会社マガジンハウス（本社：東京都中央区、代表取締役社長：鉄尾周一）は、オンラインで福祉にまつわる読書会（通称「幸せ本 読書会」）を開催するための運営ツールをウェブマガジン（こここ）で無料公開しました。ケアや社会福祉に関心のある方、子どもとともに学びたい方など、どなたでもご利用いただけます。ぜひご活用ください。

「幸せ本 読書会」開催のための運営ツールを無料公開

マガジンハウスのウェブメディア「福祉をたずねるクリエイティブマガジン（こここ）」では昨年度、ハンドブック「幸せに生きるって、どういうこと？ 知っておきたい介護のしくみと仕事」（愛称「幸せ本」）を制作し、デジタルアートを公開しました。

・ハンドブック「幸せに生きるって、どういうこと？ 知っておきたい介護のしくみと仕事」（PDF）

今年度は「幸せ本」普及のためのプロジェクト（※）を立ち上げ、活動のひとつとして2025年12月にオンライン読書会を実施しました。今回の運営ツール公開は、その際の「進行スライド」を改良し、「読書会イベント告知文見本」とともに無料公開することで、どなたでも「幸せ本 読書会」をひらくことができるようにサポートする試みです。

※本プロジェクトは、厚生労働省補助事業「令和7年度介護のしごと魅力発信等事業（情報発信事業）」の一環として実施しています

事業効果測定

No	事業名	当初想定・目標	アウトプット		内容	アウトカム	
			指標	結果		測定方法	主な測定結果
1	anan特集「自分の存在が価値になる。個性を活かせる介護のしごと。」	・anan発行部数(2025年10月8日発売号) 147,000部 ・anan web PV合計数 45,000PV	anan発行部数 anan web PV合計数	発行部数 158,958部 32,771PV	読者が福祉・介護そのものや介護の仕事に興味・関心を持つきっかけを作ること。	読者アンケート 変容率 記事購読前後の印象平均値 (指標とする設問⑩特集記事)を読む前と読んだ後の介護のしごとに対する印象。(10段階評価)	変容率: 0.5p UP 企画委員コメント アンケートも丁寧な記述が目立つ。ユーザーに刺さっているからこそ返答も濃くなっているのではないかと。介護職の人々が誇りを持たれる部分ももうひとつの効果として無視できないのでは。社会に波及していくことで仕事を続ける後押しになるのではないかと。
2	POPEYE特集「介護の仕事のことをちゃんと知ってみたいか?」	・POPEYE発行部数(2025年10月9日発売号)75,000部 ・POPEYE web PV合計数 45,000PV ・Instagram動画再生数 45万再生	POPEYE発行部数 POPEYE web PV合計数 Instagram動画再生数(3回)	発行部数 75,667部 18,490PV 再生数 60.3万回	読者が福祉・介護そのものや介護の仕事に興味・関心を持つきっかけを作ること。	読者アンケート 変容率 記事購読前後の印象平均値 (指標とする設問⑩特集記事)を読む前と読んだ後の介護のしごとに対する印象。(10段階評価)	変容率: 0.51p UP 企画委員コメント 介護のしごとを伝えるうえで非常に有効なのは。企画が想定していたユーザーにしっかりリーチしたのでは。アンケートは長文の方も多く、しっかり刺さった証ではないかと。福祉の仕事に、カジュアルに触れられる機会をつくれるのはマガジンハウス事業の大きな価値では。事前に想定されていたジャーニー通りに行動変容が起きていた。
3	anan×POPEYE×こここオリジナル冊子作成	・展示イベント、参加型イベント、介護職発信事業者様イベント、自治体様等での冊子配布数5,000部 ・全国書店での冊子配布数10,000部	ことば展、トークイベント等での冊子配布数 首都圏を中心に全国書店(31店舗)での冊子配布数 自治体、介護職発信事業者様等への配布	2,500部 10,000部 1,500部	読者が福祉・介護そのものや介護の仕事に興味・関心を持つきっかけを作ること。	会場・イベント配布数 配布書店数 関係団体等への配布	・介護の日に合わせたイベント会場にて合本2,500部を配布。 ・本取組みに対して31書店での合本配布を実現。 ・介護職発信事業者様のイベントやご希望頂いた自治体様等へ配布。
4	展示会「わたしの暮らしをノックする」とば展	来場者数 8,000名	会場への来場者数	来場者数 約6,300名	イベントに参加した人が介護の仕事の意義・魅力についての理解を深め、より強い関心を持つようになる。	イベント来場者アンケート トークイベント参加者アンケート	・展示会の接触前後での「介護のしごとに対する印象」を10段階で選択する方式で測定。接触後は接触前に比べて、平均値が1.33上昇した。
5	こここ連載「自分らしく生きるを支えるしごと～介護の世界を訪ねて～」	・こここWeb8記事・新連載4合計 80,000PV～ 100,000PV	こここweb PV合計数	115,000PV 9,766PV 合計 124,766PV	読者が福祉・介護そのものや介護の仕事に興味・関心を持つきっかけを作ること。	読者アンケート ※連載、新連載合計 変容率	変容率: 1.50p UP
6	こここ新連載「ケアするしごと、はじめの一步」	・こここWeb8記事・新連載4合計 80,000PV～ 100,000PV	こここweb PV合計数	115,000PV 9,766PV 合計 124,766PV	読者が福祉・介護そのものや介護の仕事に興味・関心を持つきっかけを作ること。	読者アンケート ※連載、新連載合計 変容率	変容率:1.50p UP
7	小学生向け冊子制作「幸せに生きるってどうのこと?知っておきたい「介護」のしくみと仕事」	冊子活用ニユアル 閲覧数	閲覧数	・こここ: 588PV ・楽天ポータルサイト: 288PV	読者が福祉・介護そのものや介護の仕事に興味・関心を持つきっかけを作ること。	冊子活用マニュアル利用意向	100% (とてもそう思う 71.4%そう思う 28.6%)
8	ケアするしごとツアー	参加者数 全4回: 45名	参加者数	全4回: 53名	ツアーに参加した人が介護の仕事の意義・魅力についての理解を深め、より強い関心を持つようになる。	ツアー参加者アンケート 変容率	ツアー参加前後での「介護のしごとに対する印象」を10段階で選択する方式で測定。参加後は参加前に比べて、平均値が1.89上昇した。

総括

本年度、マガジンハウス「令和7年度介護のしごと魅力発信等事業」（全国へ向けた情報発信事業）は、前年度までの成果と課題を検証し、また、企画委員会、若手企画委員会からの意見等を得ながら事業を実施しました。

情報発信事業のメインの対象を、20代から30代の介護職無（未）関心層に置き、「興味喚起」から「理解促進」へ、さらに「情報取得」へと広報活動の戦略を設計して、事業を展開。

併せて、より若い世代である小学生向けに、社会（自分自身の身近なところで）「介護」があり、それに従事する介護職があることを知ってもらう活動も継続しました。

若い世代への興味喚起アクションとして、20代から30代の若年層に支持される雑誌メディア「anan」、「POPEYE」での本誌8ページの特集と、ウェブ記事各3記事を展開。

この記事はここが制作する4ページも加え、20ページの冊子を制作。全国書店配布1万部、他に5000部を制作しイベント配布、介護職発信事業への提供、自治体、団体への提供を行いました。

また、雑誌に直接触れない層へのアプローチも意識して、POPEYEで介護現場で働く若手職員のショート動画も配信し、多くの視聴を得ました。

他に、興味喚起のアクションとしては、散歩社が開催する「ケアリングノーベンバー2025」において、anan×POPEYE×こここ（マガジンハウス）のオリジナル企画を展開。展示イベント「わたしの暮らし」をノックすることば展」、トークイベント「向坂くじら×吉田真一「セルフケアは矛盾をはらんでいる？」」、演劇ワークショップ「演劇を通して相手の世界を想像する。OiBokkeShiによる老いと演劇のワークショップ」、VR認知症体験「私をどうするのですか？」等を実施、開催しました。下北沢BONUS TRACKで19日間開催し約7,000名が来場。小田急電鉄等の協力も得て、広報活動を行うなど、立体的な広報活動を展開しました。

興味喚起から理解促進のアクションとしては、福祉をテーマにしたメディア「こここ」で介護のしごとのリアルな姿、そこにある科学的、医学的、人間的アプローチでのやりがい、クリエイティビティ、楽しさを伝える「自分らしく生きる」を支えるしごと」連載を昨年度に続き、継続。今年度8記事を配信しました。今年度の記事は約13,000PV～19,000PV程度が読まれ、また、昨年度制作した25記事もアーカイブしておりこちらも今年度各記事3,000～8,000PV程度のアクセスがあり、ソーシャルな活動に興味を持ちながら介護職への関心にはまだ届いていない無関心若年層への興味喚起に加え、理解促進の役割を担うことができました。この記事は今後もアーカイブしていきます。

また、こここでは介護のしごとの具体的情報等の提供も行うため、新たに「ケアするしごと、はじめの一步」4記事を配信。介護職発信事業の告知、レポート、本事業で実施したプログラムのより詳細な発信等を、各記事3,000～5,000PVというスコアで情報提供を行いました。

興味喚起、理解促進、情報取得と態度変容を促しながら、それに応える取り組みとして、昨年度に続き「ケアするしごとツアー」全4回を実施しました。リアルに介護職の魅力ややりがい、条件等に触れる機会を作り、広報活動を展開することで、参加者の多くに介護職へのイメージや興味の態度変容が見られ、こうした立体的取り組みによる広報効果の拡大を行うことができました。

事業間連携、特に介護職発信事業との連携取り組みとしては、合同冊子の中に、介護職発信事業のコラム掲載やイベントでの各団体の情報掲示のスペース提供、こここ連載での告知記事、レポート記事の発信等を通して、それぞれの事業の効果拡大を図る取り組みも行いました。

総括

また、今年度、もう一つの継続的取り組みとして、昨年度制作した職業選択を行う世代以前の小学生とその保護者、教員に向けた理解促進ツール「幸せに生きるって、どういうこと？ 知っておきたい「介護」のしくみと仕事」（24ページ冊子、PDFで利用可能）を活用した、大人向け読書会を開催しました。狙いとしては、小学生向け冊子をまず大人が理解し、自分ごと化し、それを起点に対象である子どもたちに伝えていく展開を試行。それを実施マニュアル化し、告知方法等の提供も行い、今後、自主的な開催を促して行く予定です。

メディアでの発信、SNSでの記事拡散、イベントの告知やレポート、リリースでの全国発信等、多角的、立体的に広報活動を展開し、事業計画で想定した目標値を全体としては上回る成果を上げることができました。

一方で課題としては、リアルな場での態度変容を促す広報活動を全体的には戦略的に行うことができたが、その母数の拡大、広報効果の最大化は引き続きの課題と認識しています。

興味喚起→理解促進→情報取得→入職行動の促進という広報戦略をより緻密に、そして、より最大化するために、アウトプット、アウトカムの計測方法も検討しながら、事業設計を行なっていく予定です。

私たちマガジンハウスはメディア運営のスキル、クリエイター・著名人とのネットワークを活かし、多くの読者と出会い、共感を軸につなぎ、一定の影響を持つチームです。私たちが、福祉・介護の現場で優れた実践を行っている事業者や専門家と連携しながら、福祉・介護のしごとの魅力にこれまで出会っていなかった多くの人々と発信を通して出会い、つなぎ、福祉・介護のしごとへの理解や従事の第一歩をつくる事業を引き続き展開してまいります。